

台東区都市計画マスターplan  
中間のまとめ  
(案)

台東区  
都市づくり部  
都市計画課

## 第1章 台東区都市計画マスタープランとは

1 都市計画マスタープラン策定の背景と目的.....	1-2
2 都市計画マスタープランの位置付け .....	1-3
3 計画期間.....	1-3
4 都市計画マスタープランの構成.....	1-4

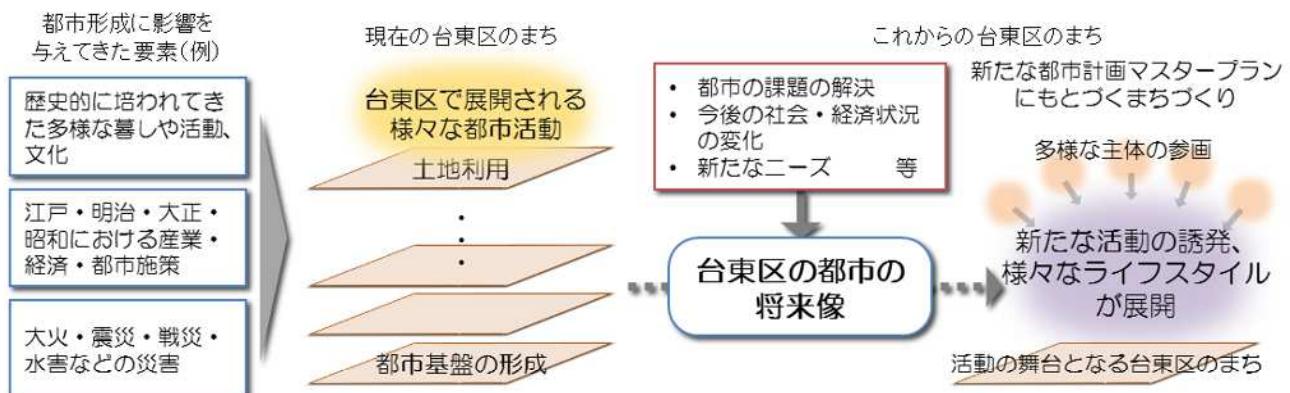
## 1 台東区都市計画マスタープランの策定の背景と目的

台東区は、江戸期のまちをベースにしつつも、時代の変化や災害からの復興をきっかけに都市基盤の整備などが進み、まちの姿が変化してきた。第二次世界大戦後は社会・経済状況に対応した諸機能の集積が進むとともに、都市施設等も整備され現在の都市が形成されてきた。

土地利用状況の変化、産業構造の変化、国際化の進展など台東区を取り巻く社会状況の変化や都市計画マスタープラン策定から1年以上が経過し、関連計画の改定などによる施策の変化、また、将来的には人口減少・高齢化などの全国的な潮流も台東区も無縁ではなく、環境・エネルギー問題への取組み、暮らしの安全・安心の充実、多様な価値観・生活様式などに対応していくことも求められている。さらに、今後は（人工知能）、自動運転技術、エネルギー・環境技術などの技術革新が進み、人々の暮らしや都市活動にも影響を与えることが想定される。

このため、社会・経済状況の変化、時代のニーズや様々な課題等に対応し、長期的な視点で区の将来都市像とその実現に向けた大きな道筋を明確にすることにより、区民をはじめ多様な主体でまちづくりに総合的・一体的に取組んでいくための、新たな都市計画マスタープランの策定を行う。

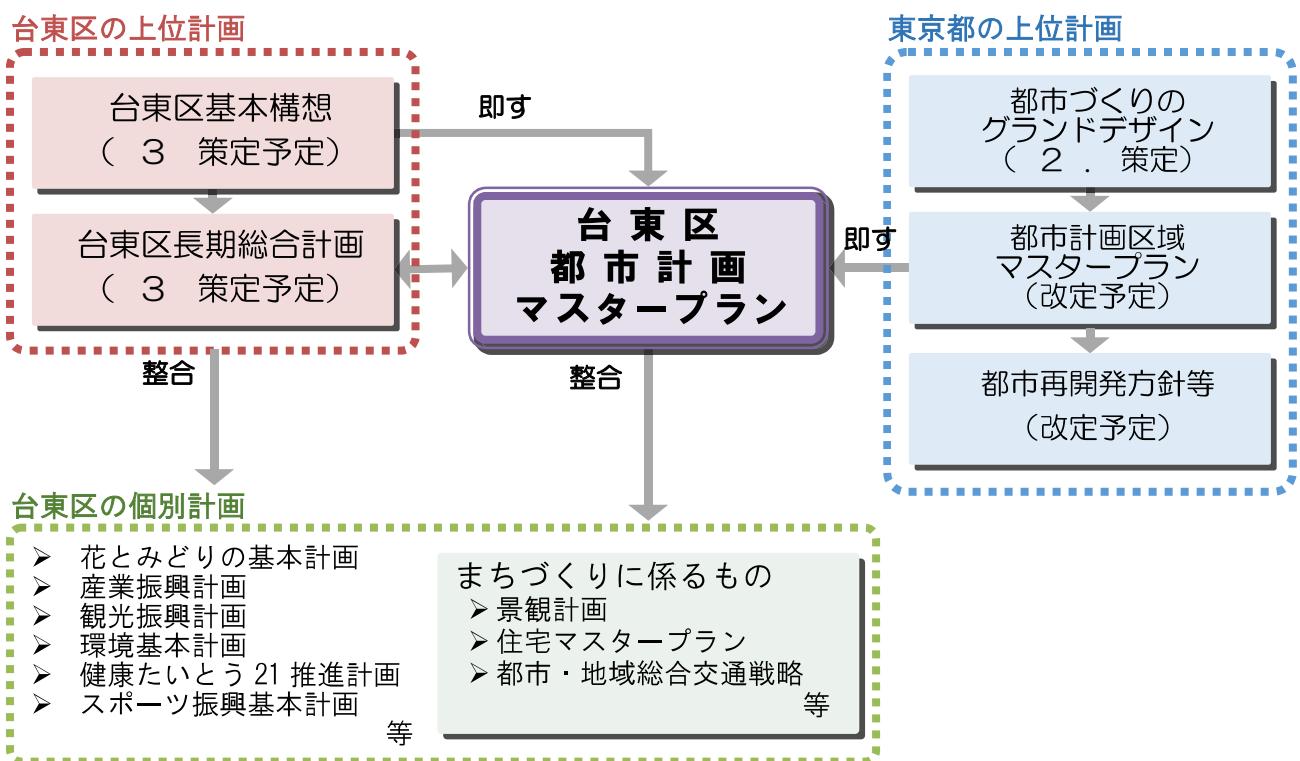
台東区都市計画マスタープランは、台東区のまちの将来像を示す都市づくりのビジョンと、その実現に向けた台東区の都市計画に関する基本方針となるものである。



## 2 台東区都市計画マスターplanの位置づけ

台東区都市計画マスターplanは、都市計画法第1条の2に定められた、「市町村の都市計画に関する基本的な方針」として策定するものである。平成3年に策定された台東区基本構想を最上位計画として、また東京都の都市計画の計画にも即し、その他区の関連計画と連携し策定する。

都市計画マスターplanと関連計画との関係

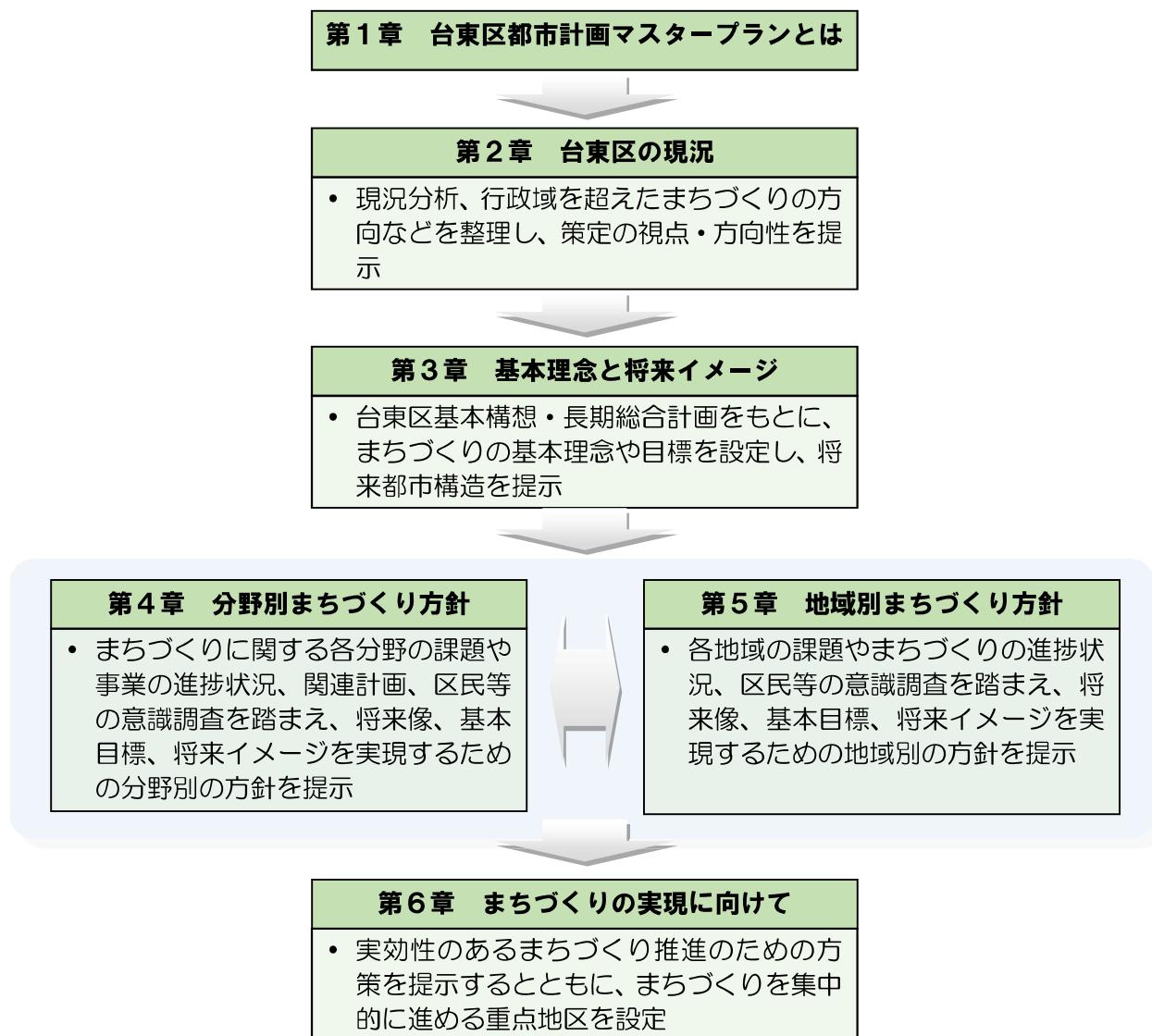


## 3 計画期間

計画期間は20年間とし、社会経済状況の変化に対応するため、策定後10年経過を目途に検証を行う。

## 4 台東区都市計画マスタープランの構成

台東区都市計画マスタープランは、以下の内容により構成される。



## 第2章 台東区の現況

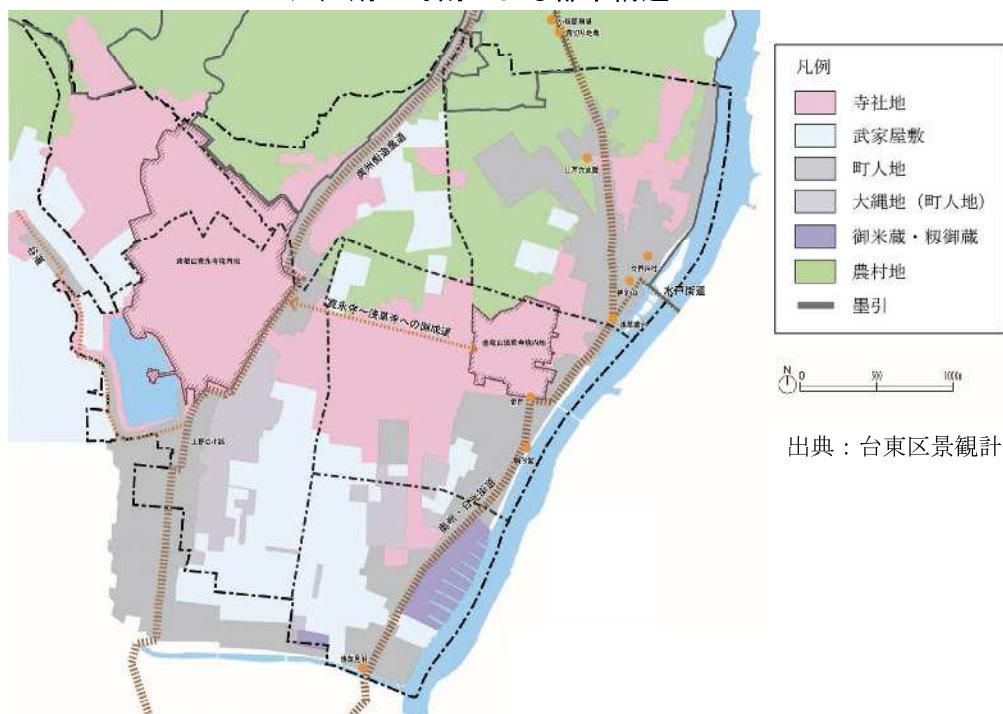
1 台東区の都市の成り立ち・変遷.....	2-1
2 ひとの動向.....	2-4
3 まちの動向.....	2-6
4 台東区の広域的な位置付け.....	2-10

## 1 都市の成り立ち・変遷

### (1) 江戸時代まで

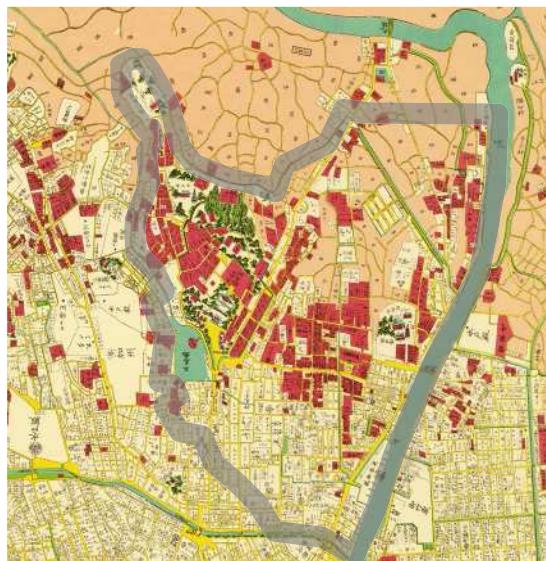
- 上野台地では一万年以上前から人が生活していたが、低地部は東京湾に面した湿地であり、市街地として形成されたのは江戸期以降である。
- 江戸城下の都市部、郊外部の境界部分にあたり、都市性と自然性を併せ持つ市街地を形成してきた。大名屋敷は南部に、北部には主に町人地や寺社地が配された。
- 徳川家康が五街道を整備し、奥州街道、日光街道沿いが栄えた。
- 武士や町人など多様な人々の交流によりまちが発展し、繁華街などが形成されてきた。大火により、まちが焼失してもそのたびにまちは再生した。

江戸期の町割による都市構造



出典：台東区景観計画

江戸期の台東区  
(安政 年)



出典：江戸圖 安政（国際日本文化研究センター所蔵）に区境の情報を取り入れた

下谷広小路（安政 年）

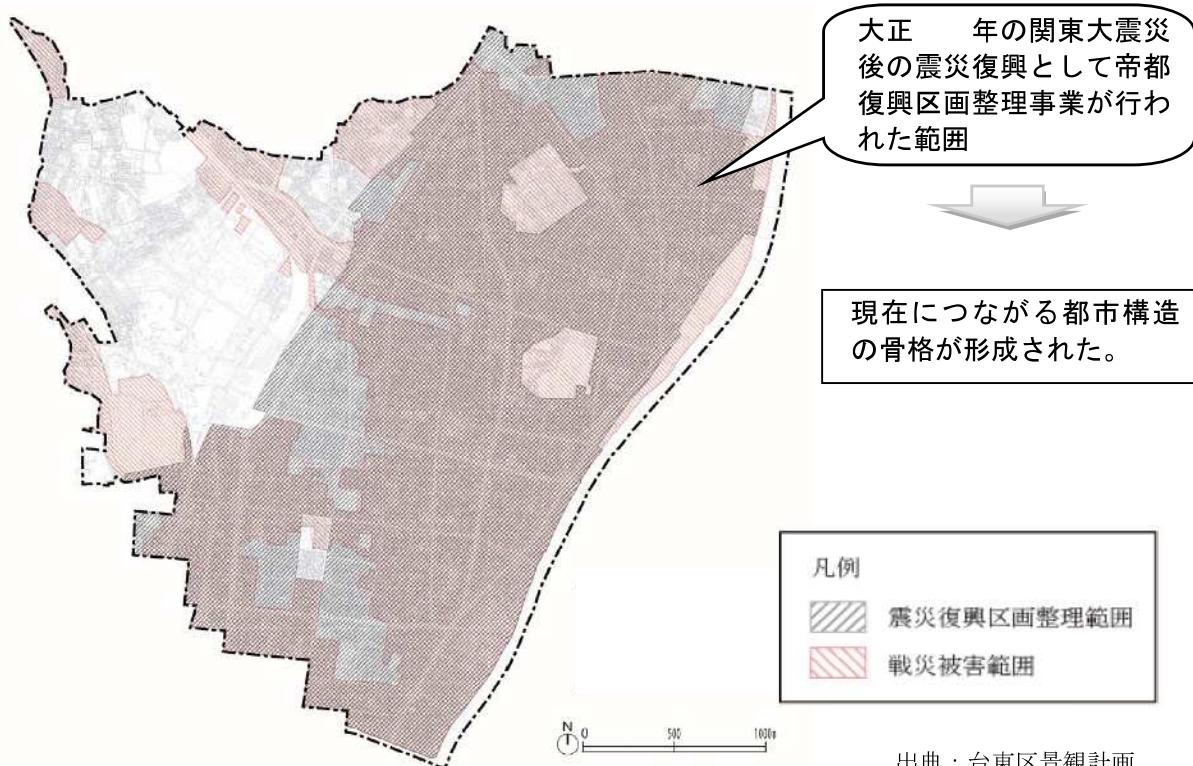


出典：東都下谷繪圖（国際日本文化研究センター所蔵）

## (2) 明治時代以降

- ・ 関東大震災後の震災復興区画整理事業により、江戸期の道を活かしながら延焼遮断帯として道路などの都市基盤施設が整備され、その骨格が現在にも引き継がれている。震災により古い街並みの大半は失われたが、北西部は被害を免れた地区があり、当時の風情を残している。
- ・ 第二次世界大戦による戦災の復興と戦後の経済成長により、まちの姿は大きく変化したが、歴史や伝統的文化を活かしながら個性的な台東のまちが培われ、現在にも息づいている。

震災復興区画整理、戦災被害範囲重ね図



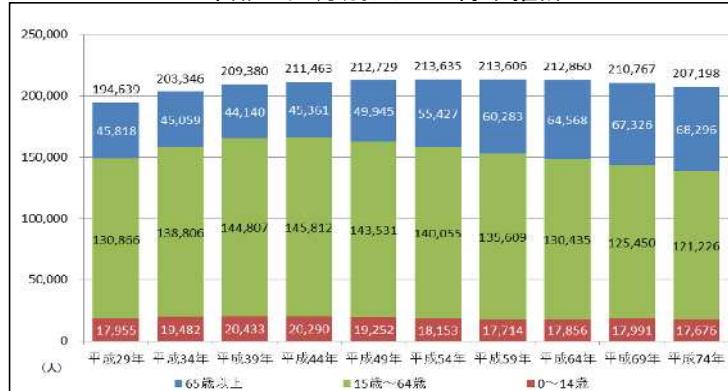
出典：台東区景観計画

## 2 ひとの動向

### (1) 住む人・働く人・訪れる人の動向

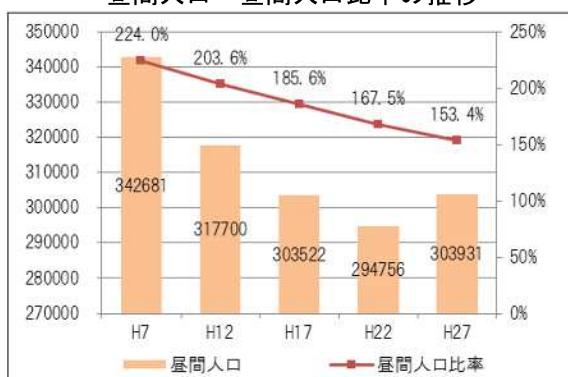
- 人口は平成50年代まで増加傾向であり、将来的には少子高齢化が進む推計である。
- 雇用比率は減少傾向であり、区内に在住し就業する人の割合も減少している。
- 台東区へ通勤・通学で訪れる人は減少し、観光・買い物等で訪れる人が増加している。
- 観光客数は年々増加しており、外国人観光客数も大きく増加している。

年齢3区分別人口の将来推計



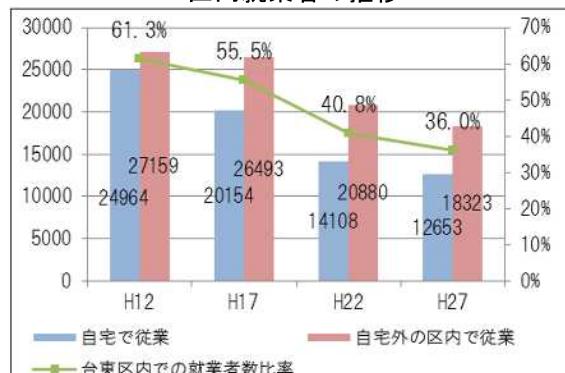
出典：台東区基本構想策定とともになう人口推計調査

雇用人口・雇用人口比率の推移



出典：国勢調査より作成

区内常住の 働く歳以上就業者に占める  
区内就業者の推移



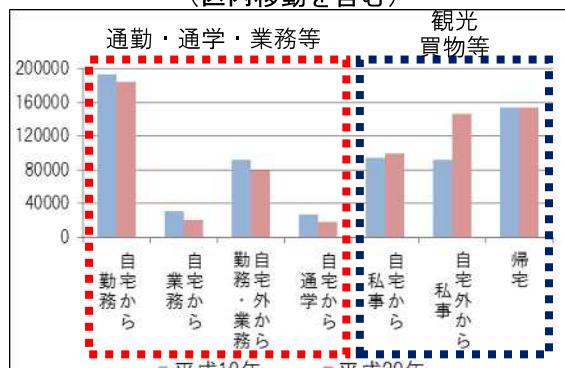
出典：国勢調査より作成

年間観光客数の推移



出典：台東区観光統計・マーケティング調査より作成

目的別台東区へ訪れる人員数の推移  
(区内移動を含む)

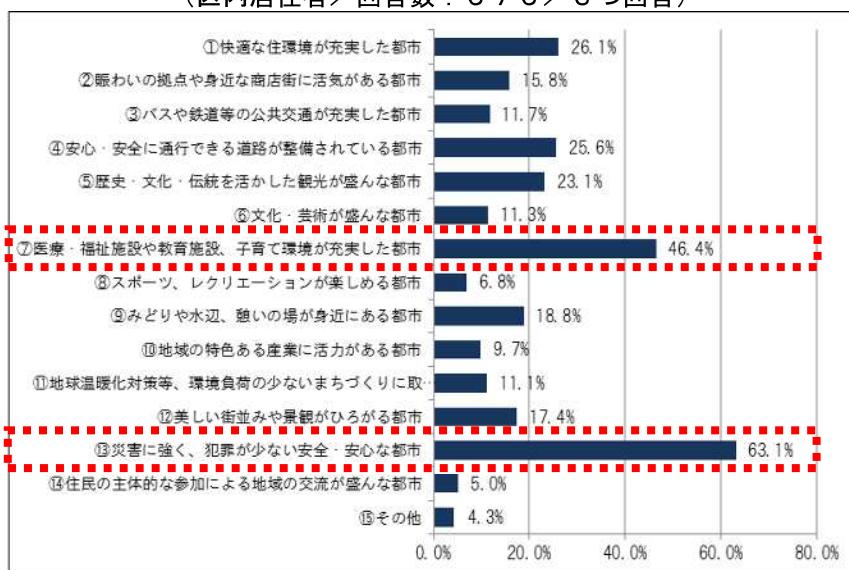


出典：都市圏パーソントリップ調査より作成

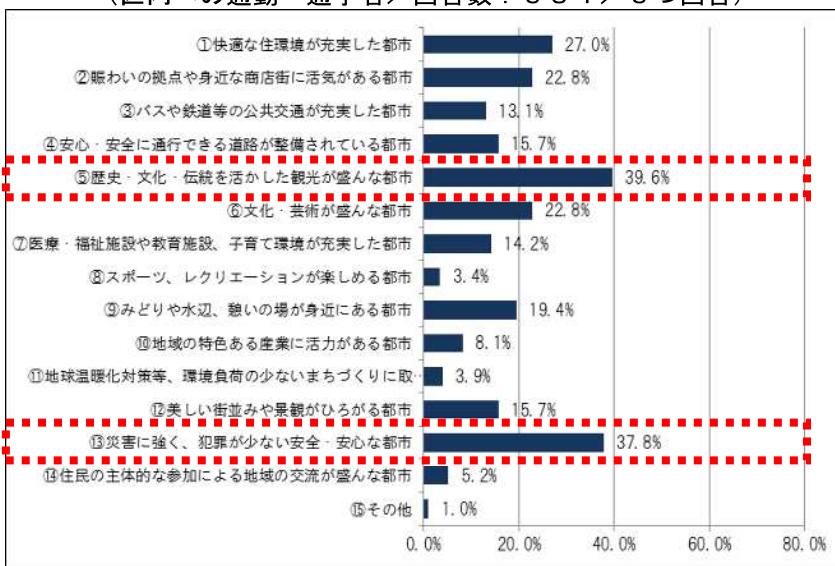
## (2) まちへの意識

- 区内居住者及び区内への通勤・通学者を対象とした、台東区が今後どのような方向に発展するのが望ましいかというアンケート調査において、区内居住者・区内への通勤・通学者ともに「災害に強く犯罪が少ない安全・安心な都市」と回答した人が多かった。
- 同アンケートにおいて区内居住者については、「医療・福祉や教育施設、子育て環境が充実した都市」、区内への通勤・通学者については「歴史・文化・伝統を活かした観光が盛んな都市」と回答した人が多かった。

台東区の将来都市像に関する調査結果  
(質問項目：台東区のまちづくりは今後どのような方向に発展するのが望ましいか)  
(区内居住者／回答数：575／3つ回答)



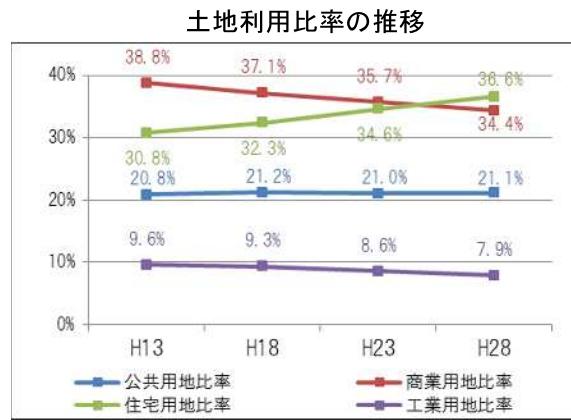
台東区の将来都市像に関する調査結果  
(質問項目：台東区のまちづくりは今後どのような方向に発展するのが望ましいか)  
(区内への通勤・通学者／回答数：381／3つ回答)



### 3 まちの動向

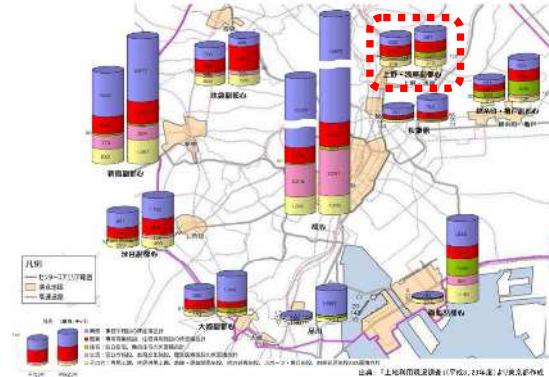
#### (1) 土地利用

- 土地利用比率は住居系が増加、商業系が減少しており、平成28年度には両者の土地利用比率が逆転した。
- 上野・浅草は都内の他の拠点に比べ床面積の増加が少なく、機能の集積が低い。



出典：東京都土地利用現況調査より作成

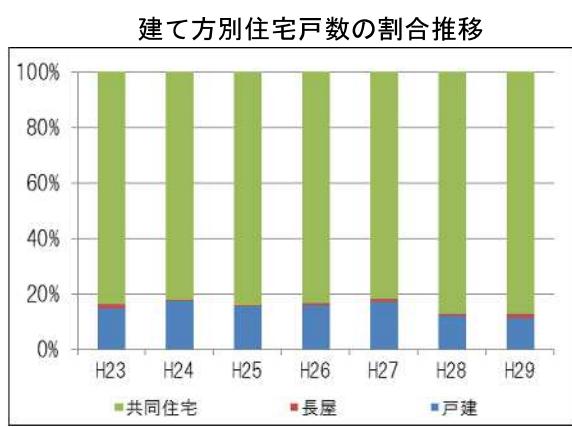
#### 都内における拠点の機能集積の推移



出典：東京都都市計画審議会第1回都市づくり  
調査特別委員会資料（平成27年）

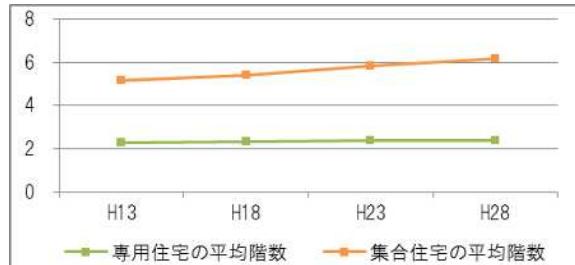
#### (2) 生活・住宅

- 近年の住宅供給は、共同住宅によるものが主流である。
- 専用住宅の平均階数・平均敷地面積は減少傾向にあり、集合住宅の平均階数・平均敷地面積は増加傾向にある。



出典：住宅着工統計調査より作成

#### 住宅系建物の平均階数の推移



#### 住宅系建物の平均敷地面積の推移



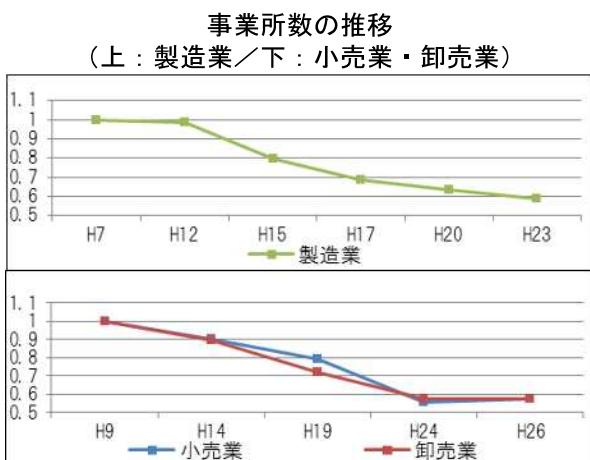
出典：東京都土地利用現況調査より作成

### (3) 文化・産業・観光

- 上野や浅草をはじめ、区内各地に多様かつ多くの文化資源が分布している。
- 事業所数は減少傾向にある。
- 事業所を業種別にみると、卸売業、宿泊業・飲食サービス業、小売業が多い。
- 宿泊施設の客室数は年々増加している。



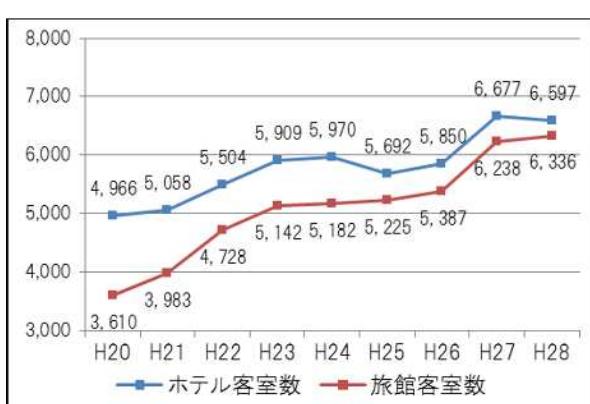
出典：たいとう文化発信プログラム



出典：(仮称) 台東区産業振興計画策定のための実態調査報告書より作成



出典：平成26年度経済センサスより作成



出典：東京都福祉・衛生統計年報より作成

#### (4) みどり・環境

- 上野公園や浅草寺周辺、隅田公園等のまとまったみどりがあるが、市街地でのみどりは少ない。
- 近年、二酸化炭素排出量は減少傾向にあり、特に民生部門が減少している。

台東区の緑被地分布



出典：台東区緑の実態調査

台東区の部門別二酸化炭素排出量の推移

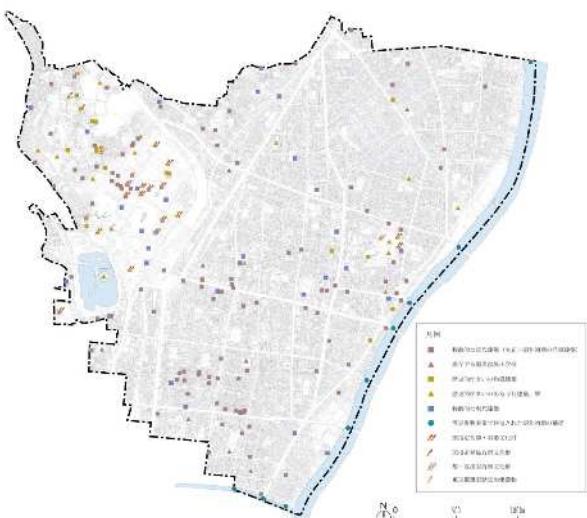


出典：オール東京　市区町村共同事業  
「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」  
より作成

#### (5) 景観

- 多様な景観資源が区内の各地に分布している。
- 国立西洋美術館が世界文化遺産に登録され、周辺地域における街並みの調和が求められている。

歴史的建造物分布図



出典：台東区景観計画

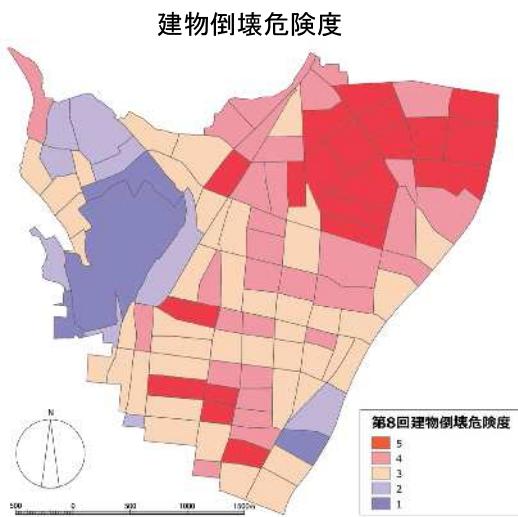
国立西洋美術館



@国立西洋美術館

## (6) 防災

- 区の北部地域を中心に、建物倒壊危険度が高く、南部にも一部高い地域がある。
- 荒川や神田川、高潮等による水害の可能性が懸念される。



## (7) 道路・交通

- 都市計画道路の整備率は 0%を超える、幹線道路の整備が進んでいる。
- 全体的に交通の利便性が高いが、一部鉄道の利用圏域外の地域がある。

都市計画道路の整備状況

進捗状況	延長	割合
事業完了	m	80.6%
事業中	m*	%
未着手 (現道あり)	m	%
未着手 (現道なし)	m	%
合計	m*	%

出典：台東区都市づくりのための基礎資料



出典：台東区都市づくりのための基礎資料

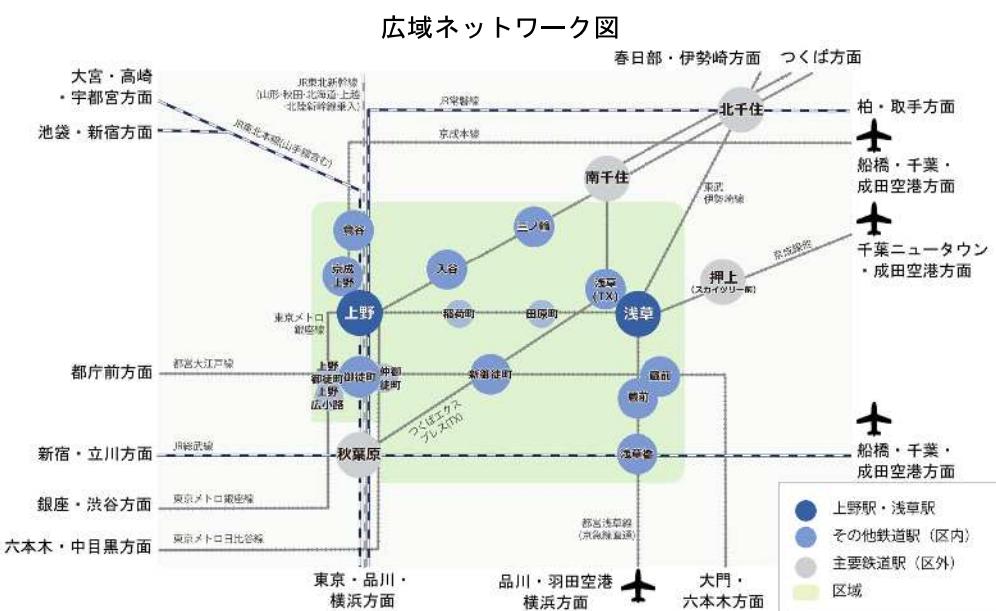
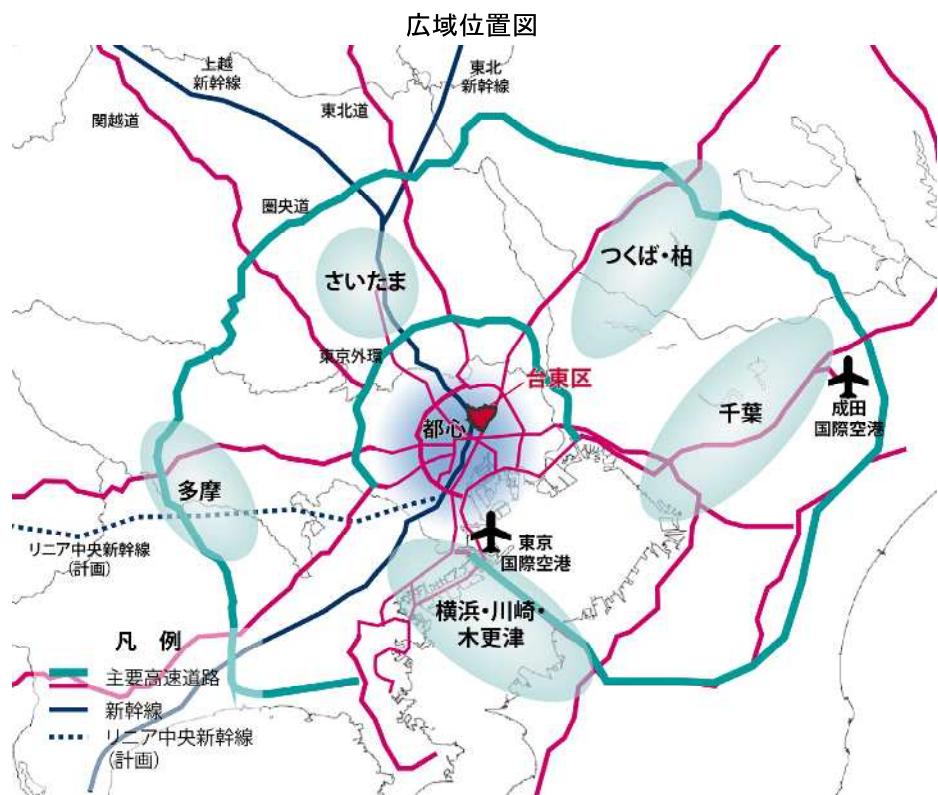
#### 4 台東区の広域的な位置付け

## (1) 広域ネットワーク

台東区は、古くは奥州街道、日光街道が通過する交通の要衝。近代以降は、上野は東京の「北の玄関口」として東北、上信越方面の一大ターミナルとして発展してきた。

現在は、成田国際空港、東京国際空港を結ぶ鉄道や新幹線等の広域交通ネットワークにより、日本各地・世界とつながる。つくばなどの広域的な拠点とも直結している。また、都心へのアクセス性にも優れており、通勤等の利便性が高い。

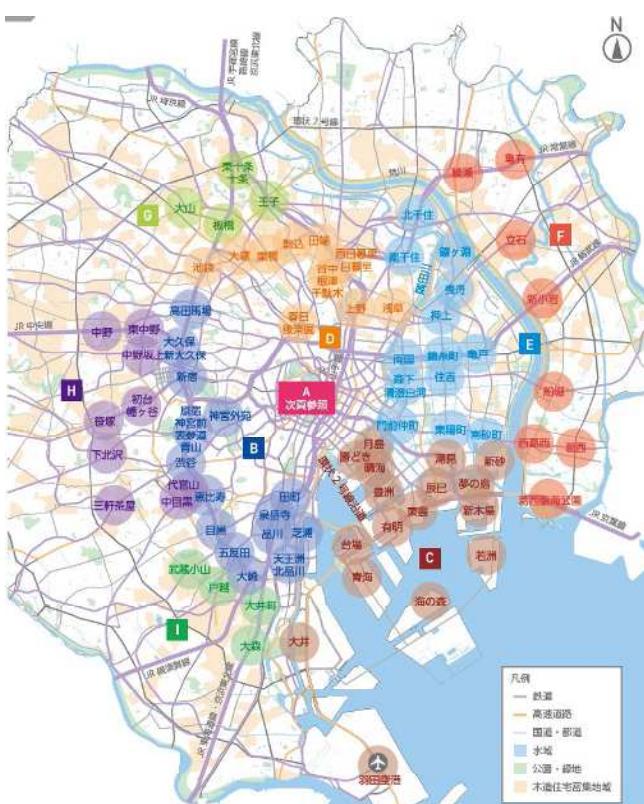
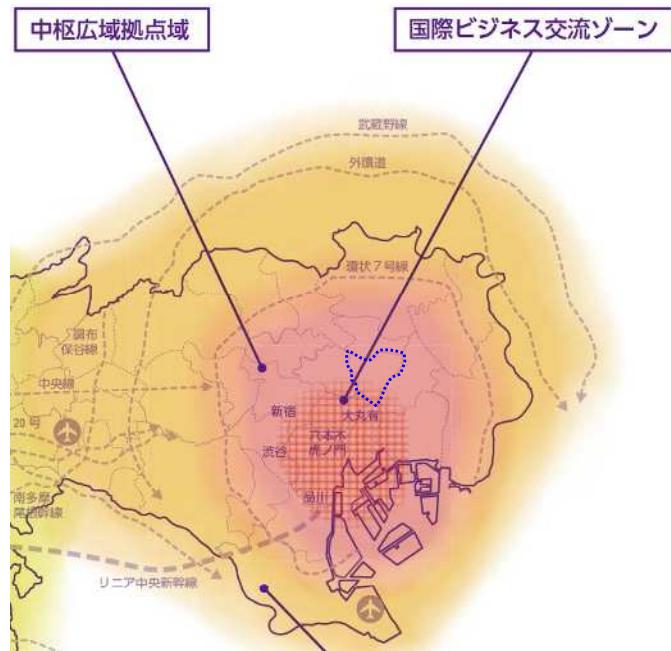
これらの広域的なつながりを活かした都市形成を図る。



## (2) 東京都都市づくりのグランドデザインでの位置付け

2040年代を目指すべき東京の都市の姿を示している、東京都の「都市づくりのグランドデザイン」において、国際的なビジネス・交流機能を担う拠点が集積する「国際ビジネス交流ゾーン」が区部中心部に設定されている。このゾーンに隣接する台東区においても、これらの機能と連携した都市機能集積、拠点形成を図る。

### 都市づくりのグランドデザインにおける新たな地域区分と台東区内の拠点・地域



#### 上野・浅草

- 上野の美術館や博物館の集積、上野恩賜公園や上野動物園、浅草寺を中心に、歴史・伝統を感じさせる街並みや、隅田川などの地域資源を生かし、芸術・文化・観光の拠点が形成されています。
- 交通結節機能の強化や歩行者空間の整備が進み、商業、業務、公共・公益施設などが高度に集積するとともに、文化・観光施設との連携により、国内外から多くの人が集まり、交流が生まれる拠点が形成されています。
- 駅と船着場との交通結節機能が強化され、隅田川の水辺空間と浅草寺周辺にぎわい空間が結び付き、交流が活発になっています。

#### 谷中・根津・千駄木(谷根千)

- 谷中靈園や多くの寺社の縁、落ち着きのある居住空間が継承されながら、地域の防災性が向上し、住宅地と観光地の調和した、伝統文化が育まれる魅力的な地域が形成されています。

出典：都市づくりのグランドデザイン（平成 年、東京都）

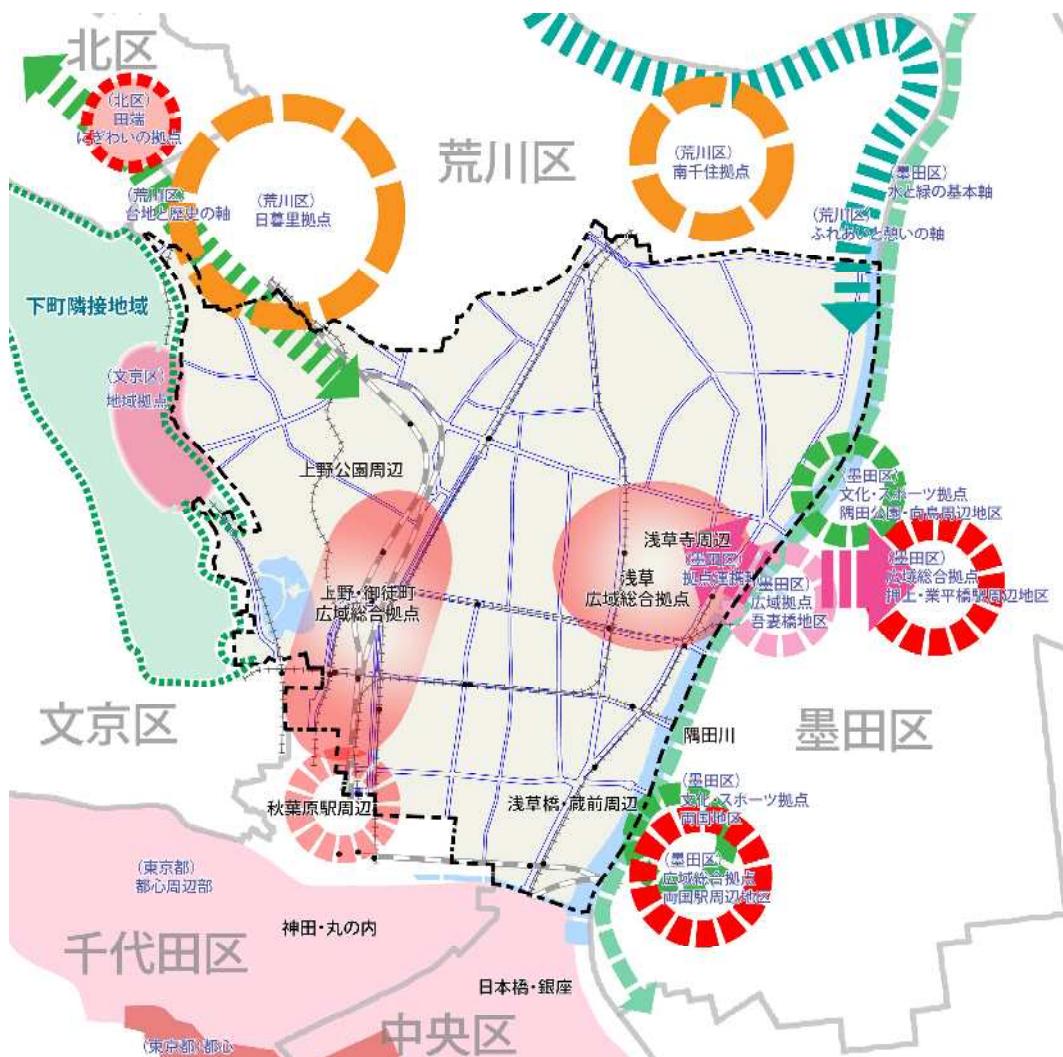
### (3) 隣接区のまちづくり

台東区は、千代田区、中央区、文京区、荒川区、墨田区にそれぞれ接しており、行政区域を超えたまちの一体性・連続性を配慮しながらまちづくりを進めていくことが求められる。例えば、上野・御徒町は秋葉原駅（千代田区）や湯島・本郷（文京区）の拠点的なエリアとのつながり、浅草は押上・業平橋（墨田区）、浅草橋・蔵前は、両国（墨田区）や日本橋（中央区）などの拠点エリアとのつながり、谷中は根津・千駄木（文京区）とのつながりがある。

また、現段階では区内の北東部地域には拠点的な集積はみられないものの、荒川区の拠点である南千住と近接している。

このようなことから、台東区のまちづくりは、隣接区におけるまちづくりの方向と整合を図りつつ、隣接地域との相乗効果をまちづくりに活かしていく。

隣接区におけるまちづくりの方向性



## 第3章 台東区が目指すべきまちの姿

1 将来像・基本目標と将来イメージ.....	3-2
2 将来都市構造.....	3-4
3 将来地域像.....	3-8
4 土地利用の方針.....	3-9

## 1 将来像・基本目標と将来イメージ

台東区基本構想で示す将来像・基本目標を実現するために、都市計画マスタープランの将来像・基本目標としてそのまま設定するとともに、地域特性に応じたひとのいとなみを意識したまちづくりの将来イメージを提示する。

### ■ 台東区まちづくりの将来像・基本目標

(台東区基本構想／H30.5.25 台東区議会企画総務委員会報告時点)

〈将来像〉

### 世界に輝く ひと まち たいとう

台東区に住む人、働く人、訪れる人、すべての人々は、安全安心で多様性が尊重された社会の中で、希望と活力にあふれ、いきいきと活躍しています。

長い間、積み重ねられてきた歴史や、まちに息づく多彩で粋な文化は、台東区を輝かせる光として、人々の誇りや憧れであり続けています。

台東区は、「ひと」も「まち」も輝くことで、世界中の人々を惹きつけ、ともに更なる活力と魅力を生み出す「世界に輝く ひと まち たいとう」の実現をめざします。

〈基本目標〉

- あらゆる世代が生涯にわたって成長し輝くまちの実現
- いつまでも健やかに自分らしく暮らせるまちの実現
- 活力にあふれ多彩な魅力が輝くまちの実現
- 誰もが誇りや憧れを抱く安全安心で快適なまちの実現

### ■ 台東区のまちづくりの将来イメージ（案）

世界に輝く魅力が  
あるまち

歴史や文化、多彩なまちの  
魅力が、人々を惹きつける

伝統とチャレンジが  
生み出す活力が  
あふれるまち

江戸から続く  
多様性があるまち

みどりがまちに  
溶け込む  
快適なまち

いとなみを支える  
安全安心なまち

例えば・・・

上野、浅草等をはじめ、  
特色ある諸機能の集積  
により、居住者、通勤・  
通学者、来街者等の増  
加と交流が活発化し、  
絶えず賑わい、新しい  
価値が生まれている

様々な生活様式やワ  
ークスタイル、価値観  
が展開され、歴史・文  
化的良さと時代に対  
応した新たなコミュニ  
ティが併存する

上野公園、不忍池、  
隅田川などの貴重な  
自然環境と、身近な  
みどりが都市活動と  
融合したうるおいに  
あふれている

地域性を反映した防  
災まちづくりが進  
み、「自助」「共助」「公  
助」一体による、ま  
ちの魅力を支える安  
全性が高まっている

## ■ まちづくりの視点に関連した台東区のまちづくりの将来イメージ（案）

台東区のまちづくりの 将来イメージ	
世界に輝く 魅力が あるまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 台東区の特徴である歴史や文化、多彩なまちの魅力が活かされ、居住者、通勤・通学者、来街者、観光客等を惹きつけている。</li> <li>▶ こころの豊かさへの志向に対応し、生涯学習、スポーツなど台東区のまちの資源を活用した様々な活動の場や舞台が用意されている。</li> <li>▶ コンパクトな都市構造と交通利便性を強みに、複合的な土地利用を活かした、「歩いて暮らせるまち」が形成されている。</li> </ul>
伝統と チャレンジが 生み出す 活力が あふれる まち	 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 上野、浅草をはじめとする区内の拠点において、特徴と活力のある諸機能の集積により、居住者、通勤・通学者、来街者等の交流が活発化し、賑わいが絶えないまちとなっている。</li> <li>▶ 若い人や起業家の新たな試みにチャレンジできる環境が既存の産業資源や人材を活かしたまちづくりによって実現され、都市の活力が維持、創出されている。</li> <li>▶ 地域のニーズに応じた機能が適切に配置されるとともに、誰もが移動可能な環境が整備され、行きたい場所があるまち、行きたい場所に行けるまちが形成されている。</li> </ul>
江戸から続く 多様性が あるまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 江戸から続く多様な地域の個性と融合して、職住近接など様々な生活様式やワーカスタイル、価値観が展開されている。</li> <li>▶ 歴史・文化の良さを活かしつつ、時代に対応した新たなコミュニティも生まれ、子供、若者から高齢者まで多様な世代が交流し生活している。</li> <li>▶ 国際観光都市としてだれにもやさしいまちづくりが進められるとともに、居住環境と観光の共存が図られている。</li> </ul>
みどりが まちに 溶け込む 快適なまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 上野公園、不忍池、隅田川などの貴重な自然環境や身近な水・みどりが生活と一緒にあって活用され、うるおいのあるまちづくりが進んでいる。</li> <li>▶ 台東区ならではのまちの成り立ちを継承し、歴史・文化資源や祭りなどの賑わい、地形、水・みどりがまちづくりに取り込まれた景観が形成されている。</li> <li>▶ 地球環境、資源循環に配慮し、低炭素なまちづくりを推進し、ヒートアイランド現象の抑制、環境との共生が進められている。</li> </ul>
いとなみを 支える 安全安心な まち	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 大地震や集中豪雨等の様々な自然災害に強い都市整備やまちづくりと一体的な災害対策が進み、ハード、ソフト共にまちの安全性が高まっている。</li> <li>▶ 地域性を反映した防災まちづくりが進み、「自助」「共助」「公助」が一体となって安全に暮らし、滞在できるまちが形成されている。</li> <li>▶ 利用実態にあわせた効率的な道路の活用により、歩行者空間が整備・確保されるとともに、歩行者にとって安全な道路が形成され、歩きやすいまちとなっている。</li> </ul>

## 2 将来都市構造

### (1) 将来都市構造の基本的な考え方

台東区の将来のまちづくりを実現していくために、まちの成り立ちや生活を前提として、地域の個性を活かしながら、活力と魅力を高めていくために『望ましいまちの姿＝将来都市構造』を提示し、魅力あるまちづくりを進める。

都市構造は、区外の広域的な結びつきも考慮し、都市的な機能の集積を図る「都市拠点」と、これらの都市機能を連携・連担させ拠点間の交流をさらに促進する「都市軸」により形成する骨格に加え、都市の魅力とうるおいの集積を「地域資源を活かすゾーン・拠点・軸」として位置づけ、多様な魅力に満ちた活動を支える舞台づくりを推進する。

### (2) 都市拠点・都市軸

#### ①都市拠点

台東区の個性と魅力を生みだしている様々な機能が集積する地区を「拠点」と位置づけ、都市の活力と賑わいを高め、さらなる充実を推進していくものとする。

#### ②都市軸

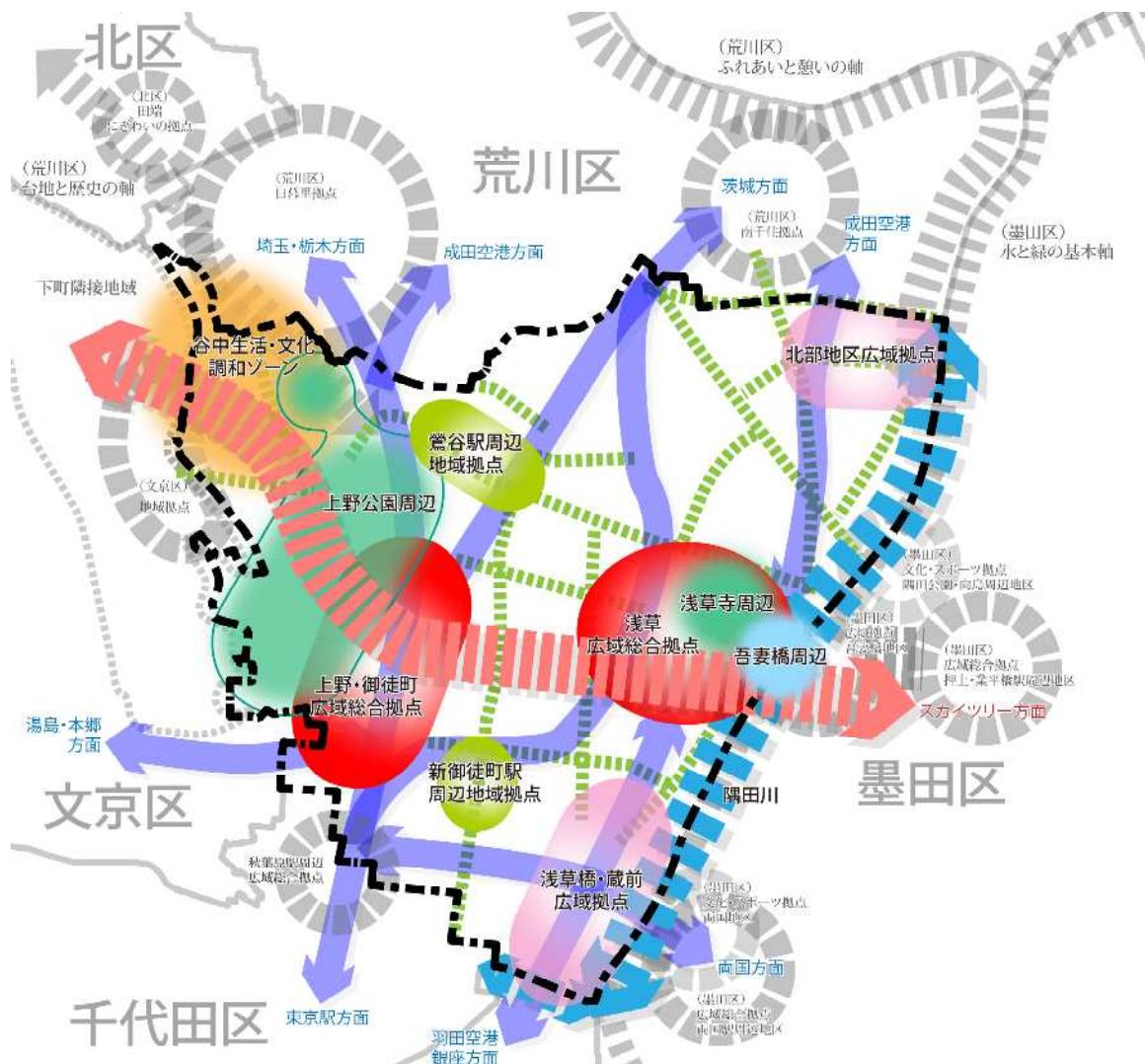
機能や性格が異なる「拠点」を互いに結びつけ、それぞれの都市機能を結び、補完しあう「軸」を形成し、個性に富む台東区の賑わいや魅力の連續性を確保する。

### (3) 「地域資源を活かす」

台東区の魅力を形成する地域資源が集積するエリアについては、それら資源を維持・保全し新たな魅力の創造につなぐ土台づくりを推進または継続するため、次の通り位置づける。

生活・文化調和ゾーン	
水とみどり	みどりの拠点
	水の拠点
	水とみどりの連携軸

## ■ 将来都市構造図



### 【都 市 拠 点】

- 広域総合拠点
- 広域拠点
- 地域拠点

### 【都 市 軸】

- ➡ 文化・観光連携軸
- ➡ 広域連携軸
- ➡ 拠点連携軸

### 【地 域 資 源 を 活 か す】

(特徴的な資源の集積)

- 生活・文化調和ゾーン
- (水とみどり)
  - みどりの拠点
  - 水の拠点
  - 水とみどりの連携軸

## (4) 将来都市構造を構成する要素

### ●都市拠点一覧

目指すべき拠点形成の方向性を明らかにするため、各「拠点」の役割や規模に合わせ「広域総合拠点」「広域拠点」「地域拠点」の3段階の分類を設定する。

拠点分類		拠点名
<b>広域総合拠点</b>	日本文化の魅力を世界に発信する国際的な文化交流創造拠点であると同時に、国際競争力強化に資する商業・業務機能の集積する拠点を「広域総合拠点」とする。	上野・御徒町広域総合拠点 浅草広域総合拠点
<b>広域拠点</b>	広域総合拠点と連携を図りながら、首都圏を視野に入れた都市活動や賑わい、人びとの交流を図る拠点を「広域拠点」とする。	浅草橋・蔵前広域拠点 北部地区広域拠点
<b>地域拠点</b>	地域住民の多様なニーズに対応し、日常生活を支えるために、既存の地域商業等の機能の集積、活性化を図り、地域の賑わいを形成する拠点を「地域拠点」とする。	鷺谷駅周辺地域拠点 新御徒町駅周辺地域拠点

### ●都市軸一覧

<b>文化・観光連携軸</b>	上野・御徒町広域総合拠点と浅草広域総合拠点や隅田川を結ぶ浅草通りから、上野公園を通り谷中広域（生活・文化）拠点を一体的に結ぶ軸として、また区内のみに留まらず、隣接区拠点やスカイツリー周辺方面まで機能連携を強化し、東京の玄関口としての利便性や賑わいの連続性を高める歩行者主体の都市空間を形成する。
<b>広域連携軸</b>	広域総合拠点と広域拠点を中心とした拠点や隣接拠点を結ぶ鉄道による広域連携を軸として位置づけ、隣接拠点とその後背地のみに留まらず、国内、海外からのつながりを意識した人・もの・ことの交流を担うことで、都市活動の連続性の確保により、賑わいの広がりを形成する。
<b>拠点連携軸</b>	拠点における商業等の賑わいの形成とその周辺における暮らしの利便性の向上を図ることができるよう、各拠点を結ぶ道路に位置づけ、そこに住む人びとの交流を促し、まちの歴史・伝統やみどりと水を感じる歩行の回廊を形成する。

## ●地域資源を活かす要素一覧

<b>生活・文化調和ゾーン</b>		<b>谷中生活・文化調和ゾーン</b>	谷中地区において、歴史、文化、みどりの資産と商店街、路地、坂などの特色を活かし、個性ある生活スタイルを支えるゾーンの形成を図り、上野公園周辺みどりの拠点や近隣区の拠点と連携してまちづくりを進める。
<b>水とみどり(軸と拠点)</b>	<b>みどりの拠点</b>	歴史・伝統、都市の中の自然（みどり）を活かし、人びとにうるおいとやすらぎを与える癒しの拠点を「みどりの拠点」とする。	
		上野公園周辺	古くからの歴史や世界的な芸術・文化施設の集積を活かし、都市の貴重な自然空間である上野公園、不忍池、谷中霊園等の自然が調和したオープンスペースとしての機能を強化し、日本文化の魅力を世界に発信できる国際的な文化交流発信拠点を形成する。
		浅草寺周辺	浅草寺周辺のみどりを保全し、隅田川と調和するみどりの拠点として位置づける。
	<b>水の拠点</b>	歴史・伝統、都市の中の自然（河川等）を活かし、人びとにうるおいとやすらぎを与える癒しの拠点を「水の拠点」とする。	
		吾妻橋周辺	吾妻橋周辺に、舟運の結節機能を含む拠点形成を図り、隅田川対岸の（墨田区）押上・業平橋駅周辺地区のまちづくりと連携し、舟運を活かした賑わいと利便性の核となる親水空間を形成する。
	<b>水とみどりの連携軸</b>	区内の拠点を水とみどりでつなぐとともに、舟運を活かした拠点を内包する。	
		隅田川及び神田川沿い	下町景観の一つである隅田川や神田川をはじめとする水辺空間は、河川を軸と捉え、隣接区の位置づけと連携し一体的な整備を進める。

## 2 将来地域像

### (1) 基本的な考え方

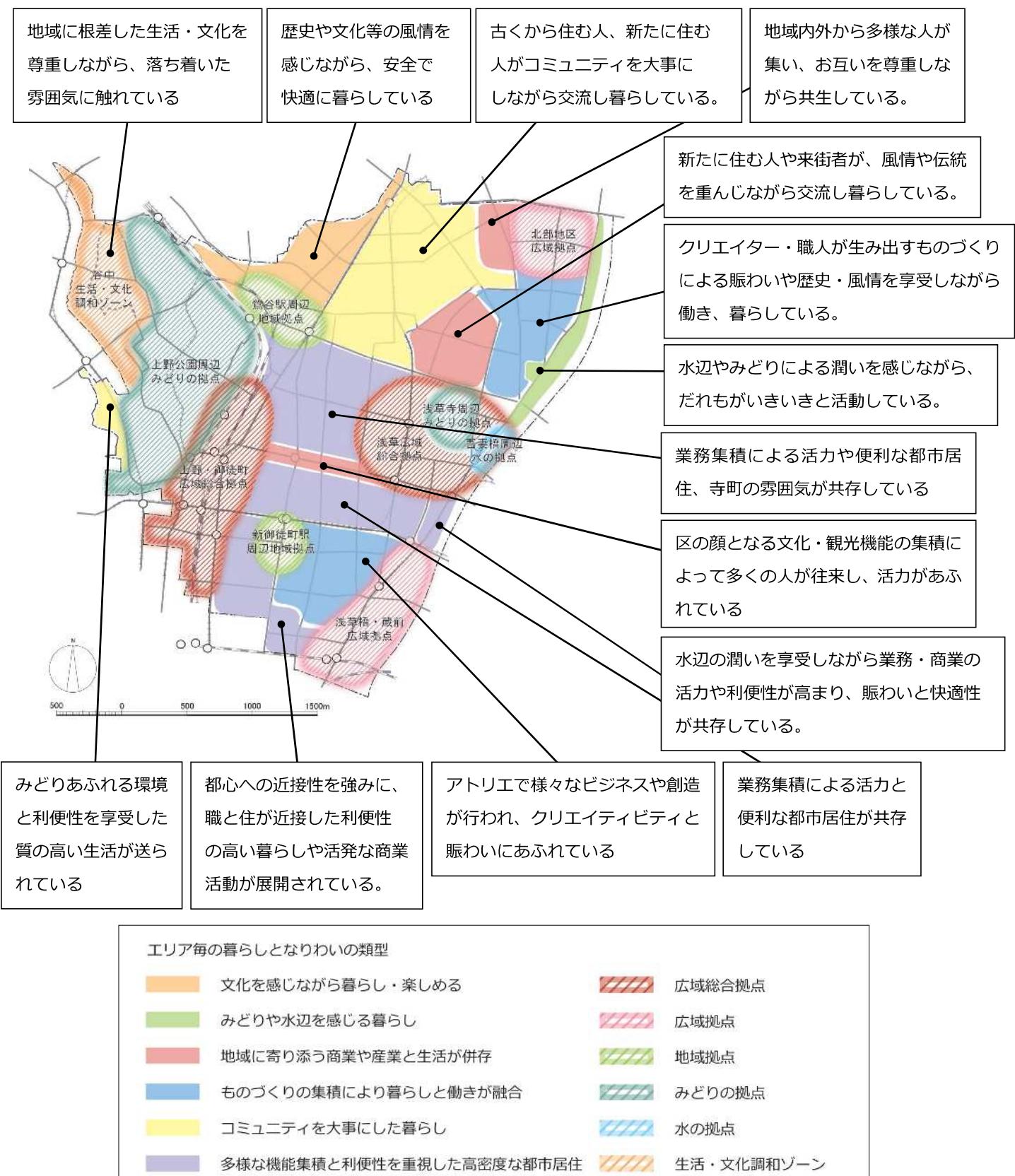
台東区の将来のまちづくりを実現していくために、それぞれの地域のまちの使われ方・人の活動を含むエリアのビジョンを提示することにより、魅力あるまちづくりを進める。

### (2) 各拠点の役割と将来像

拠点分類	拠点名	役割と将来像
広域総合拠点	上野・御徒町 広域総合拠点	<ul style="list-style-type: none"><li>上野の歴史と産業が調和した多様な商業、業務機能、文化機能等が集積する上野駅周辺から御徒町駅、秋葉原駅周辺にかけての地区において、国際競争力を有する文化・芸術の創造発信を行う拠点。</li><li>上野公園周辺のみどりの拠点や浅草広域総合拠点との連携をはじめとした、地域内外の快適な回遊性確保により国内外からの来街者を受け入れるまちの形成を図る。</li></ul>
	浅草広域総合拠点	<ul style="list-style-type: none"><li>日本を代表する商業、娯楽、歴史や伝統の文化等を後世に引き継ぐ浅草寺周辺からかっぱ橋道具街周辺にかけての地区において、国際観光都市浅草にふさわしいまちづくりをリードする拠点。</li><li>個性的な商店街の集積による賑わいの連續性を確保し、隅田川の水辺空間等を活かした国際観光拠点の形成を図る。</li></ul>
広域拠点	浅草橋・蔵前 広域拠点	<ul style="list-style-type: none"><li>浅草橋駅周辺から蔵前駅周辺にかけての地区と、隅田川・神田川につながる水辺を含めた地区において、回遊性を向上し賑わいを創出する拠点。</li><li>職と住が調和したライフスタイルや、地場産業の発展による新興産業集積による「ものづくり」のまちの魅力を発信する拠点の形成を図る。</li></ul>
	北部地区広域拠点	<ul style="list-style-type: none"><li>旧東京北部小包集中局跡地を中心とする日本堤～清川～橋場地区において、賑わい・交流の場を創出する拠点。</li><li>遊休空間を活用した都市機能の誘導による賑わいの創出と、公共交通の利便性を強化し、地域全体の生活利便性の向上に資する拠点の形成を図る。</li></ul>
地域拠点	鶯谷駅周辺 地域拠点	<ul style="list-style-type: none"><li>鶯谷駅周辺地区で、閑静で落ち着いた生活圏を支えるコミュニティの核となる拠点。</li><li>鉄道駅のポテンシャルを活かし、駅周辺に生活利便機能を集積させ、上野公園につながる地域の玄関口にふさわしい利便性の高い拠点の形成を図る。</li></ul>
	新御徒町駅周辺 地域拠点	<ul style="list-style-type: none"><li>新御徒町駅周辺から鳥越にかけての地区において、回遊性を向上し賑わいを創出する拠点。</li><li>地域のニーズに対応した既存の地域商業の活性化とあわせて、周辺地域との回遊性を向上し交通結節点にふさわしい利便性の高い拠点の形成を図る。</li></ul>

## ■ 各エリアの将来像

目指すべき都市像のうち、地域の特徴からエリア特有の代表的な暮らしやなりわい等のイメージ例を下記に示す。



### 3 土地利用の方針

#### (1) 基本的な考え方

##### ●歴史ある文化資源、自然資源と一体となった市街地環境の形成

- ・区内に点在する寺社等の歴史ある文化資源と隅田川、不忍池等の都市の中の貴重な自然資源の保全と活用を推進する。さらに、それぞれの資源の連携を強め、市街地でこれらの文化・自然資源を感じることができる、魅力とうるおいのある市街地環境の形成を図る。
- ・また、長い年月を積み重ねて形成された街並みやみどりなど、風格のあるまちの維持・向上を図る。

##### ●個性ある拠点形成・機能集積による活力のあるまちづくり

- ・上野・御徒町広域総合拠点、浅草広域総合拠点は、歴史・伝統、芸術等の文化を経済活動とともに発展させ、個性ある拠点形成を図る土地利用を誘導する。
- ・都市として持続していくために、台東区の地域性に富む既存集積や多様な人材を活かし、隣接区との土地利用の連続性も確保しながら、さらなる都市集積を図る。

##### ●地域特性を活かした産業の活性化及び産業振興施策と連携した土地利用

- ・台東区のまちを形成してきた職と住が共存したまちの地域特性を活かし、新たな産業や職住のライフスタイルの変化に対応し、産業振興施策や産業振興施設と連携した土地利用を図る。

##### ●台東区らしい複合した多様な土地利用の誘導

- ・商業、業務、作業所、住宅等、様々な機能が複合しているまちの特性を活かし、多様な人々が暮らし活動し続けられるよう、現状の複合かつ多様な土地利用を基本とする。  
このため、住みやすく働きやすい市街地の景観や街並みを考慮した地域の個性を表す土地利用を誘導する。
- ・若者から高齢者、単身、ファミリーなど多様な住み方を受け入れる多様な住機能の充実を図る。
- ・商業の集積、働く場所が近接するなどの土地利用や交通基盤を活かした、利便性の高い魅力ある住環境の形成を図る。

##### ●安全・安心なまちを実現する建替えや基盤整備と合わせた土地利用の推進

- ・地震などの災害に強く安全なまちの形成を図るため。建替え等の建物更新を促進し、地域特性や利用ニーズに対応して安心して住み活動できる土地利用を誘導する。
- ・木造住宅密集市街地などでは、道路などの都市基盤と合わせた建替え等の建物更新を促進し、安全に暮らすことができる土地利用を誘導する。

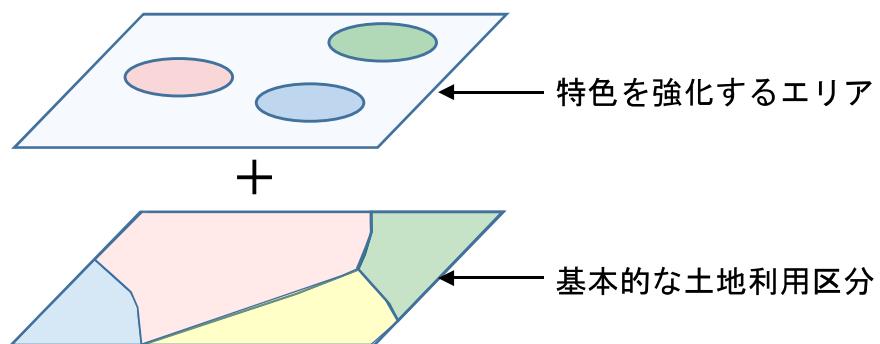
##### ●都心近接や交通利便性を生かした土地利用、機能集積の推進

- ・台東区のまちを形成してきた職と住が共存したまちの地域特性を活かし、新たな産業やライフスタイルの変化に対応し、産業振興施策や産業振興施設と連携した土地利用を図る。

## (2) 台東区のまちの成り立ちを考慮した土地利用の推進

各地域の特性とまちの連続性や居住環境の一体性等を考慮し、基本的な7つの土地利用区分をベースとし、さらに地域の特色を強化する土地利用を階層的に重ね土地利用の方針とする。

### 土地利用の方針の考え方のイメージ



#### ① 基本的な土地利用区分

##### ● 商業地・業務地

- 広域的な集客が見込まれる台東区を代表する商業地や、多様なビジネス・産業が展開される業務地では、様々な商業活動・業務機能を中心とした各種機能の拠点性を高め、大規模店と個店等が相乗効果を発揮する賑わいに加え、イノベーションや起業を促進する土地利用を図る。各地区の特徴的な機能集積や個性を活かし、地場産業などとも連携した活力の場を目指す。
- 特に駅周辺や主要な幹線道路沿道を中心に、連続した賑わいと多様な機能が集積する拠点として、土地の高度利用を図り、業務機能と文化・芸術機能や観光機能との融合など、区の特性を活かした集積を図る。



##### ● 近隣商業地

- 近隣商業地域は、地域において多様な暮らし方、働き方に対応した利便性の高い居住環境の提供を担っており、多様な居住機能と調和したコミュニティや地域の生活を支える土地利用を図る。
- 低層部での、日用品や多様なニーズに対応した商業店舗や飲食、サービス業などが連続し、住宅が共存した土地利用を図る。





コミュニティや地域の生活を支える土地利用

### ● 沿道機能集合地

- 都市構造図において文化・観光連携軸及び拠点連携軸に位置付けられた幹線道路沿道では、立地条件を活かし、地域特性に応じて商業機能や業務機能、利便性の高い居住環境など様々な用途が共存した土地利用を誘導する。
- 周辺環境や敷地条件等を踏まえた、土地の高度利用を図る。



商業機能と居住機能の共存

### ● 都市型複合市街地

- 都市計画道路などの幹線道路に囲まれた地区の内側などで店舗、事務所、作業所等との併用住宅が立地する地域では、各機能の共存・調和を図りながら、地域の特徴を活かした土地利用を図る。
- 建物の共同化等により、土地の有効利用を進め、オープンスペース・みどりの創出や狭い道路の拡充等による、居住環境の向上を図り、主に中・低層の建物の立地を誘導する。

### ● 都市型住宅地

- 道路基盤が整っているが、住宅が密集している地域では、防災性を向上させつつ住宅を主体とした土地利用を維持し、質と利便性の高い住環境の形成を図る。
- 老朽建物の建替え等による市街地の更新と、建物の共同化等により土地の有効利用を進め、主に中・低層の建物の立地を誘導する。

### ● 文化調和住宅地

- みどりや路地空間の残る地域では、住宅主体・低層の土地利用を基本とし、みどり豊かな居住環境を維持する。
- 路地空間等の情緒を活かしながら、道路整備、住宅の不燃化など防災性の向上を図る一方、歴史ある文化に囲まれた良好な住宅地の形成を進める。



みどりと文化が感じられる低層住宅地

## ● 水・みどり

- 歴史や芸術等の文化資源及びみどりの貴重な資源であり、環境や景観にも重要な要素である公園や寺社等は、これらを維持・保全するとともに、周辺のまちとの一体性・連續性を確保する。

## ②特色を強化するエリア

### ● 文化・観光・都市機能集積エリア

- 上野や浅草周辺は、文化や芸術・観光の拠点として機能の導入を図り文化・観光と連携した魅力的な商業地の形成を図る。

### ● 観光エリア

- 上野や浅草周辺及び入谷・根岸周辺では選ばれる観光エリアとして、おもてなしのインフラ整備を中心とし、観光資源の維持・活用に加えて、宿泊施設等のゲスト受け入れ体制を強化する。
- 北部拠点周辺では、地域のオリジナリティと交通利便性を活かして、共生のまちづくりを育む土地利用を推進する。

### ● ものづくりエリア

- 作業所と住宅等が複合した今戸周辺やカチクラエリア等では、ものづくりのまちとしての既存の産業集積を活かし、職住が共存した土地利用を図る。
- 建物のリノベーション、空き家・空き室の活用など既存ストックを活かし、若手デザイナーや職人なども活躍できる土地利用を誘導し、ものづくり産業の活性化と新たな産業の萌芽や産業集積によるまちの活力向上を図る。

### ● 歴史・文化エリア

- 谷中、根岸などの専用住宅、共同住宅を中心とした地域では、みどりや路地空間の残る住宅主体の土地利用とする。

## ■ 土地利用方針図



## 第4章 分野別まちづくり方針

まちづくりの基本理念と目標及び将来都市構造を実現するため、以下の6分野に分けて具体的な整備方針を示す。

1 生活・住宅まちづくり方針.....	4-2
2 文化・産業・観光まちづくり方針.....	4-6
3 花とみどり・環境まちづくり方針.....	4-10
4 景観まちづくり方針.....	4-14
5 防災まちづくり方針.....	4-18
6 道路・交通まちづくり方針.....	4-24

## 1 生活・住宅まちづくり方針

### ■基本的な考え方

#### ●魅力的な住環境の創出

- ・地域特性と景観に配慮した魅力的な住環境を形成する。
- ・歴史・伝統、情緒等を活かし、居住機能と産業機能の共存等、各種機能が調和した個性ある住環境の形成を進める。
- ・空き家の適正管理を推進し、既存ストックの流通促進を図る。

#### ●生活利便性の高い住環境の形成

- ・生活利便性の向上に資する生活利便施設の立地を誘導する。

→ まちづくり方針 (1)

#### ●質の高い住宅づくりによる多様な人の定住を促進する住宅の誘導

- ・質の高い住宅づくりを誘導するとともに、多様な人が生活し、住み続けられるように、安心・快適な住まいの誘導・供給、住環境の形成を図る。
- ・高齢者や障害者などが安心して住み続けられる環境、子育て世帯の定住を促す環境を誘導する。

→ まちづくり方針 (2)

#### ●地域の生活の拠点となるコミュニティの場づくり

- ・コミュニティの場づくりにより、災害・犯罪に備えた地域力の向上を推進する。

#### ●健康まちづくりに資する生活環境の形成

- ・医療・福祉等、健康に欠かせない施設への安全・快適な空間・経路の整備を進めるとともに、歩いて暮らせる環境を整備し、人々が健康に生活できる環境を形成する。

→ まちづくり方針 (3)

#### ●質の高いマンションの維持

- ・マンションの適正な管理の促進や耐震化・長寿命化を推進し、安全で快適な住環境の形成を図る。

→ まちづくり方針 (4)

### ■生活・住宅まちづくり方針の概要

#### だれもがいきいきと暮らし続けられるまちづくり

地域特性を活かした魅力的な生活環境を創出するとともに、質の高い住宅づくりを誘導し、マンションの適正な管理や建て替えの促進を誘導することにより、だれもが健康で楽しく暮らせる環境づくりを推進します。

## ■生活・住宅まちづくり方針

### (1) 地域特性を活かした魅力的な住環境の創出

#### ①地域特性に応じた住環境の形成

- 生活・文化調和住宅地では防災性を高め、みどりや路地空間を活かし、歴史・文化の雰囲気が残る低層中心の良好な生活環境の形成を図る。
- 商業・業務地では、商業・業務機能と調和し、住宅の立体的な複合を進めるとともに、地域が有する高い都市機能を活かした利便性の高い生活環境を形成する。
- 近隣商業地では、店舗併用住宅、中高層部への住宅の配置等や地域のコミュニティの活性化により、生活と商業活動が密接に関連した生活環境を形成する。
- 都市型住宅地では、地域の情緒やみどりのある環境を活かしながら、建物の不燃化、耐震化を進め、質の高い生活環境を形成する。
- 水・みどりに近接する地域では、周辺のみどりや水辺の環境を維持・保全しながら、みどりや水辺を感じる生活環境を形成する。
- 特色を強化するエリアの「ものづくりエリア」では、作業所併用住宅、中高層建物の中高層部への住宅の配置により、作業所と住宅の調和を図り、ものづくりの集積と住宅が共存する生活環境を形成する。
- 都市型複合市街地では、店舗や事務所建物と住宅が共存するとともに、中高層建物の中高層部への住宅の配置など立体的な複合もみられる、多様な機能集積と利便性を重視した生活環境を形成する。

#### ②住みやすい・住みたくなる魅力的な市街地環境の整備

- 中高層建築物の建築に際しては、公開空地や歩道状空地の創出によるゆとり空間の確保や、隣接地や周辺地域における生活環境に配慮し、周辺環境との調和を図る。
- 集合住宅の建築に際しては、敷地内に一時停車スペースを確保し、生活道路における駐停車の抑制や歩行者の安全性を確保する。
- 空き家に対する適切な指導・勧告や老朽建物の除却支援など、放置されている空き家の適正管理を推進するとともに、既存ストックの流通促進を図り、生活環境の保全等を図る。

#### ③利便性・魅力を高める生活機能の誘導

- 生活利便性を向上させるために、住環境にも配慮しつつ小規模の生活利便施設の立地を誘導、近隣型商店街の活性化を図る。
- 高齢者や障がい者等が安心して生活できるように、生活環境整備の推進や、高齢者住宅、グループホーム等の誘致を促進する。
- 子育て世帯が安心して生活できるよう、子育て支援機能等の誘致を促進する。



近隣型商店街の活性化

### (2) 質の高い住宅づくりの誘導

#### ①地域特性を活かした質の高い住宅づくりの誘導

- 建物の共同化等により、防災性を備えた、都市居住型誘導居住水準、住宅性能水準等を満たす質の高い住宅に誘導する。

○区民の多様な居住ニーズを満たすよう、集合住宅の供給や更新の誘導を図る。

## ②多様なライフスタイル・ライフステージに対応した住宅の誘導

○高齢者や障がい者等が安心して生活できるように、生活環境整備の推進や、高齢者住宅、グループホーム等の誘致を促進する。

○多世代型住宅の供給を誘導し、高齢者が安心して生活できる環境を創出するとともに、子育て世代の定住化を促進する。

○様々な階層の世帯が集まり住めるような、多様な形態の住戸を併せ持つ集合住宅等の供給や交流の場づくりなどの住環境の整備を推進する。

○商店、事務所、作業場等との併用住宅を更新する際には、併用機能を維持しながら、新たなクリエイターや起業者等が活動しやすい、職住が調和した住宅への更新を誘導する。

○製造業者・製造小売業者が、「ものづくり」の魅力を発信し、製品の販売促進に繋がるよう店舗、作業所等を改修し、アトリエ等として活用できるよう誘導する。



高齢者住宅

## (3) だれもが健康で楽しく暮らせる環境づくり

### ①地域の生活の拠点となるコミュニティの場づくり

○多世代居住や職住近接等により多様な人々が共生する住環境を創出し、災害による被害を減らし、犯罪を未然に防ぐ良好な地域コミュニティの活性化を図る。

○区有施設・商店街の活用や大規模開発における空間の創出等により、地域のコミュニティの活性化を図る。

### ②いつまでも健康でいられる環境づくり

○健康施設、医療・福祉施設、生涯学習センター等へのアクセス性を高め、いつまでもいきいきと健康に暮らせる環境を形成する。

○歩行者ネットワークを形成し、誰もが歩けるまち、歩きたくなるまちを形成し、人々が健康でいられる環境を形成する。



職住が調和した住まい

## (4) 質の高いマンションの維持

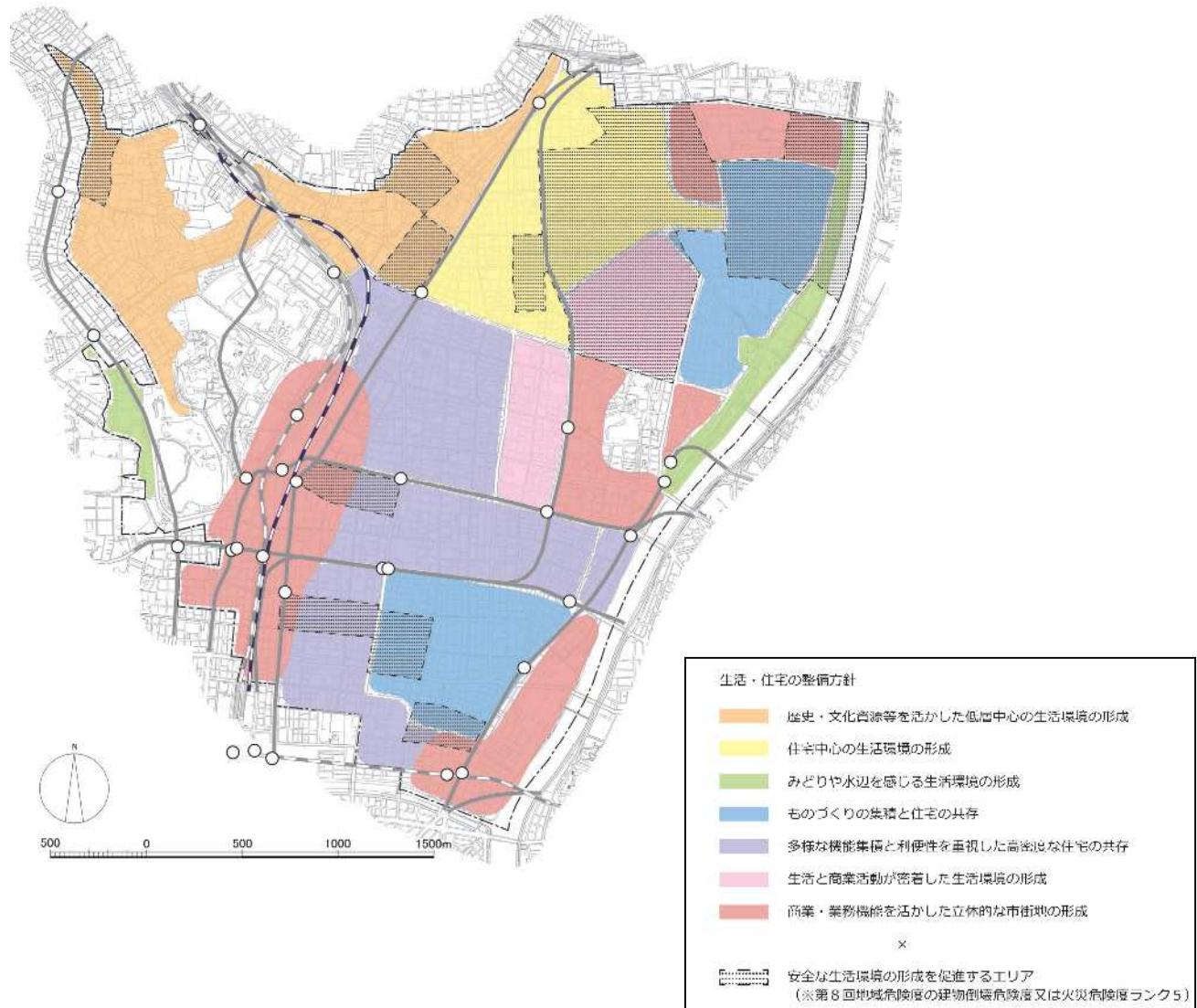
### ①マンションの適正な管理の促進

○マンションの適切な維持管理のため、管理組合活動の適正化促進や支援を推進する。

### ②マンションの耐震化・長寿命化の

○マンションの耐震化・長寿命化を推進し、マンションの質の維持を図るとともに、周辺の良好な市街地形成を図る。

## ■生活・住宅整備方針図



## 2 文化・産業・観光まちづくり方針

### ■基本的な考え方

#### ●歴史・芸術・文化資源を活かしたまちづくりの推進

- ・歴史的資源や世界文化遺産など、世界に誇る文化・歴史資源を活かしたまちづくりを進める。
- ・台東区の魅力である歴史・芸術・文化資源を、ハード・ソフト両面から活用したまちづくりを進める。

→ まちづくり方針（1）

#### ●商店街の活性化と活用

- ・既存ストックを活用し、コミュニティの場づくりを推進するとともに、地域特性を活かした商店街の活性化を図る。

#### ●新たな産業や起業を支える場づくりによるまちの魅力向上

- ・ものづくりの活性化を図り、新たな試みにチャレンジできる場づくりを推進することにより、新たな産業の創出、産業集積によるまちの活力向上につなげる。
- ・台東区のブランド価値の向上、観光や伝統産業の振興を図り、まち全体の魅力向上を図る。

→ まちづくり方針（2）

#### ●文化・産業と連携した商業・業務機能の強化

- ・台東区らしさを活かし、文化・産業と連携した賑わいの強化と広がりをめざし、拠点的な商業・業務集積の誘導、周辺地域との連携を図る。

→ まちづくり方針（3）

#### ●まちの魅力発信と多くの来街者を受け入れる環境の充実

- ・観光資源の活用と魅力発信により、高い魅力を有する国際観光都市としての持続的な発展をめざす。

#### ●観光と居住の調和

- ・居住、業務、観光などの様々な活動の受け皿として、住む人、働く人、訪れる人にとって居心地のよい環境を整備する。

→ まちづくり方針（4）

### ■文化・産業・観光まちづくり方針の概要

## 歴史・賑わいを継承し、生み出すまちづくり

歴史・芸術・文化資源を活かしたまちづくりを推進するために、地場産業・商店街の活性化による地域の魅力向上を図り、官民連携による文化・産業と連携した商業・業務機能を誘導します。観光と居住の調和を図りながら、賑わいを生み出すまちづくりを進めます。

## ■文化・産業・観光まちづくり方針

### (1) 歴史・芸術・文化資源を活かしたまちづくり

#### ①世界に誇る文化・歴史資源の保全・活用

- 上野公園に集まる多くの文化施設や学術・教育機関が集積を活かし、文化・文教・行政・民間機関が相互連携・協力し、ハード・ソフト両面にわたる取り組みを推進し、文化芸術の創造と情報発信の拠点を形成する。
- 国立西洋美術館周辺の環境保全に努め、世界遺産としての品格や魅力を維持し、それらの資源を活用したさらなる国際観光都市としての魅力の創出を図る。
- 浅草地域では大衆落語、漫才、演劇などの芸能に関する施設の集積を活かし、江戸から続く大衆文化や下町情緒を体験できる機会や場の充実を図る。
- 谷中地域では歴史や文化、みどりの資産や路地・坂などの特色を活かしながら、地域に根差した生活を尊重した、個性ある生活・文化調和ゾーンを形成する。

### (2) 地場産業・商店街の活性化による地域の魅力向上

#### ①生活利便性や地域の魅力を高める商店街の活性化・活用

- 台東区内や近隣からの来街者が集まる近隣型商店街では、空き店舗の有効活用や土地利用転換に対応した環境整備及び生活利便性の向上等により、地域特性を活かした魅力ある商店街の活性化を推進する。
- 近隣型商店街では、低層部への商業機能の誘導により賑いの充実を図るとともに、既存ストックの活用等により、コミュニティの場としての役割の充実も図る。

#### ②地場産業・ものづくりの活性化と魅力向上・発信

- ものづくりインキュベーション拠点を継続して有効活用するとともに、新たな産業や起業・成長を支える場を創出する。
- 製造業者・製造小売業者が、ものづくりの魅力を発信し、製品の販売促進に繋がるよう店舗、作業所等を改修し、アトリエ等として活用できるよう誘導する。
- 既存ストックの有効活用等により、ものづくりの活性化を図るとともに、新たな産業の創出や産業集積によるまちの活力向上を図る。
- ものづくりの文化を活かした「台東区ブランド」の育成・発信、魅力ある地場産業のプロモーションの推進とともに、それらと連携したまちづくりを推進する。
- アメ横やジュエリー街等の特色ある商業の集積を活かし、上野らしい個性豊かな商業・業務機能の充実を図り、さらなるまちの魅力向上を図る。



地場産業のプロモーション

### (3) 官民連携による文化・産業と連携した商業・業務機能の誘導

#### ①文化・観光・業務の複合的な拠点形成

- 上野駅周辺では、上野公園と連携した歴史資源や世界的な芸術・文化機能の集積を図るとともに、宿泊滞在機能や文化・芸術機能と連携した関連機能の充実により、国際競争力を有する文化・観光・商業・業務等の複合的な拠点の形成を図る。
- 旧東京北部小包集中局跡地を活用し、官民連携による賑いと交流の拠点を形成する。

## ②都心への近接性を活かした商業・業務機能の誘導・集積

○上野地域や南部地域では、ものづくり等の産業との連携や市街地環境への配慮を図りながら、隣接する区部中心部と連携し、オフィスなどの業務機能や商業機能の誘導を図る。

### (4) 観光振興に資するまちづくり

#### ①豊富な資源の活用と魅力発信

○来街者が多く集まる地域では、民間開発とあわせた情報発信や人々の交流のための拠点を整備により、魅力の創造発信機能を充実する。

○広域からの外国人観光客や来街者などが集まる広域・観光型商店街では、外国人観光客へのおもてなし支援や外国語対応の案内表示、魅力ある商店街育成によりさらなる魅力向上を図る。

○都市部における貴重な自然環境である隅田川周辺では、都市の水辺空間の有効活用により賑わい創出を図り、観光地としてのさらなる魅力向上を推進する。

#### ②広域交通アクセスの充実

○羽田空港、成田空港へのアクセス性の強化などにより、広域アクセスの拠点を形成し、交通結節機能の強化を図る。

○舟運を浅草への交通手段の一つとして活用し、船着場の利用拡大に向けた取り組みにより、来街者の増加と回遊性の向上を図る。

○来街者の交通利便性向上のために、隅田川の舟運の充実や新たなルートの設定を検討する。

#### ③来街者の受入れ体制の強化

○循環バス「めぐりん」は、観光利用の視点を加え、さらなる利便性の向上を図る。



循環バス「めぐりん」

○区内の隅々や周辺を巡る便利な交通手段として、シェアサイクルを推進する。



宿泊機能の充実

○だれにでもわかりやすい空間整備や案内の充実、トイレ整備、バリアフリー化などによる、おもてなし環境の整備を推進する。

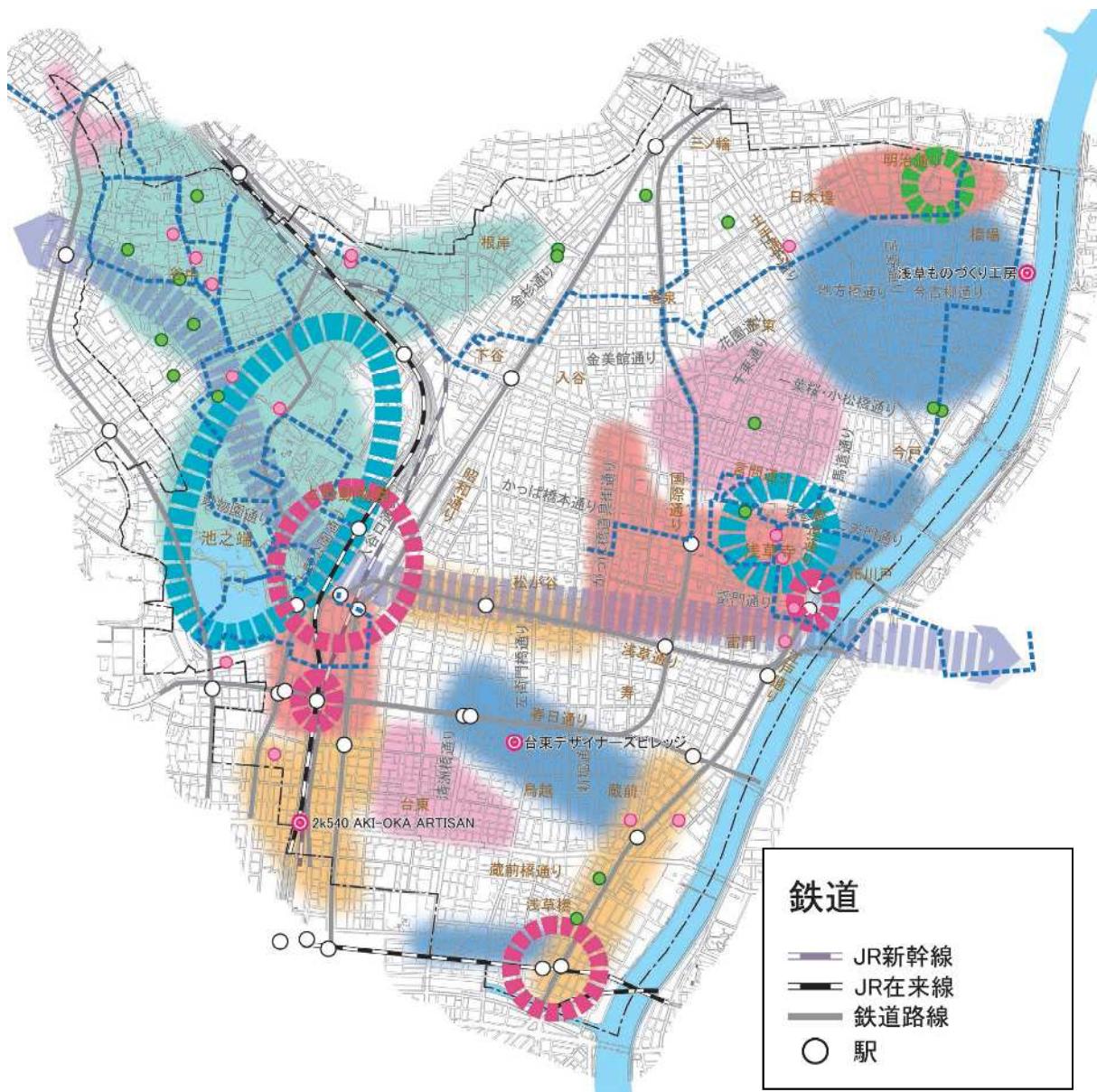
○駅周辺や来街者が多く集まる地域では、国内外からの来街者の滞在日数増加のために、既存ストックの有効活用や民間活力の誘導等により、質の高い宿泊施設の充実を図る。

#### ④観光と居住の調和

○観光バスの駐車対策として、乗降スペース及び駐車場の整備や駐車場予約システムを導入し、来街者の利便性向上と、より安全で快適な交通環境の実現を図る。

○住環境と観光地のためのルールや観光ルートづくりなどにより、双方の調和を図る。

## ■文化・産業・観光まちづくり方針図



### 凡例

- 景観重要建造物
- 景観重要樹木
- ものづくりインキュベーション拠点

東京下町さんぽコース

水辺空間の魅力向上

広域拠点等の交通結節機能強化

歴史・芸術・文化等を活かした観光魅力の強化

交通・観光等の新たな機能強化

文化・観光連携軸

歴史・芸術・文化の保全・活用エリア

ものづくり文化の育成・発信エリア

伝統産業の生産・販売エリア

広域型観光資源集積エリア

近隣型商店街集積エリア

### 3 花とみどり・環境まちづくり方針

#### ■基本的な考え方

##### ●みどりの拠点の形成とまちなかとの一体化

- ・歴史的・文化的なみどりを保全するとともに、風格あるみどりの拠点、骨格的なみどりを形成する。
- ・水とみどりの拠点、点在する寺社等のみどりをつなぎ、連続性を確保する。

→ まちづくり方針（1）

##### ●親水性の高い水辺空間の整備

- ・隅田川、神田川、不忍池を潤いとやすらぎの空間として整備し、規制緩和や民間活力を用いて水辺空間の活性化を図るなど、まちづくりに活用する。

##### ●自然的要素を活かした水とみどりの形成

- ・台地や崖線の斜面や水辺空間における水とみどりを活用し、魅力の高い景観形成を図る。

→ まちづくり方針（2）

##### ●多様な活動・利用を可能となる公園等の活用

- ・防災機能、健康づくり機能などの多様な活動を支える場としての公園整備・緑化を推進する。
- ・区民が主体となって活動する緑化活動の支援等により、みどりの保全・創出を進める。

##### ●コミュニティを育むツールとしての花とみどりの活用

- ・地域のコミュニティを形成するツールとして、花とみどりを積極的に活用し、住民参画による緑化活動を推進する。

→ まちづくり方針（3）

##### ●身近なみどりの整備

- ・身近な公園が不足している地域では、地域の魅力を高める新たな公園整備を検討する。
- ・区内に点在する寺社等のみどりの保全を図るとともに、建物の更新とあわせたみどりの増進を図り、潤いの広がる市街地を形成する。

→ まちづくり方針（4）

##### ●地球環境に配慮したまちづくり

- ・エネルギーの面的利用、建物の省エネルギー化、交通における環境負荷の低減などにより、多方面にわたり環境まちづくりを推進する。

→ まちづくり方針（5）

#### ■花とみどり・環境まちづくり方針の概要

### 花とみどり・水に囲まれた潤いを感じるまちづくり

みどりの拠点を形成し、拠点等を結ぶネットワークを形成するとともに、自然資源を活かした花とみどりの空間を形成します。

みどりを活かした多様な活動を創出し、地域の魅力をより高めるために身近なみどりを創出し、保存を図ります。

さらに建物、交通などにおいても、地球環境に配慮した環境まちづくりを推進します。

## ■花とみどり・環境まちづくり方針

### (1) みどりの拠点とネットワークの形成

#### ①拠点となるみどりの形成・充実

- 上野公園は、歴史・芸術等の文化、レクリエーション機能と自然環境が調和したみどりの拠点として、その保全と活用を図る。また、周辺の幹線道路の街路樹や開発に応じた緑化等によりみどりを創出し、上野公園と市街地の一体化を図る。
- 浅草寺周辺は、歴史・伝統と自然環境が調和したみどりの拠点として、幹線道路や開発に応じた緑化、隅田川とのネットワーク等により、みどりを感じる空間づくりを進める。
- 上野公園、谷中霊園、寛永寺、浅草寺等の歴史的資源や寺社等と結びついたみどりは、まちの風格を感じさせる貴重なみどりであることから、その保全を図る。
- 隅田公園は古くから続く桜の名所であり、その保全、再生を図る。

#### ②骨格的なみどりの形成・充実

- 浅草通り、中央通り、昭和通り及び山谷堀公園～土手通り等では「みどりと風の通り道」として、自然景観の骨格となる軸を形成する。
- 区の骨格を形成する軸に対応する道路では「みどりの軸」として、道路緑化、沿道建物の緑化を推進し、みどりによる地域の特性を活かしたストーリー性のある歩行者ネットワークの整備を推進する。
- 隅田川・神田川では「水の軸」として、自然景観の骨格となる軸を形成する。

### (2) 自然資源を活かした花とみどりの空間形成

#### ①隅田川の親水性の向上

- 吾妻橋、桜橋等の周辺は、都市における自然とふれあうことができる貴重な空間となる水の拠点として、隅田公園と連携した環境整備を推進するとともに、船着場を活用した舟運の活性化を図る。
- 隅田川沿岸は、都市部における貴重なオープンスペースであり、親水テラスの活用、規制緩和や民間活動による水辺空間の活用などにより、賑わい創出や魅力向上を図る。



水とのつながりを感じられる商業施設



水辺空間における賑わい創出の取り組み

#### ②隅田川・神田川の水辺景観の活用

- 隅田川・神田川は都市部における貴重な自然環境であるため、隣接するエリアは水辺空間を取り込んだ潤いある景観形成を図る。

#### ③不忍池の保全と活用

- 不忍池は、野鳥等の多様な生物の棲息の場となっており、その保全を図るとともに、人々の憩いの場となるよう、親水性が高い水辺空間として整備・活用する。

#### ④台地や崖線の緑化の推進

- 上野台地、谷中崖線や本郷台地は、地形の変化と自然を感じる場所であることから、斜面等の緑化を推進し、その自然資源を活用した良好な景観を形成する。

### (3) みどりを活かした多様な活動の創出

#### ①多様な活動の場となる公園整備

○防災機能や健康づくり機能等を備えた、地域特性に応じた特色ある公園整備や緑化に取り組み、地域コミュニティの場として公園を活用する。

#### ②みどりを活用した地域活動の活性化

○江戸の風情を残すみどりに関連した催事など、伝統を受け継ぎ、花とみどりに親しむ活動を続けていくため、地域の催しとまちづくりが一体となった活動促進を図る。

○コミュニティガーデンなどの区民が主体となる取組みを通して緑化活動を推進し、地域コミュニティの活性化を図る。

### (4) 魅力を高める身近なみどりの保全・創出

#### ①新たな公園整備

○立体的な公園の整備、未利用地となっている民有地の活用、区民参画による公園づくり・管理等により、地域の魅力を高める新たな公園の整備・活用について検討する。

#### ②建物の更新にあわせた花とみどりの充実

○学校、公園等の区有施設では、四季折々の花が感じられるよう充実を図る。

○道路沿道、高速道路下やペデストリアンデッキ、護岸等の公共構造物については、関係者との協力により様々な緑化手法を検討し、緑化の充実を図る。

○マンションや事務所建築物等、民間の建築物については、建物の更新等にあわせてさらなる緑化を推進する。

○大規模開発によるオープンスペースの確保及び緑化推進等により、市街地における潤いある空間の創出を推進する。

○民有地における歴史的・景観的に価値のあるみどりについては、所有者と協力しその保全を図る。



○谷中や根岸では、敷地内緑化とその連続性確保により、路地空間等の風情ある街並みと調和した緑化を推進する。

○区内に点在する寺社のみどりを保全するとともに、その周辺では寺社のみどりを意識した緑化を推進する。

### (5) 環境まちづくりの推進

#### ①エネルギーの面的利用とスマートエネルギーネットワークの構築

○街区レベルでの市街地開発に連動し、複数の建物でエネルギーを融通し合う、エネルギーの面的利用を図り、スマートエネルギーネットワークの構築を目指す。

#### ②建物の省エネルギー化の促進

○建物の建替えの際に、公的な補助制度や税の優遇措置に関する情報提供などを通じて、省エネ住宅等の普及促進を図る。

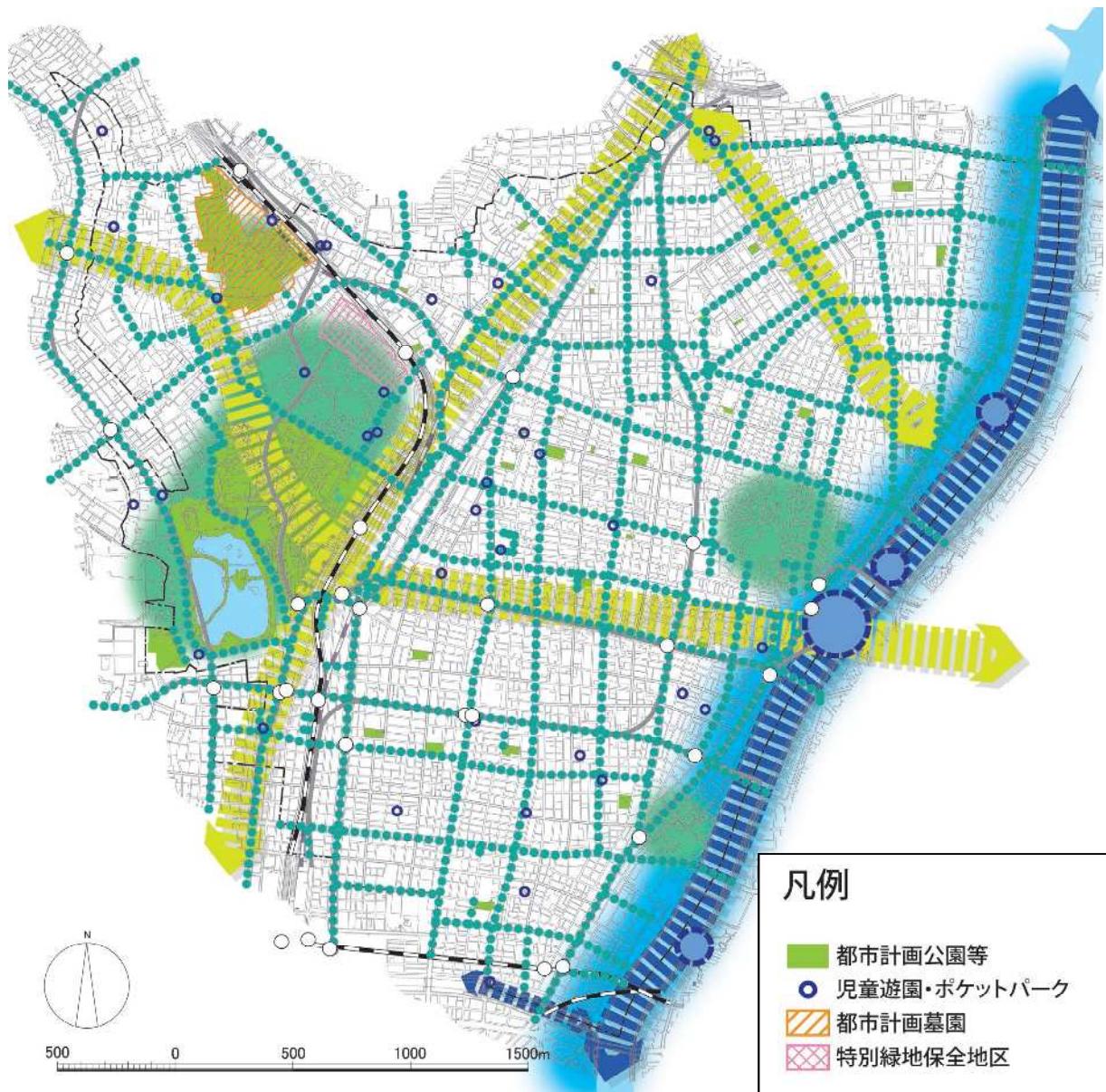
○公共施設や民間施設において、太陽光発電等の再生可能エネルギーや 照明、浸透性・保水性舗装等の環境対応・省エネルギー設備の導入を図る。

#### ③交通における環境負荷の低減

○自転車等駐車場や自転車走行空間を充実し、自転車の利用促進を図る。

○公共交通機関の利便性向上やシェアサイクル・カーシェアリングの推進、電気自動車の普及、水素エネルギー等の新エネルギーの導入などにより、環境負荷の低減を図る。

## ■花とみどり・環境まちづくり方針図



### 鉄道

- JR新幹線
- JR在来線
- 鉄道路線
- 駅

### 凡例

- 都市計画公園等
- 児童遊園・ポケットパーク
- 都市計画墓園
- 特別緑地保全地区
- みどりの拠点
- 防災船着場
- みどりと風の通り道
- 水の軸
- みどりの軸
- 水とのつながりを感じられるエリア

## 4 景観まちづくり方針

### ■ 基本的な考え方

#### ● 台東区を代表する、風格ある景観形成

- ・各拠点の地域特性をふまえた風格ある景観形成を図る。
- ・シンボルとなる通りの景観形成を進めるとともに、道路景観と調和する沿道建物を誘導し、一体性、連続性のある通りの景観形成を進め、まちの特徴づけを図る。

→ まちづくり方針（1）

#### ● 景観資源を活かした景観づくり

- ・区内に存在する歴史・文化資源などの多様な景観資源を保全するとともに積極的にまちづくりに活かし、まちの個性や生活に応じた景観づくりを進める。
- ・祭りや地域行事等を活かした景観形成を図る。

#### ● 自然資源を活かした景観形成

- ・緑地や水辺空間などの自然資源を活かした景観形成を推進する。

→ まちづくり方針（2）

#### ● 伝統と賑わいの演出による、人を引き付ける景観形成

- ・様々な人が住み、活動・交流する場としての賑わいを演出する景観形成を図る。
- ・商店街の賑わいの連続性を維持し、回遊性向上に資する景観を形成する。

→ まちづくり方針（3）

#### ● 地域の愛着、誇りをうみだす景観の形成

- ・地域への愛着、誇りがもてる、風情や落ち着きのある景観形成を図る。

→ まちづくり方針（4）



### ■ 景観まちづくり方針の概要

#### 個性豊かな街並みが人々を惹きつけるまちづくり

拠点や骨格となる景観などにおいて、風格ある景観を形成するとともに、多様な景観資源を保全・活用し、それらが調和した景観づくりを進めます。

商店街や高架下などでは、伝統と賑わいを演出する景観を形成し、住宅地や寺社が点在する地域などでは、風情や落ち着きのある景観を形成するなど、まちの個性を活かした街並みを形成します。

## ■景観まちづくり方針

### (1) 風格ある景観形成

#### ①拠点における風格ある景観形成

- 上野、浅草では、日本を代表する芸術・文化機能と商業・業務や娯楽など多様な機能が共生し相乗効果を生む総合拠点として、風格のある景観形成を進める。
- 上野・御徒町は、中央通りを軸とした上野公園との調和や連續性を強化し、上野公園の文化施設や上野駅等の地域のランドマークとなる施設との景観的な調和を図りながら、歩行空間やまちなかに植栽、休憩場所等の設置を進めるとともに、ギャラリー等の日常的に文化を感じる空間を設けて賑わいと魅力ある景観形成を図る。
- 浅草は、浅草寺を中心とした日本を代表する国際観光都市であるため、古き良きものを尊重しながら、個々の開発や整備における質的な維持・向上を目指し、新旧のものが調和し、引き立て合う将来の歴史的風景となる景観づくりを進め、風格ある景観形成を図る。

#### ②骨格となる景観形成

- 浅草通り、雷門通り、かっぱ橋本通り、中央通りは、区の景観の骨格を形成する景観軸として、通りの整備やまち並み景観誘導を進める。
- 浅草六区地区やかっぱ橋道具街等における地域のシンボルとなる通りでは、沿道の建築物の色彩や看板デザインの統一・調和を図る。
- 電柱や架空線等の無電柱化により、連続した美しい街並みの形成を図る。
- 幹線道路では、地域特性に応じた街路樹の植栽や舗装の整備等により特徴的な沿道景観を整備するとともに、民間の歩道状空地や公開空地等と連続性を持たせ、開放感のある歩行空間の形成を推進する。



シンボルとなる通りの景観形成

### (2) 景観資源の保全・活用と調和

#### ①多様な景観資源の保全・活用

- 神社・寺院、文化財、旧跡等の歴史ある文化資源等が持つ風情を活かした景観形成を図り、まちの資源として保全するとともに、共用空間としての活用等を検討する。
- 景観上重要な建築物や樹木、地域における歴史・伝統のある文化資源を景観資源として保全・活用する。

#### ②歴史・文化資源と調和した景観形成

- 世界文化遺産・国立西洋美術館がある上野公園周辺の緩衝地帯（バッファーゾーン）においては、調和のとれた良好な景観形成や環境保全を図る。
- 祭りや地域行事等の重要な景観資源がある地域では、神輿の巡回ルートとなる通りや寺社の広場空間等について、その舞台にふさわしい景観づくりを進める。

#### ③自然資源を活かした景観形成

- 隅田川・神田川は、都市部における貴重な自然環境であるため、隣接するエリアは水辺空間を取り込んだ潤いある景観形成を図る。
- 上野台地、谷中崖線や本郷台地は、地形の変化と自然を感じる場所であることから、斜面等の緑化を推進し、その自然資源を活用した良好な景観を形成する。

### (3) 伝統と賑わいを演出する景観形成

#### ①商店街での景観形成

- 商店街の賑わいを創出するため、統一的な景観形成により、商店街の個性ある景観整備を推進する。
- 商店街において中高層建築物を建築する際には、低層階に商業等の賑わいの施設を配置するよう誘導し、通りとしての一体性、連續性を確保する。



仮

賑わいと魅力ある景観形成

#### ②高架下の景観形成

- 鉄道や高速道路等の高架下の空間は、まちの連續性を確保し、魅力的で明るく安全な空間となるよう、賑わいを演出する景観形成を図る。

#### ③都市的な景観形成

- 大規模な建築行為や公共事業を通じ、連續性に配慮した緑化や、みどりを楽しめる空間の創出を図る。
- 限られた場所においても、多様な緑化手法を活用することにより、視野に入るみどりの増進を図る。

### (4) 風情・落ち着きのある景観形成

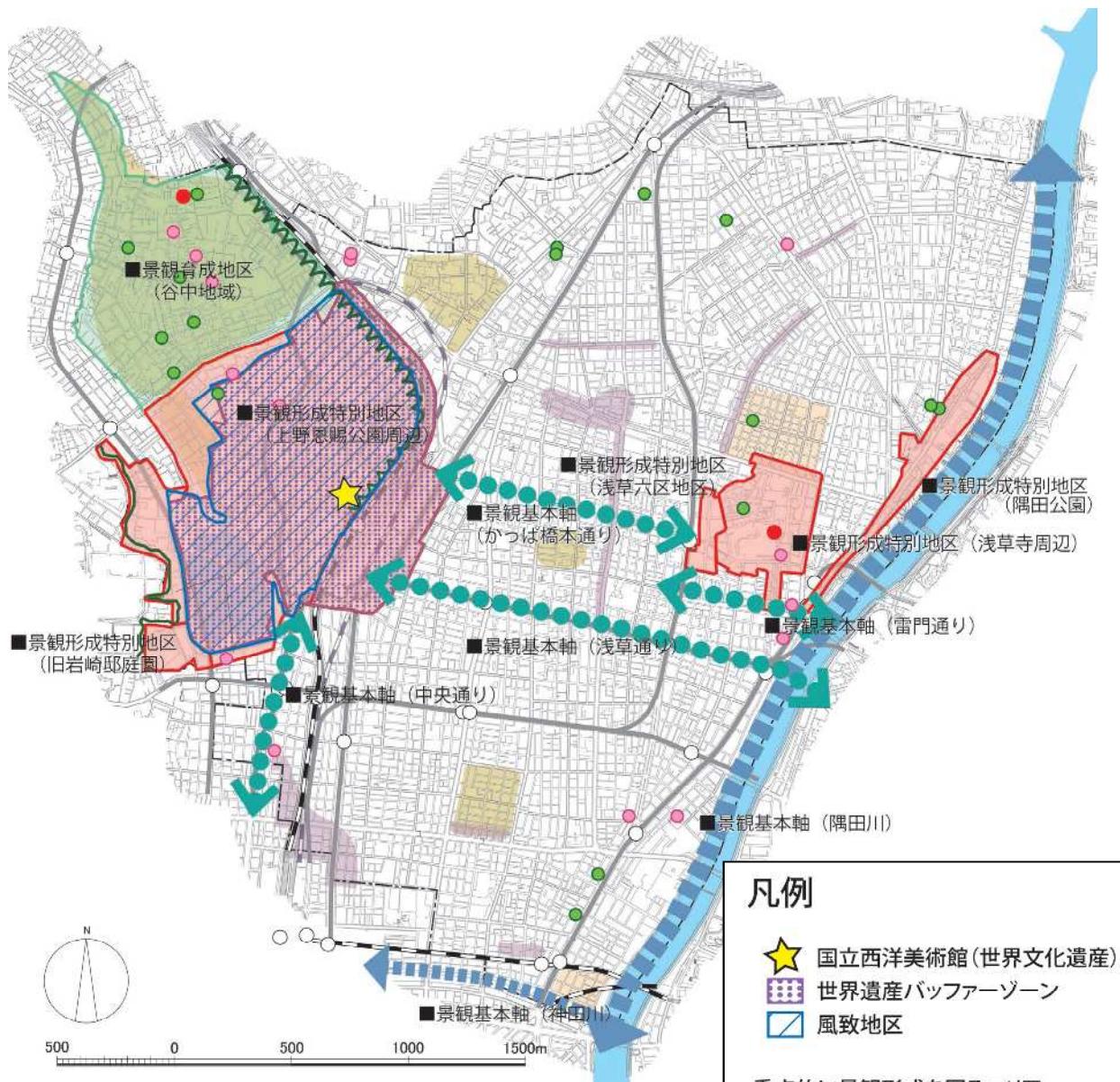
#### ①生活に根差した景観形成

- 古くからの生活を大事にしてきた地域では、みどり豊かな路地空間や人々の生活を大切にした情緒ある景観形成を図り、建築行為や公共事業等においてもそれを引き立てる景観形成を推進する。
- 住宅地では、その落ち着いた佇まいを大切にしながら、生活道路をだれもが安全・快適に移動できる空間として整備を図るとともに、沿道緑化等による潤いの感じられる道づくりを進める。

#### ②寺社の風情を活かした景観形成

- 寺社の点在する地域では、寺社の持つ風情を活かしながら、歴史を感じる景観形成を推進する。

## ■景観まちづくり方針図



### 凡例

- ★ 国立西洋美術館(世界文化遺産)
- 世界遺産バッファーゾーン
- 風致地区

重点的に景観形成を図るエリア

- 景観形成特別地区
- 景観育成地区
- 景観基本軸
- ↔ 水辺の景観軸

特徴的な景観資源

- 景観重要建造物
- 景観重要樹木
- 国指定名勝(台東区景観資源リスト)

特徴的な景観資源(景観計画より)

- 地形を縁取る緑の骨格
- 主な商店街・専門店街・問屋街
- 昔ながらの住宅地
- 旧花柳街

## 5 防災まちづくり方針

### ■基本的な考え方

#### ●平常時・災害時における防災機能の確保と充実

- ・災害時に円滑に活動できるよう、平常時から防災活動拠点の整備・充実を進める。
- ・エリアマネジメントの一環として防災まちづくりを推進し、エリア防災をきっかけにしたまちのブランド向上を図る。
- ・防災船着場などの水とみどりの資源を活用し、防災機能を確保する。

#### ●来街者の多い地域での総合的な防災対策の推進

- ・来街者の多い地域では、災害時に帰宅困難者対策など一時滞留や避難などができる体制づくりを進める。
- ・だれもが災害時に迅速に安全な場所に避難できるよう、多言語での防災情報提供など、ユニバーサルデザインの防災対策の推進を図る。

→ まちづくり方針 (1) (2)

#### ●災害時にもまちの機能が継続できるまちづくりの推進

- ・業務・商業・行政機能が集積するエリアにおいては、緊急時にも利用可能なエネルギーシステムの導入、の策定等による、災害時にも活動できるまちの形成を目指す。

→ まちづくり方針 (3)

#### ●市街地の総合的な防災性の向上

- ・防災生活圏の形成による「燃え広がらないまちづくり」、沿道の建物の耐震化・不燃化による「倒れないまちづくり」、木造住宅密集地の不燃化や建て替えの促進による「燃えないまちづくり」をめざし、基盤整備とともに市街地の総合的な防災性の向上を図る。

→ まちづくり方針 (4)

#### ●水害に強いまちづくりの推進

- ・下水道、道路などの老朽インフラ更新、建物の水害対策を図るとともに、集中豪雨に備えた大規模河川周辺や急傾斜地における水害対策を推進する。

→ まちづくり方針 (5)

#### ●震災復興まちづくりの推進

- ・災害が発生した場合、計画的に都市復興が実行できるよう、平常時から復興体制づくりを推進する。

→ まちづくり方針 (6)

### ■防災まちづくり方針の概要

## 様々な災害から生活・文化を守るまちづくり

平常時からまちの魅力を高める防災機能、災害に備えた活動拠点の充実を図るとともに、災害時のまちの継続性の確保、市街地整備とあわせた防災性の向上、集中豪雨などの水害に備えた対策を推進します。

災害時に適切かつ円滑な都市復興を実現可能にする復興まちづくりを推進します。

## ■防災まちづくり方針

### (1) まちの魅力を高める防災機能の確保・充実

#### ①多くの人が集まる空間における安全性の向上

- 多くの人が集まる駅やその周辺などでは、交流空間等の創出にあわせて、災害発生時の一時滞留や避難などの災害対策機能を兼ね備えた、空間や動線の整備やオープンスペースの確保を図る。
- 上野駅、浅草駅周辺など来街者の多い地区においては、災害発生時に不特定多数の滞留者を受け入れる一時滞在施設として活用できるスペースを民間開発に合わせて確保する。

#### ②まちの魅力を高めるエリア防災力の向上

- 地区の魅力を高め価値を向上させるため、官民連携のエリアマネジメントの一環として、施設整備やまちづくりに合わせた地区の防災性を高める取り組みを行う。
- 平常時においても、海外からの観光客や外国人居住者が防災に関する情報を入手できるよう、多言語での情報発信機能の充実を図る。



防災船着場の活用

#### ③防災機能を備えた水とみどりの活用

- 防災船着場は、緊急輸送と地域防災活動を支援するための輸送基地として活用するとともに、平常時にも積極的に活用する。
- 災害時の生活用水として、井戸水を活用する。
- 防災機能を備えた街路樹や公園の活用と充実を図る。

### (2) 災害に備えた活動拠点や機能の充実・活用

#### ①災害時活動のための拠点や機能の充実

- 災害時の活動拠点となる災害対策本部の機能の充実を図る。
- 災害時に地域の拠点となる防災備蓄倉庫や、応援物資の保管場所や輸送拠点の充実についても検討する。



防災活動の中核となる拠点の整備

#### ②身近な防災活動拠点の充実

- 区内の小中学校や公園、児童遊園等は、避難所や一時集合場所等の防災活動拠点として、機能の充実を図る。
- 帰宅困難者の帰宅を支援する災害時帰宅支援ステーションの支援体制を充実する。
- 「防災地図」、「水害ハザードマップ」の全戸配布により、避難所、一時集合場所等や避難方法について普及啓発を図る。

### (3) 被災時のまちの継続性の確保

#### ①災害時事業継続や早期復旧のための体制づくりの推進

- 災害時の事業等の継続や早期復旧を可能とするため、備蓄物資や非常用発電設備の確保などにより、地域の事業持続性を高める。
- 事業への影響を最小限にとどめ、中核となる事業の継続が可能になるよう、事業継続のための手段等を検討し、事業者による事業継続計画（ ）の策定を促進する。

## ②災害時に活用可能なエネルギー・システムの導入

- 業務施設や公共公益施設が集積する地域においては、災害時のエネルギー確保のために、コージェネレーションシステムの導入や施設間のエネルギー・ネットワークの構築などについて検討する。

## (4) 市街地整備とあわせた防災性の向上

### ①安全で良質な市街地の形成

- 防災生活道路等の基盤整備、建築物の不燃化・耐震化、共同化、防災活動拠点の整備、計画的な土地利用等により、地域の状況に応じた防災性の向上を図る。



### ②延焼遮断帯の形成

- 災害時に燃え広がらないまちづくりを目指し、都市計画道路沿道の建築物の不燃化・耐震化を誘導し、延焼遮断帯の形成を図る。

### ③緊急輸送道路のネットワークの形成

- 緊急輸送道路沿道では、建物の耐震化や無電柱化を促進するとともに、災害時における歩行者の安全の確保と救助活動、物資の輸送路としての機能を確保する。

### ④木造住宅密集地域における不燃化の推進

- 不燃領域率が低く、延焼の危険性の高い地域、新たな防火規制地域では、建物の不燃化とともに狭い道路の拡幅、空地の確保等により、まち全体の不燃化を促進する。
- 道路が狭く、狭小な敷地に建物が密集している地域では、建築物の建て替えの促進、空地の確保等により、総合的な地域防災力の向上を図る。

### ⑤ライフラインの耐震性向上と無電柱化の推進

- 道路空間を利用する上・下水道やガス等のライフラインの耐震性を強化するとともに、電気・通信設備については電線共同溝整備等の無電柱化を推進する。

## (5) 水害対策の推進

### ①公共下水道の更新・強化

- 集中豪雨による下水道からの内水氾濫を防止するため、管理者への要請等により、下水道の更新、能力向上を促進する。

### ②雨水の流出抑制と建物の水害対策の推進

- 公共施設や大規模建築物における雨水貯留の促進や道路等における透水性舗装等の導入により、降雨時の下水への負担軽減を図る。
- 建物の地下階への雨水の流入防止の誘導や設備の設置等により、建物の水害対策を推進する。

### ③大規模河川周辺における水害対策の推進

- 隅田川流域では、川沿いの整備とあわせたスーパー堤防事業を推進する。
- 荒川・神田川流域における集中豪雨時や東京港における高潮などの各浸水想定に基づき、避難経路・避難場所を確保し、平常時からその情報発信をする。

#### **④急傾斜地における崩壊防止対策の検討**

- 集中豪雨等により急傾斜地の崩壊の可能性がある区域では、崩壊防止のための対策を検討する。

### **(6) 震災復興まちづくりの検討**

#### **①官民の協働による都市復興の共通認識づくり**

- 平常時から「台東区震災復興マニュアル」に基づいた、復興模擬訓練や地域住民の参加による防災訓練等を実施し、適切かつ円滑な都市復興の想定や、災害に強い地域のまちづくりを推進する。
- 官民が連携し、地域の復興課題の解決に向けた復興計画づくりや建物形態に関するルールづくり等を検討する。

#### **②震災復興まちづくり方針の検討**

- 重大な被害を受けた際に地域住民の合意形成を円滑に進めるため、事前に「震災復興まちづくり方針」を検討・策定する。
- 既存の都市基盤を活かし、一部街区再編や建替え・共同化により復興を検討するエリア、道路などの基盤整備を含めた市街地の改善により復興を検討するエリア等を検討し、生活復興と連携したまちづくりを推進する。

## ■防災まちづくり方針図



### 鉄道

- JR新幹線
- JR在来線
- 鉄道路線
- 駅

### 凡例

空間的魅力と安全性の向上  
□ 抛点的なエリアでのオープンスペースの確保

■ 避難場所  
● 防災広場

災害に備えた防災活動拠点の整備

- 防災船着場
- 台東区庁舎
- 災害拠点病院(東京都)
- 災害拠点連携病院(東京都)

市街地整備とあわせた防災性の向上

- 避難道路
- 特定緊急輸送道路(第一次)
- 一般緊急輸送道路(第二次・第三次)
- 延焼遮断帯

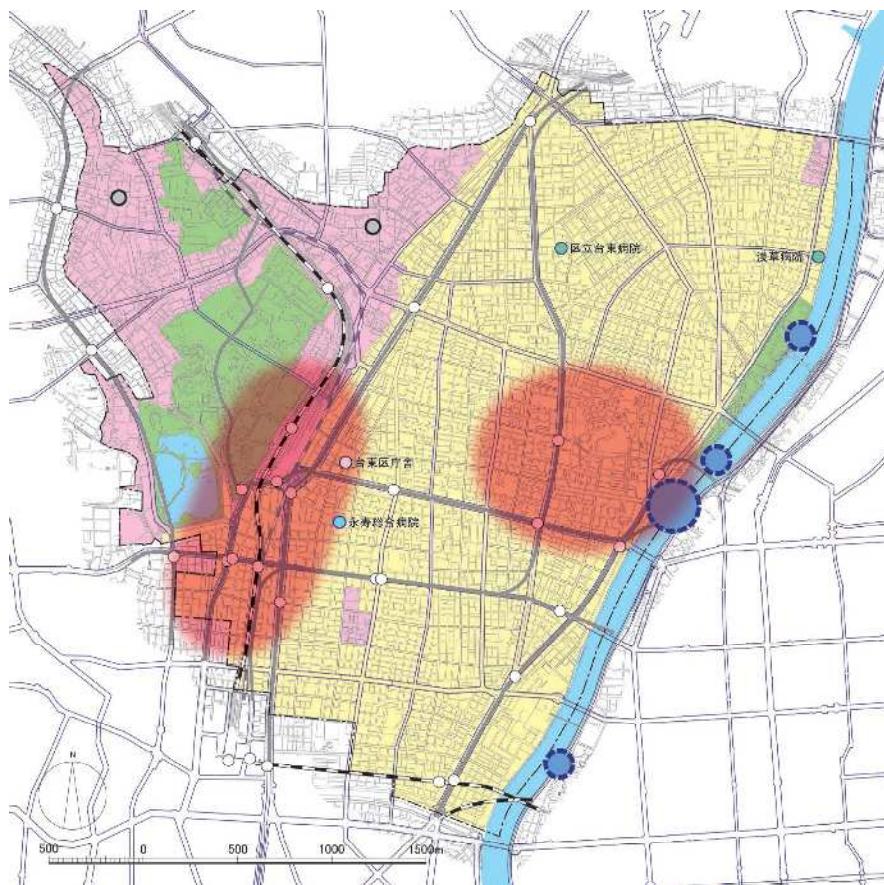
公園整備に応じたスーパー堤防の整備  
● スーパー堤防の整備

■ 住宅の建替えに即して不燃化を図るエリア  
■ 地域の雰囲気を残しながら不燃化を図るエリア

■■■ 市街地の更新に合わせた不燃化を促進すべきエリア  
■■■ 不燃化を促進すべき地域  
■■■ 上記以外で重点的に防災性向上に取り組む地域

■ 主要な公園等

## 【震災復興まちづくり方針図案】



### 凡例

#### エリア特性別の復興イメージ

- 道路などの基盤整備を含めた市街地の改善により復興を検討するエリア
- 既存の都市基盤をいかし一部街区再編などで修復し建替え・共同化により復興を検討するエリア
- 主な経済活動の事業継続、早期復旧を可能とする都市機能の集積やオープンスペースを重点整備する拠点エリア

#### 避難場所

● 防災広場

#### 防災活動拠点

- 防災船着場
- 台東区庁舎
- 災害拠点病院(東京都)
- 災害拠点連携病院(東京都)

## 6 道路・交通まちづくり方針

### ■基本的な考え方

#### ●まちの個性を活かした交通空間整備・活用

- ・土地利用と連動した道路空間の活用により、街の魅力や賑わいをより高める。
- ・道路の機能、沿道地域の特性や環境を考慮しながら、人々の多様な活動や地域コミュニティを支える場として、道路空間の活用を検討する。

→ まちづくり方針（1）

#### ●だれもが歩いて暮らせる交通まちづくりの推進

- ・安全で快適な歩行者空間を確保し、歩行者ネットワークを充実するなど、回遊性の向上や健康まちづくりにつながる交通まちづくりを推進する。
- ・ひとと車の適正な分離を図り、誰もが安全に回遊できる空間を形成する。

→ まちづくり方針（2）

#### ●便利でひとつ環境にやさしい公共交通等の充実

- ・区域全域における交通利便性の向上を図る。
- ・駅での乗り換え利便性の向上等により、交通結節機能の向上を図る。
- ・舟運やシェアサイクルなど、公共交通を補完する交通手段をより活用する。

→ まちづくり方針（3）

#### ●多様なニーズに応じた交通手段の利用促進

- ・自転車やカーシェアリング等、誰もが、いつでも、手軽に使える、多様なニーズに応じた交通手段の利用を促進する。

→ まちづくり方針（4）

### ■道路・交通まちづくり方針の概要

## 多様な人々の活動を支えるまちづくり

まちづくりにあわせて道路空間を適切に整備し、まちの魅力や賑わいを向上させるために道路空間を活用していきます。

歩いて暮らせる道路を整備し、歩行者ネットワークを充実させるとともに、公共交通についても、人々の生活や交流を支える交通としてより利便性を向上させます。

駐車・荷捌き機能を充実し、効果的な再編を行います。

## ■道路・交通まちづくり方針

### (1) まちづくりにあわせた道路空間の整備・活用

#### ①土地利用と連動した道路空間の活用

- 祭りやイベントなどの催事における道路占用や道路空間を活用したオープンカフェの設置など、街の魅力や賑わいを向上させる道路空間の活用を推進する。
- 歩行者通行の多い通りについては、自動車交通の再編とあわせて、歩行者天国や歩行者空間の拡大など、地域特性やまちづくりにあわせた道路の使い方を検討する。
- 地域の賑わい創出のため、交通機能を損なわない路地などでは、遊戯道路やひと中心の道路の使い方を検討する。

#### ②都市計画道路の整備

- 整備または拡幅が必要な都市計画道路については、関係機関が連携し、地域特性に配慮した整備を促進する。
- 都市計画道路の整備の際は、歩行者空間の充実、バリアフリー化、賑わいの連續性、透水・排水・遮熱など環境に配慮した舗装等により、沿道環境にも配慮する。



道路空間の活用

### (2) 歩いて暮らせる道路整備

#### ①安全な歩行者空間の整備

- 生活道路は、歩道や柵の設置や通過交通の抑制・速度低減に資する機能を取り入れた歩車共存整備等により、安全で快適な歩行者・自転車中心の空間として整備する。
- 狭あい道路は、建物の更新・共同化等にあわせて拡幅し、防災性の向上や良好な住環境の維持・向上を図る。
- 主要な歩行者ネットワーク道路は、景観・道路緑化に配慮しながら、歩道の拡幅・バリアフリー、放置自転車・違法な屋外広告物等の排除、無電柱化、道路照明・広告等のデザイン化、外国語表記の案内板の設置等により、だれもが安全・快適に移動できる歩行者ネットワークとしての整備を推進する。
- 駅前及び商業施設等では、鉄道事業者や商業施設と連携しながら、適切な役割分担により、自転車等駐車場の整備や自転車利用者の啓発・指導等により、放置自転車対策を推進し、歩行者空間を確保する。



安全で快適な歩行者中心の空間整備

#### ②歩行者ネットワークの充実

- 駅や公共施設などの拠点施設を結ぶ主要な道路については、ゆとりある歩行者空間を拡充するなど歩行者ネットワークを充実する。
- 浅草通りや中央通りなどシンボルとなる通りにおいては、まちの個性を活かした緑化、修景、ストリートファニチャーの設置などの景観誘導や快適性の向上を図る。
- 外国人にも配慮した多言語の情報案内の充実を図る。
- だれもが風景の変化を感じながら歩きたくなる歩行者ネットワークを形成し、歩くことが健康につながる健康まちづくりを推進する。

#### ③拠点周辺における歩行者の安全性・回遊性の向上

- 上野駅及び周辺では、道路等の地下空間や上空空間等の再編等により、安全な歩行者空

- 間の整備を図り、上野公園と周辺地域との回遊性を強化する
- 多くの来街者が訪れる地域・拠点周辺では、駐車場の適正な配置や歩車分離、道路の性格付け、オープンスペースの設置等により、道路としてのネットワーク・駐車需要に対応した駐車機能を確保しながら、歩行者主体の空間整備を進め、歩行者の回遊性向上を図る。
  - 鉄道駅周辺や歩行者中心のまちづくりを進める地域では、駐車場の地域ルールの導入や荷捌き時間帯の区分、路外駐車場の地域荷捌きへの活用等により、路上駐車の解消を進める。
  - 観光客が多い地域では、居住者と観光客双方にとって安全な交通環境づくりのため、観光バスの乗降スペース・駐車場の整備や駐車場予約システムの導入など、観光バス対策を推進する。

### (3) 人々の生活や交流を支える公共交通の充実

#### ①利便性の高い公共交通の充実

- 交通利便性に課題のある地域では、新たな公共交通の導入可能性について検討する。
- 循環バス「めぐりん」などの公共交通は、区民・住民のさらなる利便性向上を図るとともに、道路交通混雑の緩和、環境影響への対応を図る。
- 旧東京北部小包集中局跡地や病院、商業施設などを活用した、地域活性化に資する新たな交通結節機能の整備について検討し、各地域や施設へのアクセス性向上を図る。

#### ②交通結節機能の充実

- 上野駅及び駅周辺については、鉄道事業者、関係団体等と協力し、来街者にわかりやすい多様な交通機関の集約など交通機能の再編を行う。
- 浅草駅及び駅周辺については、鉄道事業者、関係団体等と協力し、駅のターミナル機能の向上を図る。また、各駅を相互に結ぶ動線整備、バリアフリー化、交通広場の整備など、国際観光都市にふさわしい環境整備を推進する。
- 駅周辺では、周辺の土地利用の更新にあわせ、バリアフリー化や歩行者の安全性・快適性を確保した歩行空間・駅前広場等の整備などを推進し交通結節機能の強化を図るとともに、道路や公園の地下空間及び上空空間、建物との一体的利用等の立体的な活用の促進を図る。

#### ③舟運の充実・活用

- 防災船着場については、利用環境の改善及びまちの賑わい創出に向け有効活用に努める。
- 来街者の交通利便性向上のために、隅田川・神田川の舟運の充実や新たなルートの設定を検討する。

### (4) 多様なニーズに応じた交通手段の利用促進

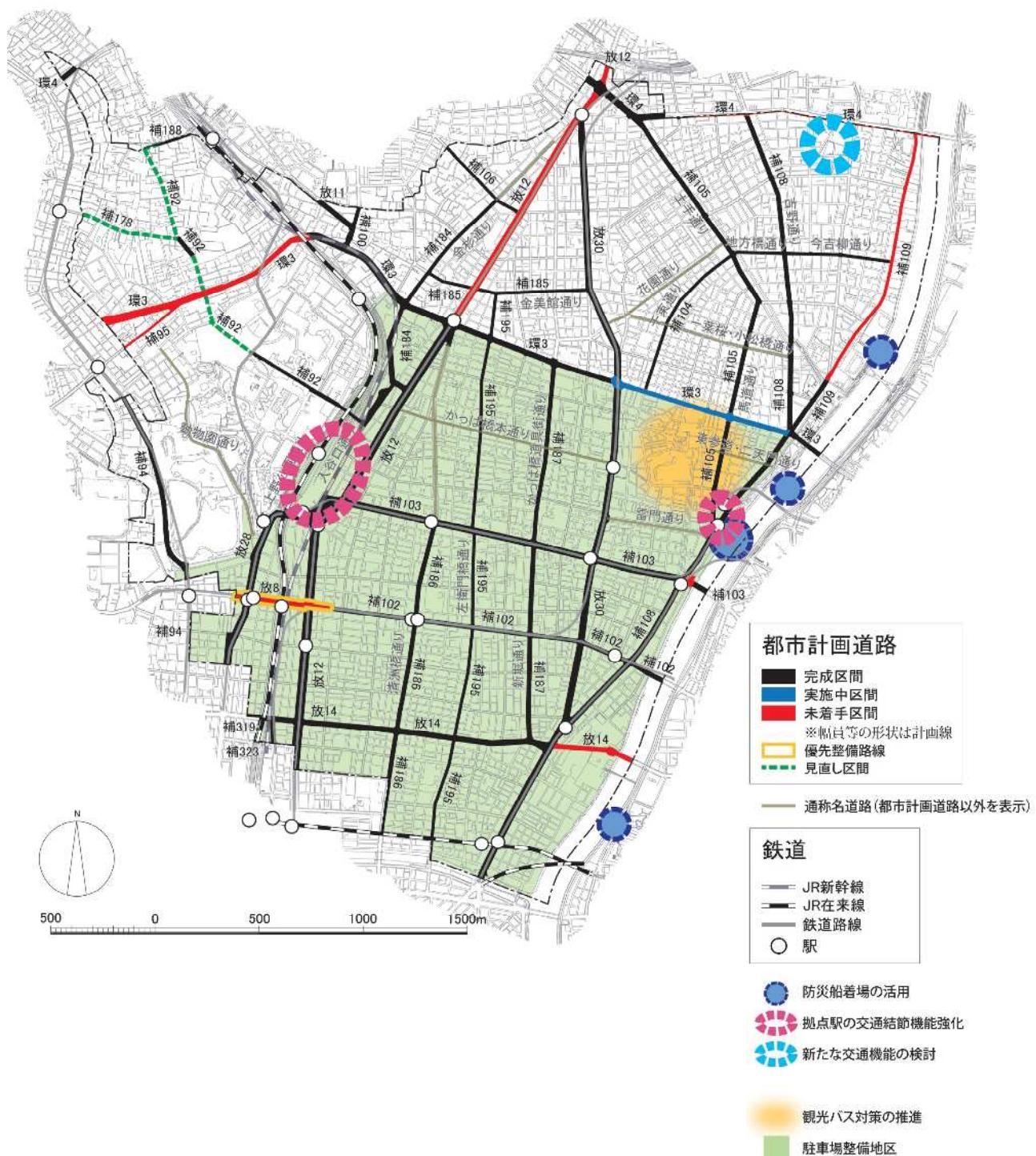
#### ①自転車利用環境の向上

- 歩行者と自転車・自動車の分離等により、自転車走行空間を創出し、歩行者と自転車の共存、安全性を向上させ、自転車の適正な利用を推進する。
- 集合住宅では、大規模施設にかかる附置義務とともに、民地内にサイクルポート等を設置する新たな仕組みなどを検討する。

## ②パーソナルモビリティの導入と誘導

○環境負荷の低減に資する身近な交通手段として、シェアサイクルやカーシェアリングの導入を推進する。

### ■道路・交通まちづくり方針図



## 第5章 地域別まちづくり方針

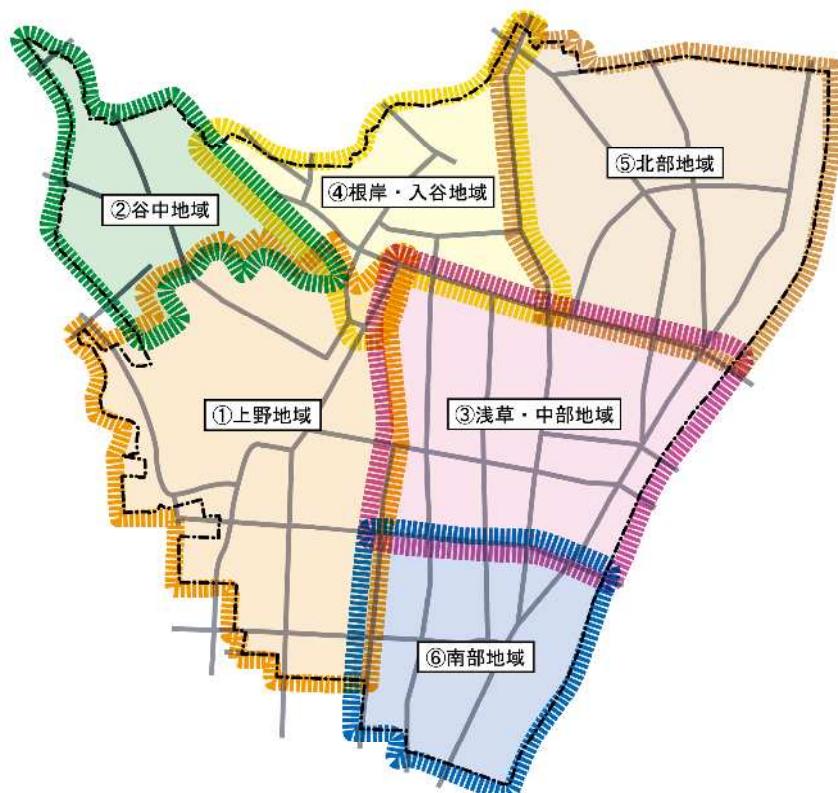
台東区の歴史や伝統等を基本としたまちづくりを進めていくためには、まちづくりの主役となる多様な主体の参画のもと、まちづくりを自分たちの身近な問題として認識し、協働してまちづくりを考えていくことが必要不可欠である。そのためには、多様な主体にとってなじみやすい地域区分を行い、それぞれの地域の将来像を共有していくことが重要である。

地域別まちづくり方針は地域の歴史・伝統、生活、土地利用等の状況を踏まえ、6つの地域区分を設定し、地域固有の特性や課題に応じたまちづくり方針を示す。

### ■地域区分

1 上野地域.....	5-2
2 谷中地域.....	5-8
3 浅草・中部地域.....	5-14
4 根岸・入谷地域.....	5-20
5 北部地域.....	5-26
6 南部地域.....	5-32

### ■地域区分図



## 1 上野地域

### ■地域の成り立ち

#### 歴史的形成経緯(地域別歴史)

～江戸時代	上野の山は寛永寺の境内にあり、桜の名所として親しまれ、参道は繁華街として発展した。現在の御徒町駅周辺～昭和通り東側一帯には、幕府御徒組の屋敷がおかれた。	江戸期の町割りによる都市構造
明治～戦前	上野台地は日本初の公園の一つとして整備された。また東京藝術大学が設立され、現在の文化の杜形成につながっている。上野駅は明治16年に開業、昭和2年には東洋初の地下鉄が上野～浅草間に開業した。	
戦後	アメ横が出現し、三味線堀周辺には庶民の娯楽施設が集積した。上野駅は「東京とふるさとをつなぐ心の拠り所」となった。	
現在	上野駅は長年間ターミナル駅、鉄道の要衝として発達するが、近年その機能が低下しつつある。2016年には、国立西洋美術館が世界文化遺産に登録決定した。アメ横の年末の賑わいは風物詩として定着している。	

### ■まちづくりのトピック

#### 文化・芸術資源の集積と特徴的な商業文化

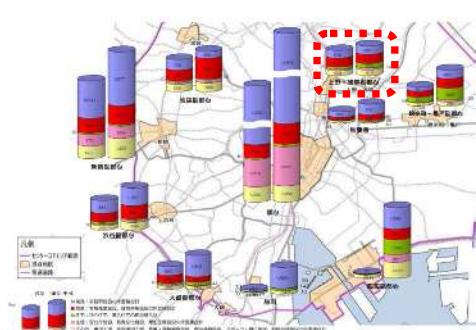
- 上野公園やその周辺には、日本を代表する博物館、美術館、動物園や大学など、多彩な文化・芸術資源が高度に集積している。
- 上野駅周辺からアメ横、御徒町駅周辺の広範囲にわたり、活気のある商業エリアが形成されており、中でもアメ横は年中来訪客で賑わっている。



図出典: 東京文化ビジョン、  
東京都 (平成27年)

#### 上野駅周辺における拠点性の強化

- ここ20年間、上野・浅草副都心の機能集積は僅かしか進んでおらず、都市基盤と機能の集積のポテンシャルを活かした活性化が必要である。



## 上野公園周辺の景観

- 上野公園には、広い範囲でまとまつたみどりの空間が形成されており、区民や来街者において都会の中で自然を感じられる憩いの場となっている。特に不忍池は上野地域における貴重な水辺空間となっている。
- 国立西洋美術館周辺は、世界文化遺産の風格を損なわない環境保全に努める必要がある。



出典：国立西洋美術館

## 帰宅困難者対策

- 大規模な災害が発生した場合、上野駅周辺では、公共交通機関の運行停止等に伴い多くの帰宅困難者が発生すると予想されるため、災害時に備えた帰宅困難者対策が必要である。

上野駅周辺の滞留者等の予想人数

駅前滞留者 数	屋内滞留者	
	屋外滞留者	
	小計	
待機人口		
滞留場所不明人口		
計		

※屋内滞留者：駅周辺で学校、職場等に滞留している人の総数

※屋外滞留者：駅周辺で私用、目的不明で滞留している人の総数

※待機人口：滞留目的が自宅及びその周辺の人の総数

※上野駅を起点に4km圏内に存在する人数をカウントしている。上記のうち、「屋外滞留者」が駅周辺に集積すると予想される。

出典：上野駅周辺エリア防災計画、上野駅周辺滞留者対策推進協議会（平成27年）

## ■上野地域の将来像

### 「文化芸術立国」を先導し 日本と世界をつなぐ文化・芸術のまち

国際競争力を有する文化・芸術の創造発信拠点が形成されるとともに、商業・業務・産業など、地域の個性を活かした魅力が向上され、新たな賑わいが生まれています。

拠点と拠点周辺を含む広範囲において、歩行者の回遊性向上、周辺地域との連携が図られ、上野駅をはじめ、駅周辺における都市基盤が充実されています。

都心居住の促進、商店街の活性化が進むとともに、総合的な防災力の高いまちが実現されています。

## ■上野地域まちづくり方針

### (1) 国際競争力を有する文化・芸術の創造発信拠点の形成

#### ①上野駅周辺における文化・芸術の創造発信拠点の形成

- 上野駅周辺や主要な幹線道路沿道を中心に高度利用を図るとともに、上野公園と連携した歴史資源や世界的な芸術・文化機能の集積を図り、国際競争力を有する文化・芸術の創造発信拠点を形成する。
- 宿泊・滞在機能や情報発信機能等の文化・芸術機能と連携した関連機能の充実を図る。
- 上野公園周辺のみどりの保全を図るとともに、幹線道路の沿道緑化や建物更新に伴う緑化等によりみどりを創出し、上野公園と市街地の一体化を図る。
- 東上野4丁目エリアについては、公共公益機能を再編するとともに、文化・観光機能を誘導する。

#### ②上野の歴史・文化・みどりの資源を活かした潤いと風格のある景観の形成

- 上野の歴史資源や文化・芸術資源を活かした風格ある景観を形成する。特に国立西洋美術館周辺では環境保全と資源の活用により、世界文化遺産のあるまちにふさわしい景観形成を図る。
- 上野公園周辺の水とみどりの集積を活かし、文化の杜を感じる潤いある景観を形成する。
- 祭りの舞台にふさわしい沿道景観の形成に努め、日常から風情を感じる空間づくりを推進する。

### (2) 地域の個性を活かした魅力向上と新たな賑わいの創出

#### ①商業の集積を活かした商業・業務機能の充実

- アメ横やジュエリー街等の歴史や特徴のある既存広域型商店街の集積を活かし、上野らしい個性豊かな商業・業務機能の充実により、さらなるまちの魅力向上を図る。

#### ②地域の個性を活かした新たな賑わいの創出

- ものづくり等の産業の集積を活かし、防災性の向上を図りながら既存ストックの有効活用等を図り、世界中、日本中から人が集まり、常に新しい賑わいが生まれるための機能を誘導する。
- 情報発信や交流拠点等のまちの魅力の維持発展に必要な機能の誘導を図る。

#### ③地域主体のまちづくり推進体制の強化

- 既存のコミュニティ力を活かし、地域主体のまちづくりを実現するための体制を強化し、持続可能なまちづくりを実現する。

### (3) 歩行者の回遊性向上と周辺地域との連携強化

#### ①上野公園と市街地をつなぐ歩行者ネットワークの強化

○上野駅周辺では、視認性の高い駅及び広場空間の創出や道路における歩車分離、地下通路・地下駐車場等の既存施設の有効活用等により、回遊性を創出する歩行者空間を整備し、上野公園と市街地との歩行者ネットワークを強化する。

#### ②上野を中心とした周辺地域との回遊性・連携の向上

○浅草通り、中央通り、昭和通り等の幹線道路では、シンボルロードとして緑化や修景などによる連続する良好な景観を形成し、まちの潤いと賑わいを感じる空間として整備し、周辺拠点との回遊性向上を図る。

○かっぱ橋本通りやその周辺では、上野と浅草を結ぶ賑わいの連続性を高める街並み景観や空間づくりを推進する。

○上野公園との連続性を考慮し、谷中地域、根岸・入谷地域等との広域な歩行者回遊性や地域連携の向上を図る。

#### ③安全で快適な道路空間の創出

○道路整備にあたってはユニバーサルデザインに基づいて整備をするとともに、歩行者と自転車の双方にとって安全で快適な空間を創出する。

○春日通り等の都市計画道路の優先整備路線整備を推進し、快適な道路空間を創出する。

### (4) 駅周辺における都市基盤の充実

#### ①上野駅周辺における都市基盤の再編

○建築当時の佇まいを残す駅舎を活かし、風格ある駅前広場を整備し、交通機能の集約・再編や乗り換え機能の改善などにより、歩行者空間の充実と交通結節機能の強化を図る。

○上野公園と市街地をつなぐ歩行者空間の再編・充実、地下空間の活用等により、高低差を感じない、わかりやすい動線整備を行う。

#### ②御徒町駅周辺における都市基盤の充実・活用

○御徒町駅周辺では、安全な歩行者空間の創出や交通結節機能の強化により、ジュエリー街をはじめとした商業集積としての魅力向上や訪れやすい都市空間を形成する。

○パンダ広場等の公共性の高い施設や敷地の有効活用により、さらなる賑わいの創出を図る。

### (5) 利便性の高い居住環境の創出と商店街の活性化

#### ①質の高い職住近接の都心居住の促進

○商業・業務機能やみどりの集積等を活かし、質の高い集合住宅の誘致などにより、

職住近接の都心居住の促進を図る。

## ②近隣型商店街の活性化

- 近隣型商店街は、多様化するニーズへの対応により活性化を推進し、地域生活を支え、コミュニティ形成に資する場として活用する。

# (6) 総合的な防災力の高いまちの実現

## ①帰宅困難者対策と避難動線の整備

- 上野駅周辺では、一時滞在施設等の確保や外国人観光客を含む来街者や居住者への適切な情報提供等により、帰宅困難者対策を強化する。
- 広域避難場所である上野公園へのわかりやすい避難動線を整備する。

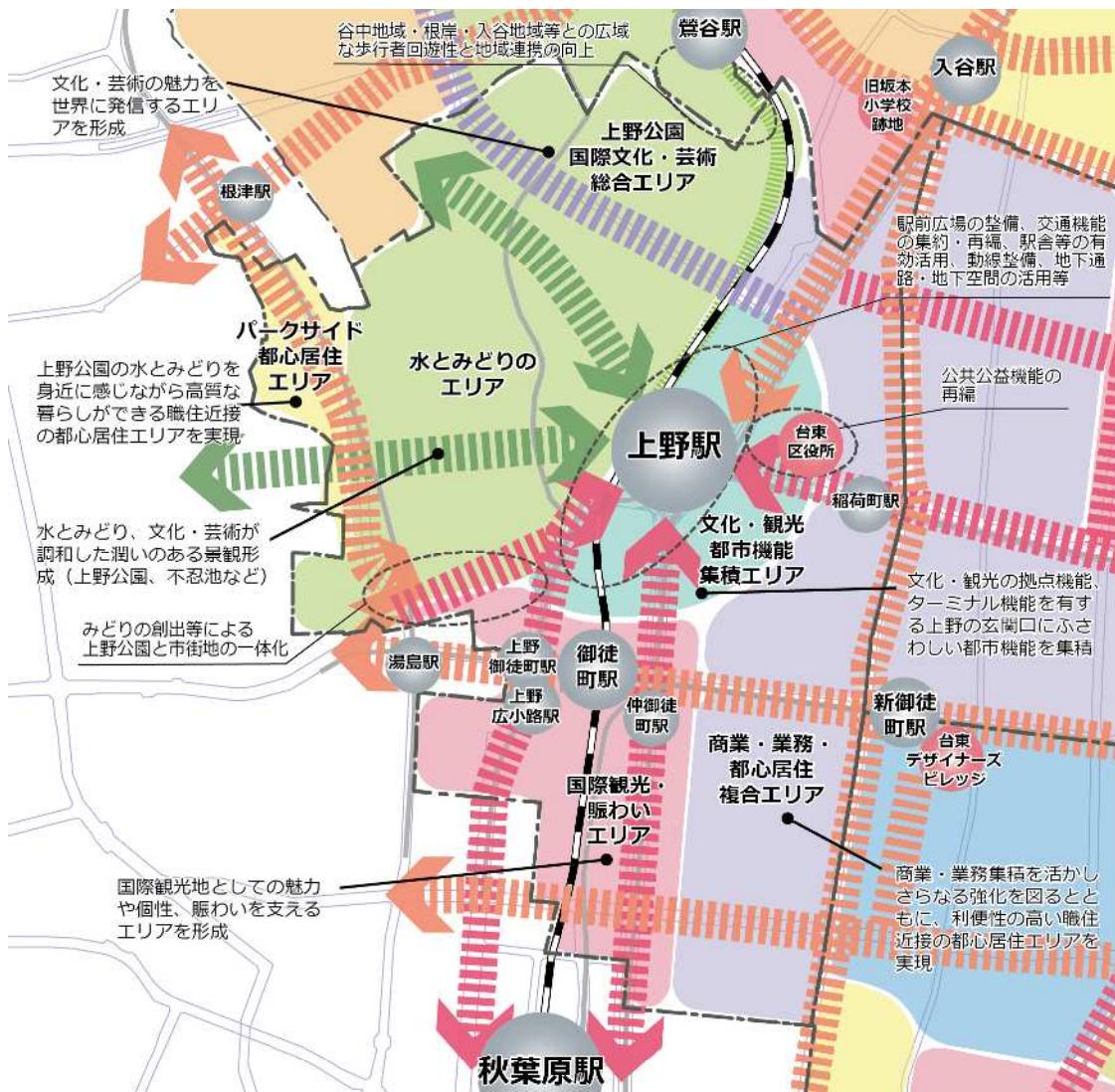
## ②防災活動拠点の充実と地域の事業継続性の向上

- 防災活動拠点機能を充実するとともに、業務集積地における災害時エネルギー確保について検討し、災害時にもまちの主要機能や中核となる事業が継続できるまちづくりを推進する。

## ③地域全体の総合的な防災性の向上

- 旧耐震基準で建築された建物が集積するエリアや幹線道路沿いでは建物の更新や耐震化を促進する。
- 建物の不燃化・耐震化の推進やコミュニティ等の強化を進め、地域全体の総合的な防災性の向上を図る。

## ■上野地域まちづくり方針図



## 【エリアの分類】

- 上野公園国際文化・芸術総合エリア  
ア及び水とみどりのエリア
  - 文化・観光・都市機能集積エリア
  - 国際観光・賑わいエリア
  - 商業・業務・都心居住複合エリア
  - パークサイド都心居住エリア

## 【みちの分類】

-  観光・賑わいのみち
  -  生活・文化のみち
  -  生活・賑わいのみち
  -  みどり・歴史のみち

### 【駅と施設等の分類】

-  鉄道駅  
 主な公共施設

## 【一般】

-

## 2 谷中地域

### ■地域の成り立ち

#### 歴史的形成経緯(地域別歴史)

～江戸時代	上野の山に寛永寺が建立され、その後、神田寺町から多くの寺院が移転し、現在の寺町が形成された。
明治～戦前	1844年に開設された谷中墓地は後に谷中霊園となり、上野公園からつながる広大な緑地空間が形成された。
戦後	震災や戦災を免れ、懐かしい風景、狭い路地、寺社と低層の街並み等が調和し、地域の魅力をつくり出した。坂が多く、中でも「夕やけだんだん」は、坂からの景色が個性的な地域資源の一つとなっている。
現在	良好な住環境を守るコミュニティ活動も活発である。一方、狭い路地と低層の街並みがゆえに、防災面に喫緊の課題がある。

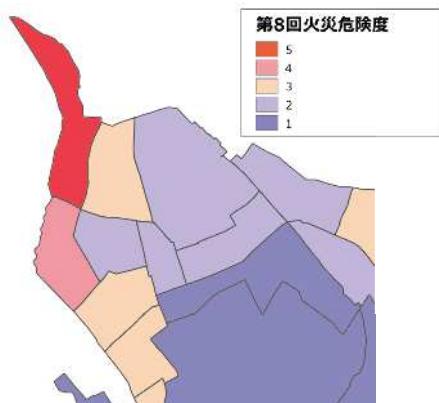


### ■まちづくりのトピック

#### 総合的な防災性の向上

- 火災危険度が高い地域が一部存在し、市街地の安全性確保が求められる。
- 谷中二・三・五丁目地区密集住宅市街地整備促進事業や不燃化特区関連事業が実施されている。

火災危険度



出典：地震に関する地域危険度測定調査（平成 年度）より  
作成

#### 閑静な住環境、独立住宅主体の土地利用

- 広範囲にわたり閑静な住環境が保たれ、独立住宅を中心とした落ち着きのある住宅街が形成されている。



### 寺町の雰囲気、低層主体の街並み

- 寺社や文化財等の歴史・文化資源が多く、路地や坂と相まって、まちの特徴的な景観となっている。
- 寺社と低層住宅を中心とした、低層主体の街並みが形成されている。



### 寺社林・谷中霊園の存在と上野公園との連携

- 寺社林と谷中霊園があり、緑被率が高いため、住宅街周辺で身近にみどりを感じることができる。
- みどりの拠点である上野公園と隣接していることから、連携が求められている。



### ■谷中地域の将来像

歴史・みどりを引き継いだ  
生活・文化を大切にするまち

歴史・文化・自然の中で人びとが交流する生活・文化調和ゾーンが形成されるとともに、地域の歴史を引き継いだ、防災性の高いまちづくりが実現されています。

まちの至るところで広い空と豊かなみどりを感じられ、暮らしやすい居住環境、歩いて暮らせる道路環境が実現されています。

## ■谷中地域まちづくり方針

### (1) 歴史・文化・自然の中で人びとが交流する生活・文化調和ゾーンの形成

#### ①生活・文化調和ゾーンの形成

- 歴史、文化、みどりの資産や地域の歴史を伝える建物、寺町としての情緒、商店街、路地、坂などの特色を保存・活用し、個性ある生活スタイルを支える生活・文化調和ゾーンを形成する。
- 谷中銀座、よみせ通り、谷中三崎坂等は、個性ある商店街として環境整備を進め、まち歩き観光への対応を図る。

### (2) 地域の歴史を引き継いだ防災性の高いまちづくりの推進

#### ①建物の更新等による防災性の向上

- 防災上の課題のある地区では、路地空間などの街並みを活かしながら、建物の更新や共同化、不燃化特区事業による集中的な整備を進め、地域全体の防災性向上を図る。
- まちの防災性向上に資するオープンスペースの確保を図る。
- 敷地の細分化防止及び最低敷地面積の設定等により、防災性の向上を図る。

#### ②道路整備とあわせた防災性の向上

- 路地空間等の情緒ある街並みを活かしながら、必要に応じて防災活動空間の確保を目的とした道路の拡幅整備や、沿道での建替え等とあわせた一体的な道路整備に取り組むとともに、無電柱化を推進し、防災性の向上を図る。

### (3) 広い空と豊かなみどりを感じることができる景観誘導

#### ①景観に配慮したまちづくりの推進

- 低層の街並みを守るゾーンを基本としつつ、一部中高層化を許容するゾーンを区分するなど、景観に配慮したまちづくりを進める。
- 道路や沿道建物等における色彩や照明、デザインなど、沿道空間が一体となった落ち着きと魅力のある景観を形成する。
- 祭りの舞台にふさわしい沿道景観の形成に努め、日常から風情を感じる空間づくりを推進する。

#### ②みどりの保全と緑化の推進

- 谷中霊園や既存の公園のみどりについては、まちの魅力を創出する資源として保全を図る。
- 寺町の風情を感じる空間として、寺社や民地内の樹林の保全や、上野台地崖線のみどりの保全・創出を図る。
- 既存のみどりを保全するとともに、沿道緑化を推進する。

## (4) 暮らしやすい居住環境の維持・保全

### ①良質な居住環境の維持

- みどりや路地空間の残る低層住宅を基本とした落ち着いた街並みの維持や、生活と観光の調和により暮らしを大事にする居住環境を維持する。
- 住環境に配慮しつつ小規模の生活利便施設の立地を誘導する。

### ②多様な住まいの維持・保全・活用

- 防災性の向上が図られる既存ストックの活用などにより、多様な世代が住み続けられるまちを目指す。

## (5) 歩いて暮らす谷中の特性を考慮した道路整備

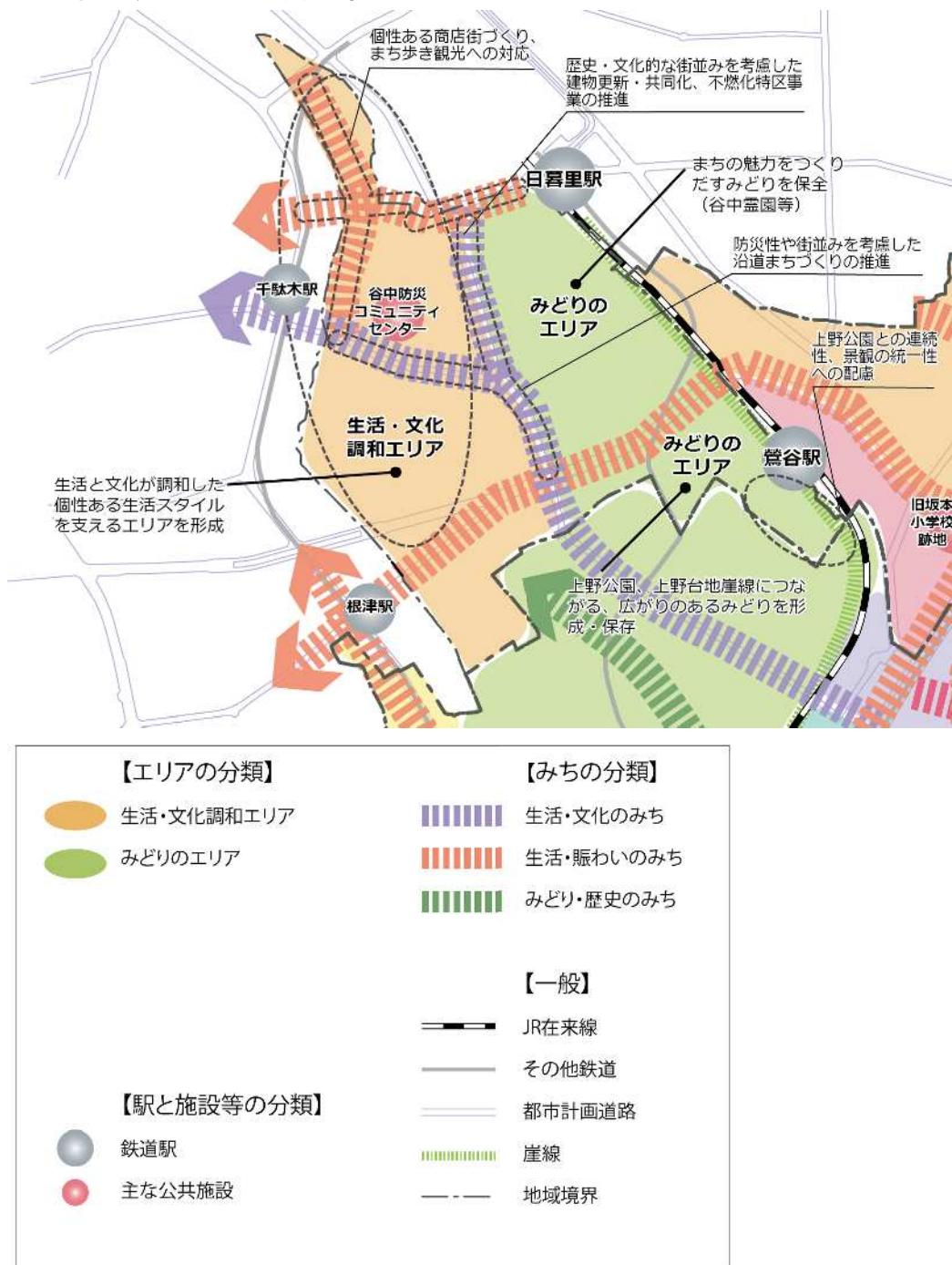
### ①歩行者中心のまちづくりの推進

- 「区部における都市計画道路の整備方針」において都市計画の廃止の方向性が示された補助2号線、補助18号線、補助188号線を含む周辺地区では、防災性や街並みを考慮したまちづくりを進める。
- 「区部における都市計画道路の整備方針」において道路整備の実現に向けて検討を行うとされた環状3号線、補助95号線は、沿道のまちづくりや環境等を考慮し、必要とされる道路機能を発揮する整備形態の検討を進める。
- 自動車通過交通の進入抑制、車両の速度低減等により、住民、観光客が安心して楽しみながら行動できる歩行者主体の道路づくりを進める。

### ②歩行者ネットワークの充実

- 快適で歩きたくなる歩行者空間を形成するとともに、地域内に多い寺社のみどりや歴史ある文化資源を結ぶ歩行者ネットワークを充実させ、人びとの交流促進を図る。
- 上野公園、根津・千駄木地域等の隣接地域との歩行者ネットワークを充実させ、道路空間の再編や街並みの整備を推進する。

## ■谷中地域まちづくり方針図





### 3 浅草・中部地域

#### ■地域の成り立ち

##### 歴史的形成経緯(地域別歴史)

～江戸時代	浅草寺を中心として発展し、庶民の行楽街、繁華街として栄えた。浅草寺周辺の南側は、町屋と寺院が多く寺町が形成され、職人も多く居住していた。北側は浅草田圃と呼ばれる田園地帯が広がり、吉原の移転や猿若三座の芝居興行等により独自の文化が開花した。	江戸期の町割りによる都市構造
明治～戦前	凌雲閣や六区等の歓楽街が出現し、娯楽・芸能の中心として現在にも受け継がれている。大正時代には、西側に道具商、古物商の街が形成された。	 凡例 ■ 寺社地 □ 武家屋敷 ■ 町人地 ■ 大構地（町人地） ■ 開米蔵・税御蔵 ■ 農村地 — 境引
戦後～現在	江戸時代から引き継いできた文化を基礎に、伝統的な祭や行事が年間を通して開催されている。江戸の面影が色濃く残る庶民的な行楽地として、国際観光地の地位を築き上げた。居住地としては、つくばエクスプレス開業により都心回帰が進んでいる。	

#### ■まちづくりのトピック

##### 国際観光拠点の形成

- 浅草寺とその周辺は、日本を代表する国際観光拠点となっている。
- 豊かな文化、伝統、文化を有し、四季折々の多彩な祭りなど、観光資源が豊富に存在し、広域的な商業エリアが形成されている。



出典：浅草寺

##### 地域の安全性向上

- 地域と行政が一体となり、区民のみならず、来街者も含めた帰宅困難者対策が求められる。
- 買物客や外国人等が災害時に適切な行動を行えるよう、平常時から備えておく必要がある。



観光時の災害緊急避難マップ  
出典：浅草観光連盟

### 隅田川と船着場の存在

- 東側の隅田川は、貴重な水辺空間となっている。
- 浅草駅周辺には、台東区立浅草東参道二天門防災船着場、桜橋防災船着場等の防災船着場が存在する。



### 浅草寺周辺の景観

- 浅草寺を中心に寺社や観光資源が多く存在し、江戸の風情が感じられる街並みが形成されている。
- 地元主体での景観形成の取組みが活発に行われている。



## ■浅草・中部地域の将来像

### 歴史・文化を育み 新たな賑わいを創造するまち

国際観光都市浅草にふさわしいまち、防災性の高いまちが実現されるとともに、伝統ある文化を活かした活気と賑わいのある商業空間、歴史・文化にふれ賑わいが広がる歩行者ネットワークが形成されています。

隅田川を基調とした親水性の高い環境や江戸から続く歴史の風情を感じる街並みが形成され、魅力の高い都市景観が形成されています。

観光や商業、居住等の機能が共生するまちが実現されています。

## ■浅草・中部地域まちづくり方針

### (1) 国際観光都市浅草にふさわしいまちづくりの推進

#### ①国際観光拠点の形成

- 歴史と観光資源、商業地の活力、隅田川の水辺空間等を活かした国際観光拠点の形成を図る。
- 浅草寺周辺の景観に配慮した街並みを検討し、観光地にふさわしい風格ある景観形成を進める。
- 隅田川の舟運の充実、新たなルートの設定を検討する。

#### ②国際観光都市にふさわしい環境整備

- 東武浅草駅のターミナル性向上、東京メトロ浅草駅と都営浅草駅を相互に結ぶ動線整備、バリアフリー化などにより、乗り換え利便性の向上、交通結節機能の充実を図る。
- 団体観光客用のバス対策を総合的に推進する。

### (2) 防災性の高いまちづくり

#### ①一時滞留者対策と避難動線の整備

- 浅草駅や浅草寺周辺では、観光案内の充実を図るとともに、観光客や外国人居住者向けのわかりやすい防災情報提供や一時滞留場所の充実など観光客・来街者を対象とした災害対策を推進する。
- 広域避難場所である隅田公園や上野公園への避難動線の分かりやすさ、視認性の向上を図る。

#### ②建物の更新の誘導等による防災性の向上

- 地域全体で旧耐震基準によって建築された建物等の更新を誘導し、特に幹線道路沿いの耐震化を促進する。
- 建物の不燃化・耐震化、コミュニティの強化を進め、総合的な防災性の向上を図る。

### (3) 伝統ある文化を活かした活気と賑わいのある商業空間の整備

#### ①商業集積と商店街の賑わい創出

- 仲見世、かっぱ橋道具街等の個性的な商店街の商業集積を活かし、商店街の賑わいの連續性を充実させる。

#### ②商業空間の魅力向上に資する環境整備

- 祭りや行事の舞台にふさわしい通りや広場の景観形成につとめ、日常から祭りや行事の賑わいや風情を感じる空間づくりを推進する。
- 駐車需要に対応した駐車場や自転車等駐車場を整備し、商業地における荷捌きのルールについて検討する。

## (4) 歴史・文化にふれ賑わいが広がる歩行者ネットワークの形成

### ①歩行者空間の充実

- 駅、浅草寺周辺、隅田川、隅田公園、商店街等を回遊できる歩行者空間の充実、オープンスペースの設置等により、歩行者ネットワークの充実を図る。
- 浅草通り、かっぱ橋本通りは、上野地域との公園周辺と浅草寺・隅田川を結び、賑わいの連続性を高める歩行者中心の空間形成を図る。

### ②賑わいの周辺地域への波及

- 浅草・中部地域の賑わいを周辺地域（北部地域等）に広げる歩行者ネットワークの充実を図る。

### ③周辺地域との連携

- 隅田川対岸の地域のまちづくりと連携を図る。

## (5) 隅田川を基調とした景観形成と親水性の向上

### ①隅田川の親水性の向上

- 親水テラス及び防災船着場の活用、規制緩和や民間による水辺空間の活用などにより、賑わい創出及び魅力向上を図り、まちとの連続性を確保する。

### ②隅田川と調和したまちづくりの推進

- 隅田川からの眺望の確保、川と調和した川沿いの建物の景観形成を図る。
- まちづくりや建物の更新にあわせたスーパー堤防の整備により、広域的な防災性向上を図る。

### ③対岸地域とのまちづくりの連携

- 墨田区など対岸地域とのまちづくりの連携を図り、一体性のある空間を整備する。

## (6) 江戸から続く歴史の風情を感じる街並みの形成

### ①歴史・文化資源や風情を活かした街並みの形成

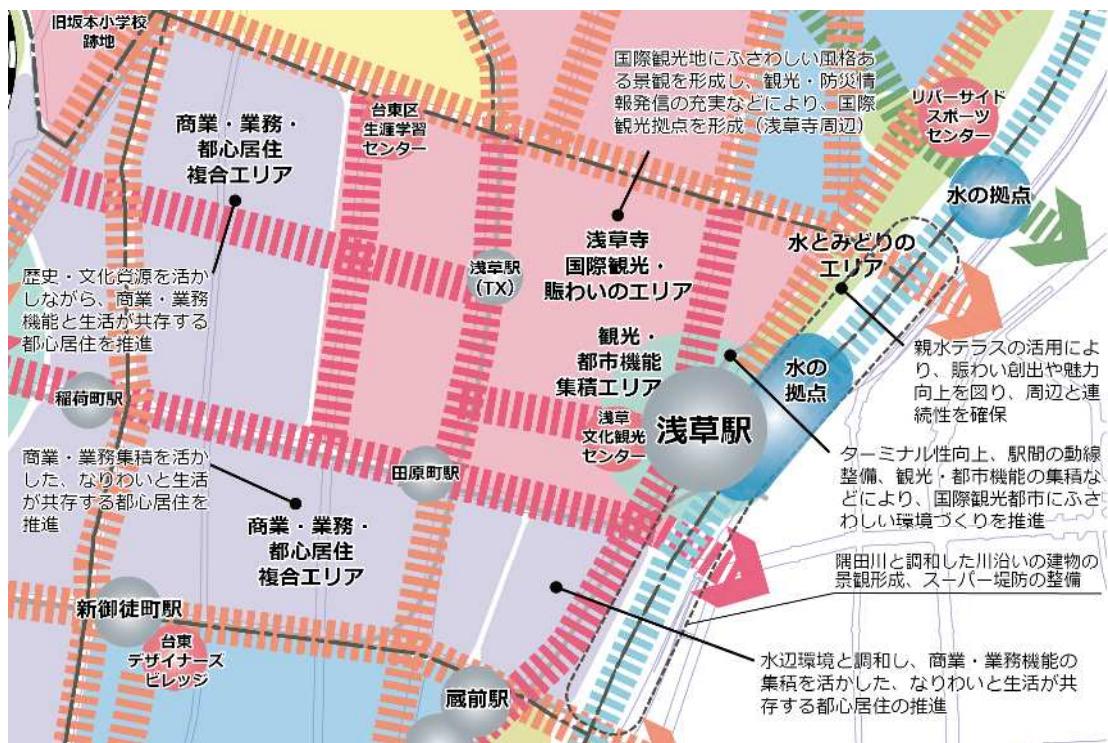
- 浅草寺・浅草駅周辺は、歴史・文化や祭りなどの風情を感じられる街並みを形成するとともに、浅草寺の景観に配慮した街並みを形成する。
- 幹線道路沿いは、街並みの調和やまちの連続性を確保し、地域の顔となる景観を形成する。
- 中高層化を許容するゾーンと街並みを守るゾーンとを区分するなど、景観に配慮したまちづくりを推進する。

## (7) 観光や商業、居住等の機能が共生するまちづくりの推進

### ①機能が共生する活力あるまちづくりの推進

- 浅草通りや春日通りなど幹線道路沿いやかっぱ橋道具街では、商業や店舗、住宅などの複合地として、賑わいの連続性や地域の活力を支えるまちづくりを推進する。
- 国際観光拠点となる浅草寺・浅草駅周辺や幹線道路沿道以外の地域では、歴史・文化資源や寺社等のみどり、街並みを活かしながら、快適で生活利便性の高い住環境を形成し、職住近接を推進する。

## ■浅草・中部地域まちづくり方針図



## 4 根岸・入谷地域

### ■地域の成り立ち

#### 歴史的形成経緯(地域別歴史)

～江戸時代	古くは入谷田圃と呼ばれ、朝顔の鉢植え栽培により、朝顔の市がたつようになった。江戸中期には、寺院や商人の寮、文人墨客の隠居所が増えた。三ノ輪は、奥州街道の江戸の玄関口の一つとして栄えた。	江戸期の町割りによる都市構造
明治～戦前	風雅の歴史を受け継がれ、この地に住む文人による「根岸派」という文学活動が行われた。朝顔市を見物したあと根岸の名物を味わう庶民の楽しみが生まれた。家具職人が多く住み、竜泉あたりには、大商人の別宅が多く見られた。	
戦後～現在	現在は道路沿いを中心に、建物の高層化が進んでいる。また、震災・戦災を免れた地域の防災強化のみならず、水害を防ぐ基盤整備が必要とされている。	

### ■まちづくりのトピック

#### 大規模区有地の存在

- 大規模区有地として旧坂本小学校跡地があり、今後活用の検討が求められる。



#### 閑静な住宅街と集合住宅エリアの共存

- 根岸エリアは、歴史ある文化資源を有し、低層中心の閑静な住環境が形成されている。
- 昭和通りなど幹線道路沿道では、近年集合住宅が増加している。
- 上野に近く、鶯谷駅、入谷駅、三ノ輪駅の3駅が利用可能であるため、交通利便性が高い。



### 上野公園との近接性・連携

- 鶯谷駅周辺は、上野公園の北側と隣接し、上野公園の北側の玄関口の機能が期待される。
- 上野公園とのつながりを意識したまちづくりが求められる。



### 宿泊施設の集積

- 鶯谷駅周辺には、宿泊施設を含む商業機能が集積している。



### ■根岸・入谷地域の将来像

歴史や文化の風情を感じながら暮らすまち

閑静で落ち着いた生活圏とそれを支える地域拠点が形成され、快適で利便性の高い生活環境が実現されます。

地域資源や宿泊機能を有する地域では、来街者の受入れ機能が強化されています。

高い防火性、落ち着いた風情が両立するまちが実現されるとともに、寺社や文化資源を巡る歩行者ネットワーク、みどり豊かな環境が形成されています。

## ■根岸・入谷地域まちづくり方針

### (1) 閑静で落ち着いた生活圏とそれを支える地域拠点の形成

#### ①閑静で落ち着いた生活圏の形成

- 住居系の地域では、歴史ある文化資源を活かしながら、みどりや路地空間の残る低層主体の土地利用を図り、閑静で落ち着いた生活圏を形成する。
- 比較的幅員の広い道路の沿道では、周辺の市街地環境に配慮した街並みの誘導や沿道緑化等により、景観に配慮した沿道整備を図る。
- オープンスペース等における身近に感じるみどりの創出、歴史や伝統等の文化を活かした街並みの整備等により、質の高い生活空間を形成する。

#### ②コミュニティの核となる地域拠点の形成

- 旧坂本小学校跡地の活用により、多様なコミュニティを支える生活・交流拠点を形成する。

### (2) 快適で利便性の高い生活環境の整備

#### ①生活利便性の向上

- 三ノ輪駅・入谷駅周辺では生活を支える機能を誘導し、地域の生活利便性向上を支えるエリアを形成する。
- 金美館通りの活性化により、近隣住民の生活利便性向上を図るとともに、歩行者が楽しめる空間を整備する。

#### ②魅力的な市街地環境の創出

- 昭和通りの東側では、建物の建替えとあわせたオープンスペースやみどりの創出を図り、魅力的な生活環境を整備する。
- 駅周辺の歩行者空間の確保や駐輪対策等により、快適な市街地を形成する。

### (3) 来街者の受入れ機能の向上

#### ①鶯谷駅の駅前空間整備

- 駅前空間の整備により、地域や上野公園の玄関口にふさわしい空間を整備する。
- 高低差のある上野公園と市街地を結ぶ歩行者の移動を改善するため、バリアフリー化をより一層進めるとともに、上野公園と連携した鶯谷駅周辺の整備を進める。
- 上野台地の斜面等のみどりの保全や充実を図る。

#### ②来街者の受入れ機能の強化

- 地域固有の資源の活用により多くの人々を惹きつけるとともに、賑わい・商業機能等、来街者を受け入れる機能を誘導する。
- 駅周辺の宿泊機能の再編・拡充を図り、多くの来街者を受け入れる拠点を形成するとともに、地域の魅力向上を図る。

## (4) 防火性向上と落ち着いた風情が両立するまちの形成

### ①地域の防災性向上

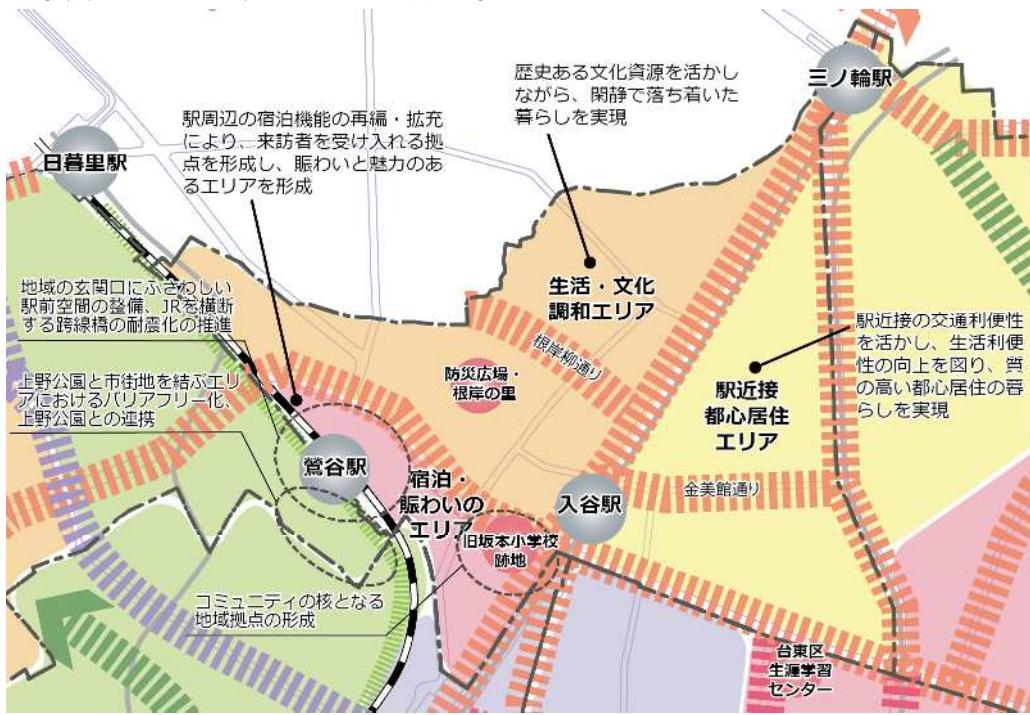
- 路地空間などの街並みを活かしながら、建築物の耐震化・不燃化の推進、狭あい道路の拡幅等により地域全体の防災性の向上を図る。
- JR線路を横断する跨線橋の耐震性確保等、広域避難場所である上野公園への避難経路を確保する。
- 主要幹線道路沿いでは周辺の市街地環境に配慮した街並みの誘導や沿道緑化等を図りながら、建物の耐震化を促進する。

## (5) 寺社や文化資源を巡る歩行者ネットワークの充実とみどりの創出

### ①歩行者空間の整備とみどりの創出

- オープンスペース等の整備、サインの設置、地域特性を活かした植栽等により、地域内に点在する寺社や祭事が開催される名所・旧跡、文化資源等を巡る歩行者ネットワークの充実を図る。
- 根岸柳通り沿道では、良好な街並みを形成するとともに、東西方向の歩行者の軸を形成する。

## ■根岸・入谷地域まちづくり方針図



【エリアの分類】	【みちの分類】
● 生活・文化調和エリア	■■■■■ 生活・賑わいのみち
● 駅近接都心居住エリア	■■■■■ 生活・文化のみち
● 宿泊・賑わいのエリア	■■■■■ みどり・歴史のみち

【駅と施設等の分類】	【一般】
● 鉄道駅	— JR在来線
● 主な公共施設	— その他鉄道
	— 都市計画道路
	■■■■■ 崖線
	— 地域境界



## 5 北部地域

### ■ 地域の成り立ち

#### 歴史的形成経緯(地域別歴史)

～江戸時代	浅草寺の北側には猿若三座があり、江戸随一の芝居興行街となっていた。橋場から今戸にかけての川岸には渡船場があり、日本堤周辺は日本堤と呼ばれる堤防があったように水害の危険にさらされた地域であった。奥州街道と日光街道の江戸への入口としての役割を担っていた。	江戸期の町割りによる都市構造  凡例 ■ 寺社地 □ 武家屋敷 ■ 町人地 ■ 大祇地（町人地） ■ 御米蔵・柳御蔵 ■ 農村地 — 墓引
明治～戦前	多くの安宿や長屋が立地していた。	
戦後	戦後から高度経済成長期にかけて、簡易宿泊所の存在と労働力需要を背景に、仕事を求める人が集まってきた。皮革産業の町工場が集積し、職住近接の街として栄えた。	
現在	産業構造の変化、労働需要の減少等により、活気が失われつつある。しかし、隣接する白鬚西地区市街地再開発事業やつくばエクスプレス南千住駅開業等により、転換期を迎えている。	

### ■ まちづくりのトピック

#### 大規模区有地の存在

- 大規模区有地として旧東京北部小包集中局跡地があり、今後地域の活力向上に資する拠点形成が求められる。



#### 皮革産業を中心としたものづくり

- 今戸・橋場地域は、皮革製品製造を中心とする産業の集積がある。
- 地場産業などの産業振興の拠点となる浅草ものづくり工房がある。



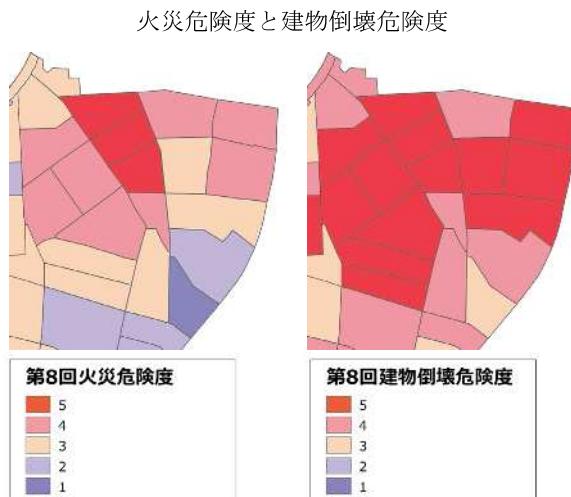
## 生活利便性

- 商店街の衰退がみられるエリアがあり、商店街の活性化を含めた生活利便性の向上が求められる。
- 近隣地域に比べて鉄道駅が遠く、交通利便性が低いエリアが存在する。



## 防災性

- 火災危険度、建物倒壊危険度が高いエリアが含まれており、特に両方とも危険度5になっているエリアが存在する。



出典：地震に関する地域危険度測定調査（平成 年度）より  
作成

## ■北部地域の将来像

人びとが共生し  
住み働き続けられる便利なまち

地域全体の生活利便性を向上させる地域拠点が形成され、地域内外において回遊性が高く、都市機能が充実したまちが実現されています。

地域の個性を活かした賑わいが生まれ、地域コミュニティを大切にする住みやすい生活圏が形成されています。

防災性の高いまちが実現されるとともに、浅草との連続性を確保するみどりがあふれるネットワークが形成されています。

## ■北部地域まちづくり方針

### (1) 地域拠点の形成と地域内外の回遊性向上による総合的な都市機能の向上

#### ①地域拠点の形成

- 旧東京北部小包集中局跡地を活用して官民連携により賑わい・交流の場を創出する。
- リバーサイドスポーツセンター屋外施設及び周辺環境の整備により、健康まちづくりに資する拠点性、周辺地域との回遊性の向上を図る。
- 隅田川の舟運の新たなルートの設定を検討する。

#### ②新たな交通機能の導入検討

- 北部地域の交通利便性を向上させるとともに、国内外から人を呼び込み広域的な連携を図るため、新たな交通機能の導入を検討する。

#### ③対岸地域との連携

- 隅田川対岸の地域のまちづくりと連携を図る。

### (2) 地域の個性を活かした賑わいの創出

#### ①産業強化等地域の特性を活かしたまちづくりの推進

- 皮革産業等の地場産業については、官民の連携により時代のニーズに合った企画・販売促進、人材育成、イメージブランディング等の施策と連携したまちづくりを進め、地域の活力向上を図る。
- 伝統産業や新たな産業を支える場として、「浅草ものづくり工房」等を有効活用する。

#### ②防災性向上前提の既存ストックを活用したまちづくりの推進

- 商店街を中心とした既存建物のアトリエ店舗への改修など、既存ストックの有効活用・機能転換等によるまちづくりを推進する。
- 労働者の減少・高齢化、外国人観光客等の宿泊需要の増加等を踏まえ、宿泊施設の更新や転換を推進する。

### (3) 地域コミュニティを大切にする住みやすい生活圏の形成

#### ①安全で快適で住みやすい生活圏の形成

- 商店街の活性化や、生活利便施設の誘導により、生活利便性の向上を図る。
- 都市計画道路の未整備区間の整備を推進するとともに、自動車や自転車、歩行者が分離された安全で快適な歩行空間を確保する。
- 山谷地域については、これまで取り組んできた環境衛生等の地域環境改善対策や就労対策、福祉・保健衛生対策等、引き続き総合的に推進する。

#### ②職住近接の良質な住宅の供給

- 土手通り、吉野通り、橋場通り、明治通り等の主要な道路沿いでは、中・高層建築物への更新にあわせた、職住近接を実現する質の高い住宅の供給と住環境への誘導

を推進する。

#### ③職と住が融合した住まいの誘導

- 皮革産業等が集積する地区では、建物の更新にあわせて職と住が融合した住まいを誘導し、地域特性の活力向上を図る。

#### ④地域コミュニティの形成

- 地域住民のまちづくり活動を積極的に支援し、地域コミュニティの活性化を図るとともに、誇りと愛着がもてる地域づくりを進める。

#### ⑤緑化の推進とオープンスペースの整備

- 今戸周辺の寺社等のみどりを保全するとともに、建物の共同化建替え等にあわせてオープンスペース創出し、みどりと潤いのある空間を創出する。

### (4) 地域の防災性の向上

#### ①災害に強いまちづくりの推進

- 木造建築物が密集している火災危険度が高い地区では、建物の不燃化と狭あい道路の拡幅を促進するとともに、建物倒壊危険度が高い地区では、建物の耐震化を促進し、安全な市街地の形成を図る。

### (5) 浅草との連続性を確保するみどりがあふれるネットワークづくり

#### ①隅田川の親水性の向上

- 隅田川の親水性を向上することにより、浅草地域との連続性を確保する。
- まちづくりや建物の更新にあわせて隅田川のスーパー堤防を整備し、防災性・親水性の強化を図る。

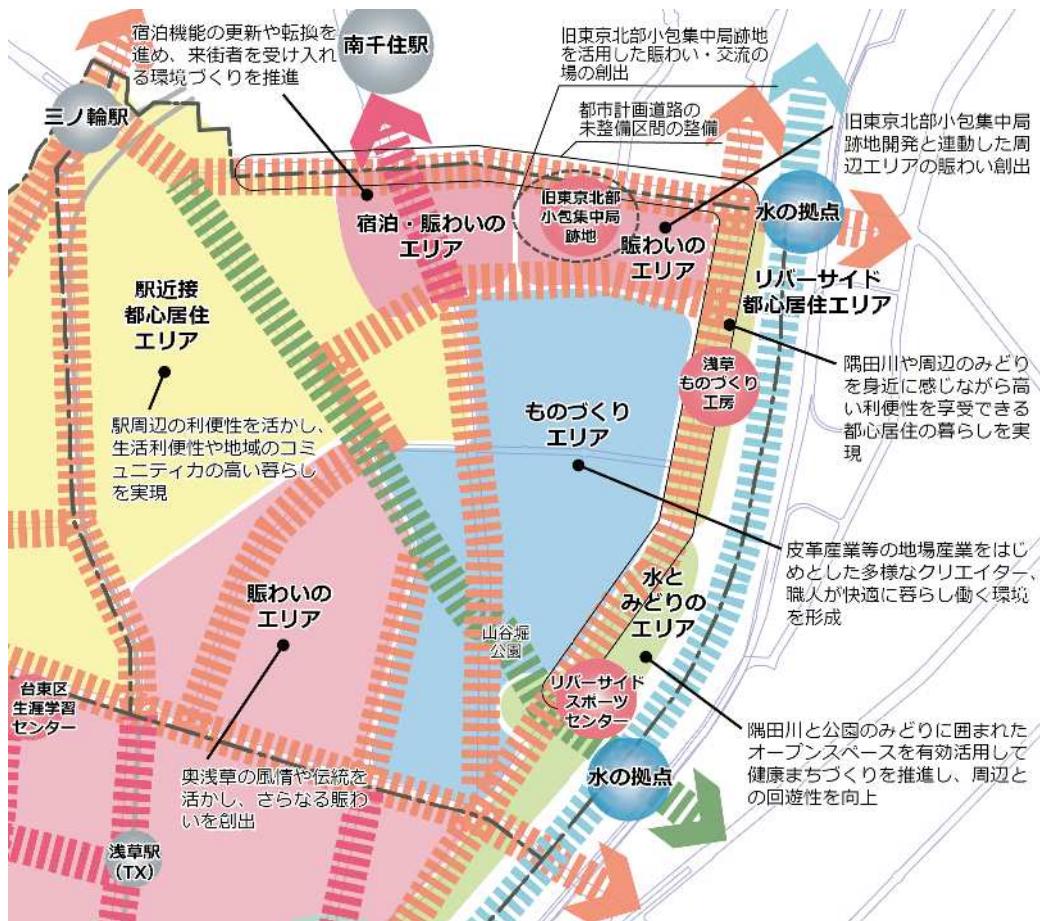
#### ②みどりに囲まれたみちづくりの推進

- 山谷堀公園から土手通りにかけては、歴史や伝統等の文化やみどりを感じる歩行者空間の整備により、風情ある地区等を結び、地域の魅力向上を図る。
- 地域の価値を高めるオープンスペースの創出により、みどりと潤いのある空間の形成を図る。

#### ③歩行者ネットワークの充実

- 駐車・駐輪スペース、荷捌きスペース等の確保により商業環境の整備を行い、浅草地域から北部地域への回遊の軸となる快適な歩行者空間を形成する。

## ■北部地域まちづくり方針図



### 【エリアの分類】

- ものづくりエリア (Manufacturing Area)
- 宿泊・賑わいのエリア及び賑わいのエリア (Stay & Activity Area and Lively Area)
- 駅近接都心居住エリア (Station Adjacent Urban Residential Area)
- リバーサイド都心居住エリア (Riverside Urban Residential Area)
- 水とみどりのエリア (Water and Green Area)

### 【みちの分類】

- 生活・賑わいのみち (Living & Activity Path)
- みどり・歴史のみち (Green & History Path)
- 水・みどりのみち (Water & Green Path)
- 観光・賑わいのみち (Tourism & Activity Path)

### 【一般】

- JR在来線 (JR Local Line)
- その他鉄道 (Other Railways)
- 都市計画道路 (Urban Planning Roads)
- 崖線 (Cliff Edge)
- 地域境界 (Regional Boundary)

### 【駅と施設等の分類】

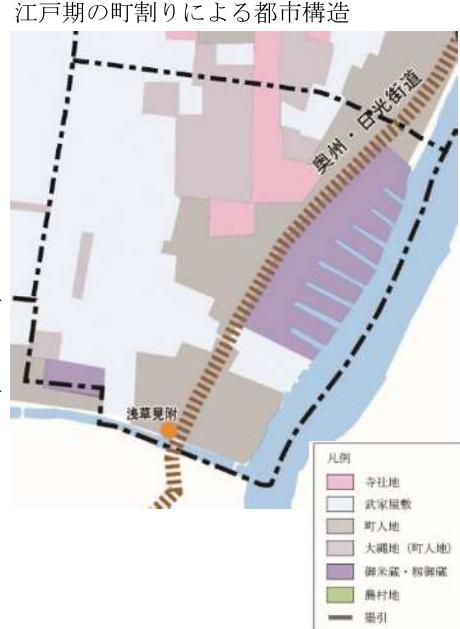
- 鉄道駅 (Railway Station)
- 主な公共施設 (Major Public Facilities)
- 水の拠点 (Water Hub)



## 6 南部地域

### ■地域の成り立ち

#### 歴史的形成経緯(地域別歴史)

～江戸時代	江戸通りは奥州街道・日光街道として栄え、浅草御門が建てられ浅草橋が架かる等、交通の要衝として発展した。文房具、玩具を中心とする問屋街及びそれに関連する町工場街が形成された。蔵前には幕府の年貢米を貯蔵する浅草御蔵があった。江戸中期には柳橋付近に花街が形成され、賑わいがあった。	 <p>江戸期の町割りによる都市構造 奥州・日光街道 浅草見附</p> <p>凡例 寺社地 武家屋敷 町人地 大商人地(町人地) 御米蔵・料御蔵 農村地 堀引</p>
明治～戦後	地域の大部分が震災・戦災の被害を受けた。おかげで横丁は震災後の市区改正を機に発展した。	
現在	江戸時代に形成された問屋街は、現在でも人形、玩具、手芸等の問屋・専門店街として受け継がれている。また、戦災を免れた一部地域では、戦前のデザイン性の高い建物が残っている。つくばエクスプレス新御徒町駅開業に伴い、高層マンションの供給が増加しており、商店街の活性化が課題となっている。	

### ■まちづくりのトピック

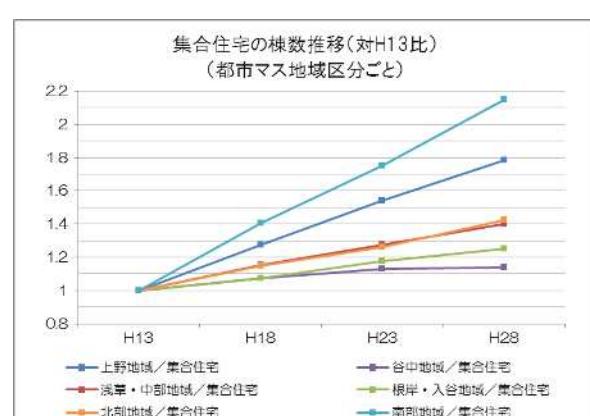
#### ものづくり

- 平成16年、台東デザイナーズビルが開設され、ファッショントリニティの創業支援施設として機能している。
- 近年は御徒町から蔵前の間（カチクラエリア）を中心に、ものづくり産業に活気がある。



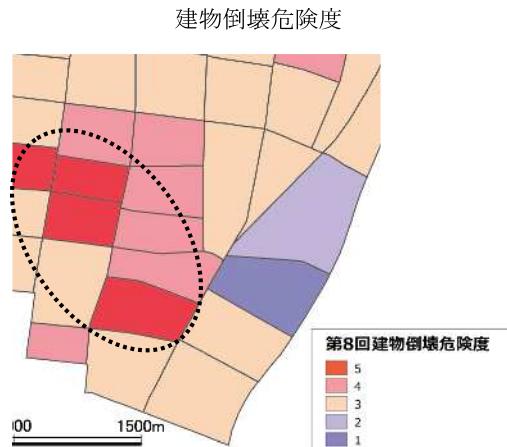
#### 集合住宅の増加、子育て世代の増加

- 近年は区内でも特に集合住宅の建設数が多く、その動向を捉えた市街地環境の形成が求められる。
- 新たな世代・子育て世代が増加しており、それに対応したまちの機能の誘導が求められる。



## 市街地の安全性

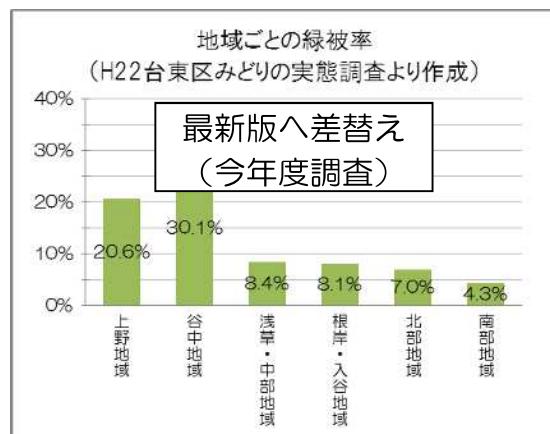
- 戦災被害が少ない鳥越・小島は、老朽建物・敷地面積の小さい建物が密集しており、建物倒壊危険度が高く、不燃領域率が低い傾向にある。



出典：地震に関する地域危険度測定調査（平成 年度）より  
作成

## みどり

- 貴重な資源である隅田川・神田川に隣接しており、水辺空間の活用や親水性の向上が求められる。
- 他の地域に比べて緑被率や1人当たりの公園面積が低く、特に緑被率は区内で最も低いため、公園等のオープンスペースの創出が求められる。



## ■南部地域の将来像

新しい職住近接スタイルを実現し、  
次なる産業や価値観を生み育てるまち

ものづくりを核とした賑わいが創出されるとともに、利便性の高い都心居住が推進され、それらが融合した新たなライフスタイルが展開されています。

地域の防災性向上や水とみどり、歴史と文化を感じる地域づくりが推進され、安全で魅力的な市街地が形成されています。

## ■南部地域まちづくり方針

### (1) ものづくりによる賑わいの創出と魅力向上

#### ①ものづくりの活性化に向けた土地利用の誘導

- 併用住宅のリニューアル等により、若い職人、デザイナー等の活動の場として活用し、産業の集積を図り、ものづくりを核とした地域の活性化を図る。
- まちの佇まいを残しながら、事務所ビルなどの既存ストックの有効活用・機能転換により、職と住が調和した住まいへの更新を誘導する。

#### ②ものづくりによるまちの魅力向上

- ファッションやザッカ、デザイン関連ビジネス分野での起業を目指すデザイナーやクリエイターを支援するため、台東デザイナーズビレッジを継続活用するとともに、店舗・作業所等の改修やアトリエ化に対する支援を行い、「ものづくり」のまちの魅力を強化・発信する。

### (2) 利便性の高い魅力的な生活環境の創出

#### ①ライフスタイルを支える土地利用

- 住宅と商業・業務の併用住宅等の複合的土地利用や生活機能の誘導により、駅への近接性や都心への近接性とあわせ、利便性の高い都心居住を推進する。
- 子育て支援機能の誘導により、子育て世代が安心して暮らせる環境を形成する。
- 地域コミュニティの強化を図り、交流を促進する。

#### ②地域のニーズに対応した商店街の活性化

- 近隣型商店街は、地域特性の活用や、多様化するニーズへの対応による活性化を推進し、地域生活を支え、コミュニティ形成に資する場として活用する。
- 商店街の建物の改築や建替えにあわせ、低層部への商店の配置等を誘導し、商店街の賑わい・連續性を確保する。

#### ③快適で魅力的な市街地環境の整備

- 増加する集合住宅建設とあわせたオープンスペースやみどりの確保により、潤いある空間形成を図る。
- 蔵前橋通り、春日通り等の幹線道路沿道では、周辺の市街地環境に配慮した街並みを誘導する。

### (3) 回遊性の向上と賑わいの創出

#### ①駅周辺の回遊性向上と賑わいの創出

- 浅草橋駅周辺では、周辺の建物の建替えにあわせて空間を整備するとともに、輻輳する交通環境の改善、高架下等の空間整備、駅前の賑わいの演出等を推進する。

○蔵前駅周辺では、乗り換えの利便性を向上するための案内標識の設置やバリアフリー化、問屋が集積するまちの個性を活かした景観形成、賑わいの誘導等により、楽しく歩ける空間づくりを推進する。

○新御徒町駅周辺では、歩行者の安全性・快適性を確保し、誰もが移動しやすい経路を整備する。

## ②地域全体における賑わいの創出

○問屋街、おかげ横丁等と周辺地域との回遊性の向上や景観の調和、まちの連續性の確保を図る。

○地場産業や地域のコミュニティなどを活かし、地域全体における新たな賑わいの創出を図る。

# (4) 地域の防災性向上

## ①建物の耐震化・不燃化の促進

○建物の共同化等により、不燃化・耐震化の促進、狭あい道路の拡幅、オープンスペースの確保等を進め、地域の防災性向上を図る。

○中小規模の事務所ビルは、防災性向上を前提とした既存ストックの活用等により、建物の性能向上を図りながら、安全性を強化する。

## ②水害対策

○神田川の氾濫や高潮等、発生が懸念される水害への対策を検討する。

# (5) 水とみどり、歴史と文化を感じる地域づくり

## ①水とみどりの活用した水辺空間の形成

○隅田川では、周辺環境と調和した川沿いの建物の景観形成を図るとともに、隅田川テラスと一緒にした水辺整備を進める。

○神田川では、舟運の活用等を推進するとともに、都市的空間の中で歴史と潤いを感じる景観形成を進める。

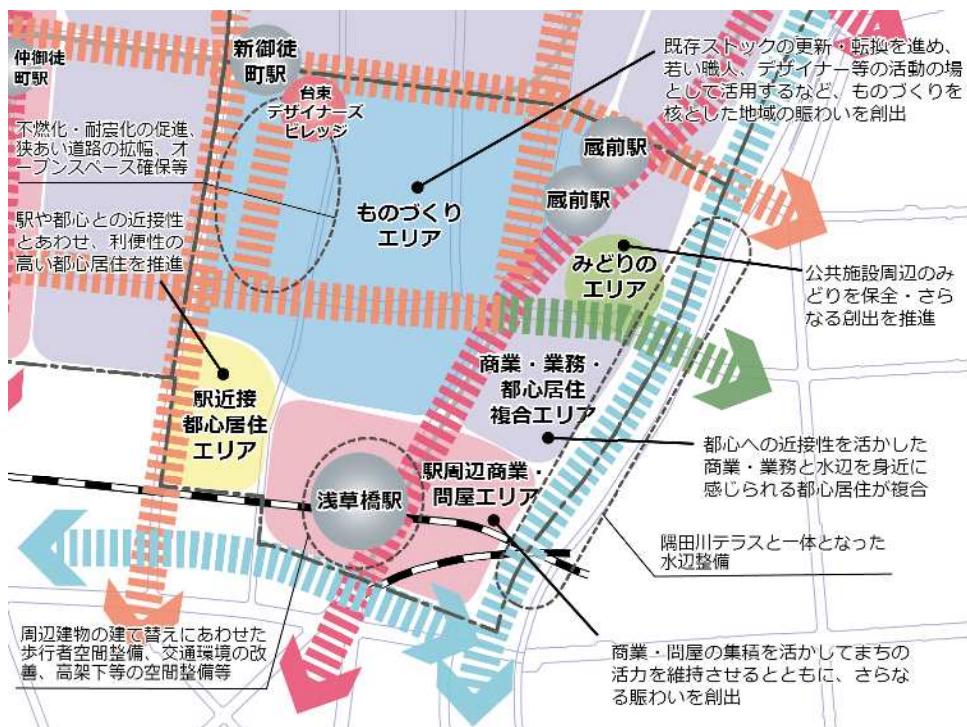
○隅田川のスーパー堤防を整備し、防災性・親水性の強化、土地の有効活用を図る。

## ②みどりや歴史と風情を感じる地域づくりの推進

○開発に応じた緑化等により、みどりあふれる地域づくりを進める。

○祭りが行われる道路等は、その舞台にふさわしい景観形成に努め、日常から風情を感じる空間づくりを推進する。

## ■南部地域まちづくり方針図



## 第6章 まちづくりの実現に向けて

1 協働によるまちづくりの推進.....	6-2
2 地域主体のまちづくりの推進.....	6-4
3 まちづくりに係る制度の積極的な活用 .....	6-6
4 まちづくりに係る情報の収集・共有 .....	6-7
5 都市計画マスターPLANの適切な運用・評価・見直し .....	6-7
6 まちづくり推進重点地区 .....	6-8
7. まちづくりの実現に向けて.....	6-11

## 1 協働によるまちづくりの推進

### (1) 協働によるまちづくりの促進

台東区は先人が築いてきたまちの成り立ちを基本に、現在のまちが形成されており、その歴史・伝統が今なお息づき、これらの個性が互いに絡み合いながら、支え合い、台東区独自の魅力と活力を生み出してきた。

一方で、人口減少・高齢化の進展により、これまでのような右肩上がりの都市づくりが困難となり、今後は区の財政状況も厳しさを増すことも予想される。また、区民や企業等がまちづくりに主体的にかかわり、自分たちのまちを自らつくることにより、ニーズに即し、まちの個性、愛着、持続するまちづくりが可能となる。

台東区に住む人、働く人、訪れる人、すべての人々が、安全安心で多様性が尊重された社会の中で、希望と活力にあふれ、いきいきと活躍している台東区の将来像の実現するためには、「自分たちのまちは自分たちの意思でつくる」ことが必要である。台東区にかかわる様々な人々や組織が協働し、それらと行政のパートナーシップにより、まちづくりに取り組んでいく。

### (2) まちづくりの主体と役割

まちづくりにおいては、市民の価値観やニーズが多様化しており、多くの異なる意見を調整し、合意形成を図りながら進めていくことが重要である。また、区民の都市づくりへの参加気運も高まってきており、法人等の新たな担い手による取り組みも活発化している。

まちづくりの主体は、様々な人々や組織が存在し、それぞれの役割を認識し、協働してまちづくりにかかわっていく。



図 まちづくりの主体

『協働によるまちづくり』を推進するためのまちづくりの主体は、つぎのような役割を担う。

#### **①居住者（区民）の役割**

○居住者は、自分の住まいのことだけでなく周辺に配慮する等自らできることを主体的に進めていくとともに、地域のまちづくりに積極的に参加し、自分たちが活動する身近な地域をより良くするための方法を地域の人たちとともに考え、行動し、まちづくりを担っていくこととする。

#### **②事業者・商店主の役割**

○民間事業者や商店主は、「台東区都市計画マスターplan」に示されたまちの将来像を実現するため、「分野別整備方針」、「地域別整備方針」の考え方を尊重し、地域貢献の視点を持ち、地域の一員としてまちづくりに積極的に参加・協力し、社会的役割を果たすものとする。

○地権者は、民間事業者と同様に「台東区都市計画マスターplan」に示された土地利用の方針と整合した土地利用を図り、地域のまちづくりに貢献していくものとする。

#### **③行政の役割**

○行政は、「台東区都市計画マスターplan」に基づいたまちづくりを推進するため、区内に必要なまちづくりの情報を提供し、地域の問題点や課題、その解決方策を提起し、区民が考えるまちづくりを進める役割を担うものとする。

○そのため、区民の視点に立ち、迅速かつ的確に課題に対応できる職員の育成を図り、弹力的で効率的かつ効果的な庁内体制を整備する。そして、総合的・横断的体制でまちづくりに取り組み、国・東京都の協力や隣接区との調整、交通管理者、鉄道事業者、さらには公的事業主体、NPO等との連携・協力を図るものとする。

#### **④研究・教育機関の役割**

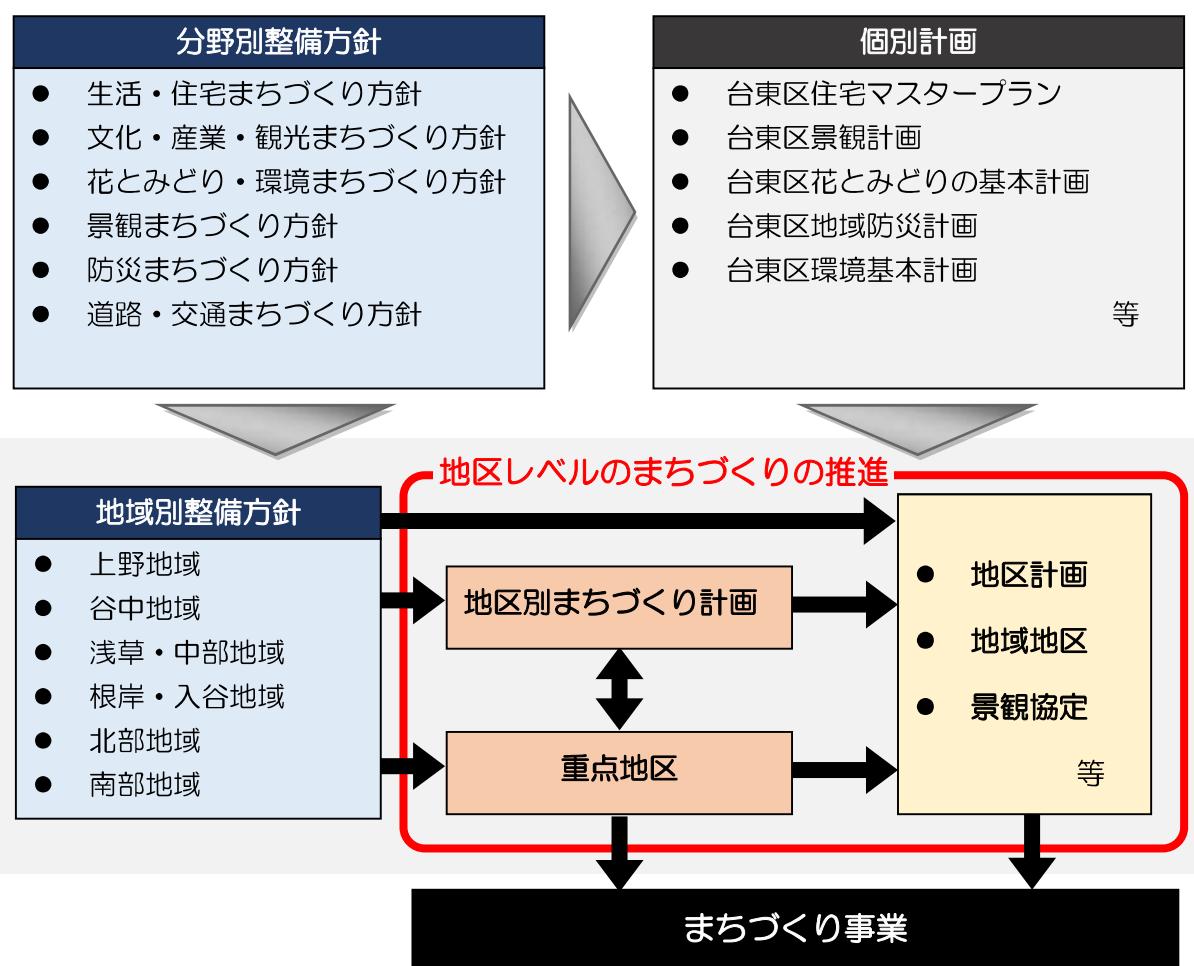
○台東区内や近隣には大学などの教育・研究機関も多く立地しており、地域とのつながりを活かした各大学の様々な教育・研究分野と連携したまちづくりを進める。また、学生や研究者に具体的な研究のフィールドを提供し、地域での教育・研究活動を通して企業や住民とは異なる視点から地域のまちづくりを促進する。

## 2 地域主体のまちづくりの推進

### (1) 地域ごとのまちづくりの推進

住む人、働く人、訪れる人にとって魅力ある持続可能なまちにするためには、それぞれの主体のニーズやまちの目指す姿を共有し、長い歴史の中で育んできた地域固有の資源を活かして、地域の様々な主体の協働によるまちづくりを進めていく。

地域主体のまちづくりを進めていくため、「台東区都市計画マスタープラン」を構成する「分野別まちづくり方針」、「地域別まちづくり方針」に基づいた各分野、地域レベルの個別計画について、区民や地域の意思を反映しながら、検討・策定する。



### (2) 地域の組織化・ルールづくりへの支援

地域主体のまちづくりを進めていくためには、区民をはじめとする地域にかかる関係者と行政のパートナーシップによる、地域の課題解決やまちづくりの具体的な取組みを協議する「まちづくり協議会」等の組織づくりを促進する。

地域のまちづくりを具体的に進めていくための手法は、望ましいまちに規制・誘導していくルールづくりや、事業を促進するための補助制度等があることから、まちづくりの目的、地域の特性にあわせて適用していく。

地域主体のまちづくりの組織づくりやルールづくりを促進するため、まちづくり組織の認定や補助など、区も支援を行っていく。

### (3) 地域からのまちづくりの提案の促進

区民等のまちづくりの取組みを都市計画に反映させる制度として、都市計画法に「都市計画提案制度」があり、これを活用した地域主体のまちづくりを進めていく。この都市計画提案制度の積極的な活用を図るとともに、区民等の意見を都市計画に反映させるため、提案や参加の手続き等について区独自の規定を定めることを検討する。

### (4) 住民・企業等による地域の主体的な取り組みによるマネジメント組織

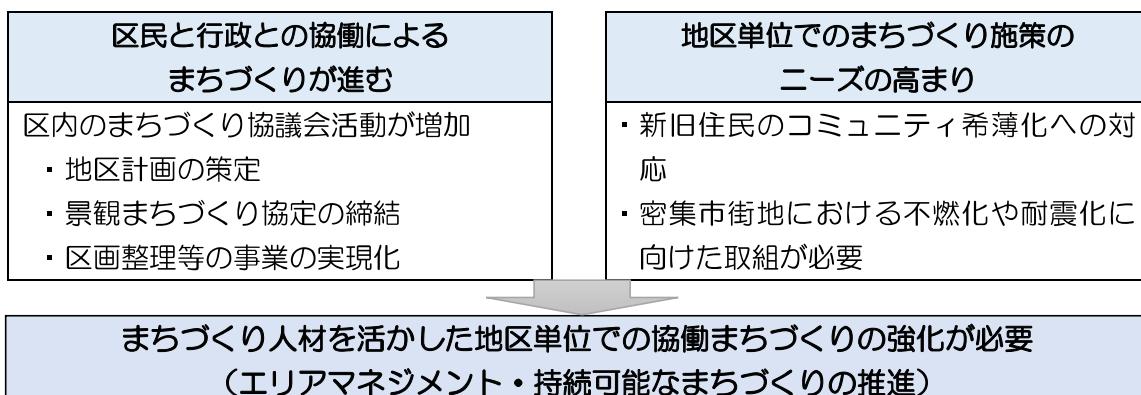
地域の魅力や住環境を向上させるための公民が連携した取り組みや、市民・NPO法人・事業者などによる主体的な取り組みを進める。

ストック（つくったもの）をいかに活用するかというマネジメント（維持管理・運営）の視点が重要であることから、地域に活力を生み出し、魅力を高めて、持続的な発展を目指す、地域マネジメント活動の展開と担い手の育成を積極的に支援する。

また、民間との協調による公共施設やインフラの整備・運営など、民間活力の活用を図るとともに、地域住民をはじめとする多様な主体の理解と協力を得ながら、公民が連携した地域マネジメントの取り組みを推進する。

#### 主な地域でのマネジメント活動の例

- 地域が主体となった防災・防犯活動などの取り組み
- 地域が経営する公園（パークマネジメント）
- 官民連携プラットフォームの設立（地域課題の解決に向け、まちに関わるさまざまな団体が連携し、統合的なまちづくりを行う公・民・学による推進体など）



### 3 まちづくりに係る制度の積極的な活用

#### (1) 都市計画制度等の積極的な活用

成熟した市街地が形成されている台東区では、現状課題の解決によるまちの更新や修復を図る手法が基本になると考えられることから、活用可能な手法として、「地区計画」、「景観協定」、「建築協定」などのルールづくりの手法や、「市街地再開発事業」、「都心共同住宅供給事業」といった共同化の事業制度があげられる。

これらのうち、地区計画については、地域の実情に応じたきめ細やかなまちづくりを進める手法であるため、台東区のまちづくりに有効な手法であると考えられ、区民自らがまちづくり意識の高揚等を図り、提案、活用できるよう進めていく。

またその他の都市計画等の制度・事業についても、地域のまちづくりの動向や将来像実現に向け、積極的な活用を図っていく。

#### (2) 個別計画・関連条例・建築指導要綱との連携

地域主体のまちづくりは、都市計画マスタープランだけでなく、関連する個別の計画や条例とも連携して進めていく。台東区では、これらの条例の他にも要綱等を制定して、適正な指導・要請を行っている。

今後は都市計画マスタープランに示す将来像の実現に向け、他の計画や条例と連携を図りながら、運用をしていく。

##### 個別計画の例

- 台東区地域防災計画
- 台東区住宅マスタープラン
- 台東区花と緑の基本計画
- 台東区景観計画
- 台東区環境基本計画

##### 関連条例

- 東京都台東区地区計画等の案の作成手続に関する条例
- 東京都台東区中高層階住居専用地区内における建築物の制限に関する条例
- 東京都台東区特別工業地区建築条例
- 東京都台東区狭あい道路拡幅整備条例
- 東京都台東区自転車の放置及び自転車駐車場等の整備に関する条例
- 東京都台東区不燃建築物促進助成条例
- 東京都台東区震災後の復興における市街地の計画的な整備に関する条例
- 東京都台東区建築協定条例
- 東京都台東区集合住宅の建築及び管理に関する条例
- 東京都台東区大規模マンション等の建設における保育所等の整備に係る事前届出等に関する条例
- 東京都台東区定住まちづくりに関する基本条例
- 東京都台東区中高層建築物の建築に係る紛争の予防と調整に関する条例
- 東京都台東区みどりの条例
- 東京都景観まちづくり条例
- 東京都台東区文化財保護条例

## 4 まちづくりに係る情報の収集・共有

### (1) 開発等の早期把握

地域主体のまちづくりを進めるとともに、大規模開発等における近隣紛争を回避し良好なまちづくりの実現につながるように、開発事業や大規模建築等にあたっての事前調整が重要である。個々の開発や建築等について、法律にもとづく申請等に先立って、区と住民がその内容を把握し、事前協議ができるよう、開発や建築等の早期把握ができるよう仕組みを検討する。

### (2) まちづくりに係る資料の充実

区民と行政がそれぞれの役割により、まちの将来を考え、まちづくりに取り組んでいくためには、区民がまちづくりの必要性を認識し、まちづくりを学んでいくことが必要である。このため、行政は区民に対して、必要となる情報を積極的に公開し、区民の意識や興味を高め、協働してまちづくりを推進する土台をつくっていくものとする。

その手段として、各種情報媒体の活用により、まちづくりの情報や基礎資料を区民に積極的に提供するとともに、「まちづくりカレッジ」等学習する機会の提供や考えるきっかけづくりを進める。また、卒業生の専門的な知識や行動を積極的に活かしていくため、まちづくり活動への支援等を行い、人材の育成を図る。

## 5 都市計画マスタープランの適切な運用・評価・見直し

まちづくりの実現に向けた各種事業の実施においては、整備期間、目標量、事業費等の具体的なプログラムの策定により、計画的に事業を推進し、行政評価における計画（ ）、実施（ ）、評価（ ）、改善（ ）というサイクルにより、施策や事業の不断の見直しを行い、これまで以上に有効性・効率性を評価し、効果的な運営を図るものとする。

## 6 まちづくり推進重点地区

### (1) まちづくり推進重点地区におけるまちづくり

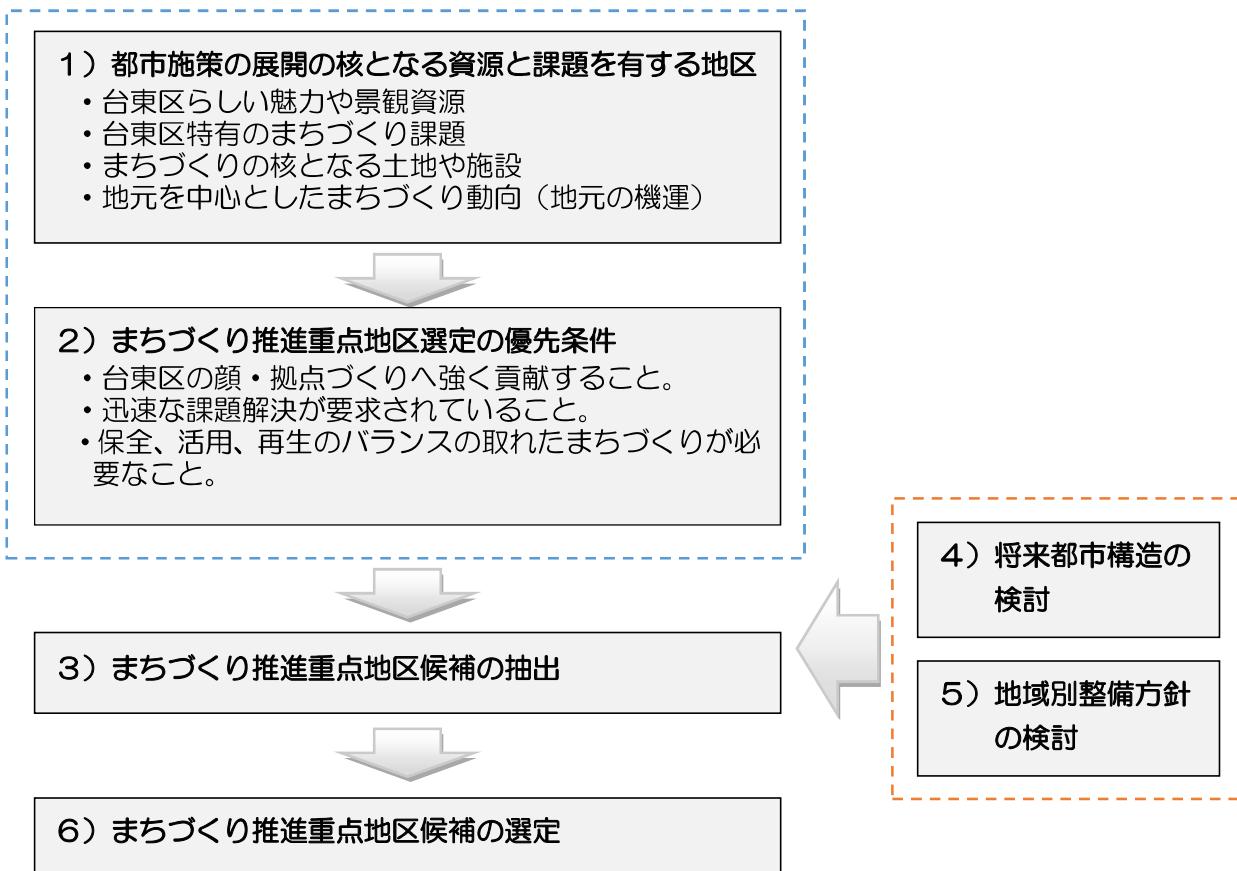
拠点性の向上やまちづくりの課題解決の必要性が高い地区として、まちづくり施策を集中的に投入する、まちづくり重点地区を設定する。これにより効果的な都市施策の実現を図るとともに、地域全体への波及効果も期待できる。

まちづくり重点地区は、将来都市構造及び地域別整備方針とも整合を図り、拠点性の向上や地域全域への波及効果が期待できる地区として位置づける。

### (2) まちづくり推進重点地区候補の選定フロー

戦略的な都市施策を実現するために、まちづくり施策を集中的に投入する重点地区を設定する。重点地区候補の選定は、下記の選定フローに従って行う。

重点地区候補の選定フロー



### (3) 重点地区候補の選定理由

選定フローに従い、重点地区候補を抽出した結果と選定理由を下表に示す。

地区名	1) 都市施策の展開の核となる 資源と課題を有する地区		2) 重点地区選定 の 優先条件
上野・御 徒町地区	資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界文化遺産を含む多様かつ高度な文化・芸術関連施設の集積</li> <li>景観形成特別地区（上野公園など）</li> <li>上野や御徒町のまちづくり機運</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>台東区の顔づくりに強く貢献</li> </ul>
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>上野公園の質向上、文化・芸術の創造発信拠点の形成</li> <li>上野公園の玄関にふさわしい上野駅の機能更新、歩行者空間の形成、交通結節機能の強化</li> <li>上野駅周辺の回遊性向上</li> <li>帰宅困難者対策、防災機能の充実</li> </ul>	
谷中地区	資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>未整備都市計画道路（言問通り（環状3号線、補助95号線））</li> <li>谷中のまちづくり機運</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不燃建て替えの促進が急務</li> </ul>
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史資源保全、居住環境と観光の調和</li> <li>建物の不燃化、避難動線の確保</li> </ul>	
浅草地区	資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>景観形成特別地区（浅草寺など）</li> <li>国際観光都市としての拠点性強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>台東区の顔づくりに強く貢献</li> </ul>
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光の拠点性強化、受入体制の充実</li> <li>浅草寺周辺の景観形成</li> <li>交通結節機能の強化</li> <li>隅田川との連携（親水テラス、舟運、防災船着場の活用）</li> </ul>	
根岸・入 谷地区	資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急輸送道路（言問通り）</li> <li>大規模用地（旧坂本小学校）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急輸送道路の沿道耐震化が急務</li> </ul>
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災性向上（緊急輸送道路沿道の耐震化等）</li> <li>鶯谷駅周辺交通基盤の整備</li> </ul>	
北部地区	資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>大規模用地（旧東京北部小包集中局）</li> <li>台東区を代表する産業集積地</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大地震に備えた不燃建替えが急務</li> </ul>
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>面的な防災性向上</li> <li>交通利便性の向上</li> <li>既存ストック更新の推進</li> <li>産業振興と連携したまちづくり</li> </ul>	
台東・小 島・鳥越 地区	資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>特色ある商店街の立地</li> <li>クリエイターの活用動向</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住環境保全、芸術活用、商店街の活性化をバランスよく推進</li> </ul>
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>不燃化、耐震化等を契機とした建物更新</li> <li>空き店舗を活用した商店街の活性化</li> </ul>	
浅草橋・ 柳橋地区	資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>景観基本軸（神田川など）</li> <li>問屋街の再生動向</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>台東区の顔づくりに強く貢献</li> <li>産業再生と景観保全</li> </ul>
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>問屋街及び高架下店舗の再生（歩行空間、商業、景観など）</li> <li>乗り換え利便性の向上</li> <li>神田川の親水性向上、景観形成</li> </ul>	

#### (4) 重点地区と重点施策

- 開発需要の高い地区

民間事業者による積極的なまちづくり参加が期待できる。

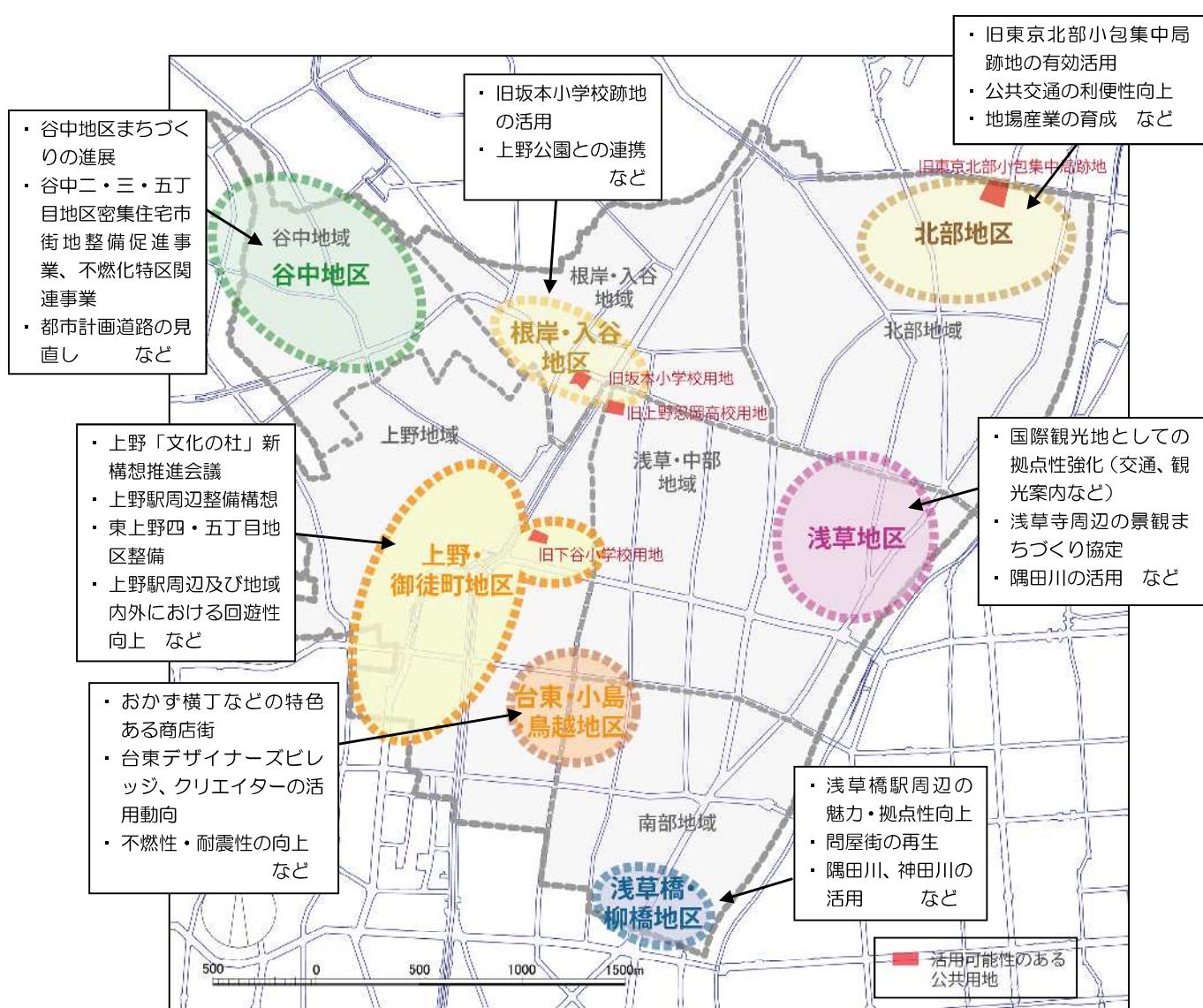
- 開発需要の低い地区

密集市街地における市街地更新や未整備都市計画道路の沿道まちづくりの場合は、**地権者**の合意形成に行政が積極的に関与しなければ、民間の参画が得られない。

まちづくりを進める地区の特性に応じて、

行政と民間のまちづくりの関与のあり方を地区ごとに構築する必要性

#### まちづくり重点地区

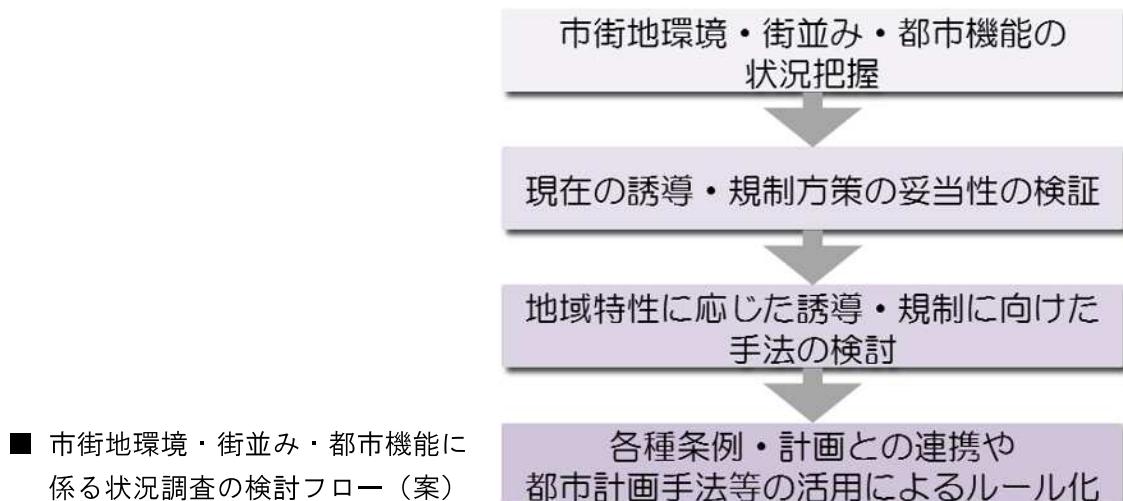


※具体的な重点施策の可能性については、地域の状況に応じて  
隨時見直していきます。

## 7. まちづくりの実現に向けて

### (1) 市街地環境・街並み・都市機能に係る状況調査の実施

よりよい市街地環境の形成や様々な機能の調和を目指し、現在のまちの状況調査を実施するとともに、今後講すべき適切な誘導・規制方策を検討する



### (2) まちづくりに係る総合的な条例の検討

以上の事項を実効性をもって運用するため、都市計画やまちづくりにおける区民等の参加の仕組みや、開発事業における調整の手続き、まちづくりの支援・組織化などについて台東区独自のまちづくり条例の策定を検討していく。

#### ■ まちづくり条例のイメージ

